

72-67
CX 2320.91
4

法令全書

閣令

○閣令第一號

火藥類鐵道運送規程中左ノ通改正ス

明治四十二年三月二十六日

第十條第一項第一號中「空襲莖雷管」ノ下ニ「爆管」ヲ加ケ

〔參照〕

逕信省令第二十六號火藥類鐵道運送規程(明治三十四年五月五十四日)抄

第十條 火藥類ハ左ノ事項ヲ具備スル場合ノ外之ヲ他(貨物トシテ車中ニ混載スルコトヲ得ス

一 小銃用安全彈藥筒(雷管若ハ爆管)ノミヲ裝着セル銃砲ノ空襲莖雷管、安全導火線、信管、門管、起爆劑ヲ附セサル黃色藥
濕藥、雷管、起爆劑、信管、門管、起爆劑、及五十斤以下ノ火藥(ダイナマイト)結火藥等劇發火藥類ヲ除クニシテ其
ノ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且外部見易キ所ニ火藥ト明記シタルトキ但シ火藥ハ黃色藥ト混載スルコトヲ得ス

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

○閣令第二號
文官高等試験細則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月三十一日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

第一條 文官高等試験ヲ受ケムトスル者ハ試験願書ニ履歷書ヲ添ヘ公告シタル期日迄ニ文官高等
試験委員長ニ差出スヘシ

文官試験規則第十二條ニ該當セサル者ニ在リテハ仍文官試験規則第八條ノニニ掲グル資格ヲ證
明スルニ足ルヘキ書類ヲ添付スヘシ

第二條 削除

第五條 豫備試験並本試験ノ筆記試験及口述試験ノ期日ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第六條第二項ヲ削ル

第七條中「論文試験ヲ除クノ外」ヲ削ル

第十條中「受験人ハ」ノ下ニ「特ニ指定セルモノヲ除クノ外」ヲ加フ

文官高等試験出願書式及履歷書式ヲ削ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

閣令第二號文官高等試験細則(明治二十七年五月七日)抄録

第一條 文官高等試験ヲ受ケムトスル者ハ書式ニ照シ試験願書ニ左ノ書面ヲ添付シ公告シタル期日迄ニ文官高等試験委員
長ニ差出スヘシ但シ文官試験規則第十二條ニ該當スル者ハ第二號第三號ノ書面及第四號中外國語ノ種類ヲ選定シタル書
面ヲ要セス別ニ同條ニ掲グル學校ノ卒業證書ヲ添付スヘシ

一 履歷書

二 文官試験規則第八條ノニ掲クル資格ヲ證明スヘキ卒業證書試験合格證書又ハ之ニ準スヘキ證明書且ツ外國ノ學校ヲ卒業シタル者ニ在リテハ當該學校ノ學科程度ヲ認知スルニ足ルヘキ書面

三 試験論文

四 文官試験規則第十一條ニ掲クル外國語ノ種類及同第十四條ニ掲クル選擇科目ヲ選定シタル書面

前項ノ期日ハ文題ト共ニ一箇月前ニ官報ヲ以テ公告スヘシ

第二條 試験論文ハ公告シタル文題ニ就キ其ノ一ヲ擇ミ漢字交リ文ヲ用非自ラ楷書ヲ以テ之ヲ書スヘシ

第五條 論文試験ニ合格シタル者ニハ文官高等試験委員長ヨリ迅速作文及外國語試験ヲ行フヘキコト並ニ其ノ期日及場所ヲ二十日前ニ官報ヲ以テ公告シ仍之ヲ本人ニ通知スヘシ

第六條 本試験ノ筆記試験ハ二日前ニ其ノ科目及期日ヲ定メテ之ヲ行ヒ其ノ口述試験ハ筆記試験全ク終リタル後更ニ期日ヲ定メテ之ヲ行フ

前項筆記試験ノ期日ハ豫備試験ニ合格シタル者及文官試験規則第十二條ニ該當スル試験出願者ニ通知シ口述試験ノ期日ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ通知シ仍官報ヲ以テ公告スヘシ

第七條 論文試験ヲ除クノ外筆答ヲ以テ試験スヘキ場合ニ於テハ受験人納長ヲ一室又ハ數室ニ入レ問題ヲ付シ文官高等試験委員長監視シテ之ヲ行フ但シ受験人一人ナルトキハ文官高等試験委員二人以上監視ス

第十條 受験人ハ書類其ノ他受験ノ材料トナルヘキモノヲ携帶シテ試験室内ニ入ルコトヲ得ス

○閣令第三號

滿韓在勤文官加俸令ニ依リ韓國ニ在勤スル鐵道院官吏ニ支給スル加俸額左ノ通定ム

明治四十二年六月九日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

高等官

月額本俸十分ノ五

判任官

月額本俸十分ノ八

六級俸以下ノ者

月額參拾圓

附則

本令ハ明治四十二年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

○閣令第四號

鐵道運輸規程中左ノ通改正ス

明治四十二年六月二十二日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

第四百四條 鐵道カ外國鐵道ト連絡運輸ヲ爲ス場合ニ於テハ本規程ニ依ラサルコトヲ得但シ私設鐵道ニ在リテハ監督官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

○閣令第五號

種牡馬検査法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年六月三十日

內閣總理大臣 侯爵桂太郎

第一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ同一廳府縣ニ於テ前回ノ検査ニ合格シタルモノハ直ニ検査所ニ牽付ケ検査ヲ受クルコトヲ得

第二條第三項中「沖繩縣」ノ下ニ「並種牡馬ノ數寡少ニシテ馬政長官ノ特ニ指定シタル地方」ヲ加フ

第二條ノ二 前條ノ検査期日經過後外國ヨリ輸入シ若ハ他府縣ヨリ牽入レタル牡馬又ハ疾病其ノ

他已ムヲ得サル事由ニ因リ検査期日ニ検査ヲ受ケサル牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ臨時検査ヲ受ケルコトヲ得但シ地方長官ヲ經テ馬政長官ニ願出テ其ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
前項ノ臨時検査ハ馬政長官又ハ地方長官ノ命シタル検査委員之ヲ行ヒ其ノ場所ハ馬政長官之ヲ指定ス

第三條第一項第一號「年齢滿三歳以上」ノ下ニ「又ハ次ノ種付期迄ニ滿三歳ニ達スヘキモノ」ヲ加フ
第四條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項證明書ノ有効期間ハ證明書下付當時滿三歳以下ノモノニ在リテハ滿三歳ニ達スル日ヨリ起算ス

第四條ノ二 第一條但書ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケムトスル者ハ前回ノ検査ニ於テ下付セラレタル證明書ヲ検査委員ニ差出スヘシ
前項ノ場合ニ於テ検査ニ合格シタルモノニ付テハ證明書ニ有効期間ヲ記入シ所有者又ハ管理者ニ下付ス

第五條第二項ヲ削ル
第六條中「之ヲ取消スコトヲ得」ノ下ニ「但シ地方長官ニ於テ證明ヲ取消サムトスル場合ニハ馬政長官ノ承認ヲ受クヘシ」及左ノ一項ヲ加フ
馬政長官前項ノ規定ニ依リ種牡馬證明ノ效力ヲ停止シ又ハ取消シタルトキハ其ノ旨地方長官ニ通報スヘシ

第九條ノ二 第二條ノ二第二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ命シタル検査委員ノミニ於テ検査ヲ爲シ又ハ前條第二項ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テハ地方長官ハ假證明書ヲ下付スルコトヲ得
第十條中「年齢、毛色、體尺」ヲ「名稱、年齢、體尺、毛色」ニ改ム
第十二條第二項及第三項ヲ削ル

第十二條ノ二 地方長官ハ種牡馬表ヲ調製シ種牡馬ノ證明書番號、種類、名稱、年齢、體尺、毛色、産地、有效區域及所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ管内ニ告示スヘシ其ノ異動ヲ生シ又ハ證明ノ效力ヲ停止セラレ若ハ取消サレタルトキ亦同シ
第十四條中「種牡馬證明ノ效力ヲ停止シ若ハ取消シタルトキ又ハ第十二條第二項」ヲ「第十二條ノ二」ニ改ム

附則
本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際二年以上有効ノ證明書ヲ有スル種牡馬ハ其ノ有効期間毎年検査ヲ受クヘキモノトス正當ノ事由ナクシテ検査ヲ受ケサルトキハ證明ノ效力ヲ停止スルコトヲ得
第一號書式
(縦五寸横七寸)

道府縣第 號

種牡馬證明書

住所

所有者(又ハ管理者) 氏 名

種類名稱	種	號	種	號
生 年 月	年	月	日	
體 尺	尺	寸	分	

地方長官ハ前二項ノ報告ニ依リ種牡馬表ヲ調製シ種牡馬ノ種類、年齢、體尺、毛色及所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ管内ニ告示スヘシ其ノ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第十四條 地方長官種牡馬證明ノ效力ヲ停止シ若ハ取消シタルトキ又ハ第十二條第三項ノ告示ヲ爲シタルトキハ之ヲ馬政長官ニ報告スヘシ

○閣令第六號

軌道抵當取扱規則左ノ通定ム

明治四十二年七月二十一日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

軌道抵當取扱規則

- 第一條 軌道抵當ノ取扱ニ關シテハ鐵道抵當法施行規則ヲ準用ス
- 第二條 抵當權ノ設定若ハ變更又ハ抵當證書若ハ信託證書ニ記載セル事項ノ變更ニ關スル書類ハ内閣總理大臣及内務大臣宛トシ地方長官ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ但シ動力ニ電氣ヲ使用スル場合ニ於テハ内閣總理大臣、内務大臣及逓信大臣宛トス
- 第三條 左ノ書類ハ鐵道抵當法施行規則第二條第一項第六號及第七號ノ書類ニ代ハルモノトス
- 一 物件擔保ノ負債アルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本又ハ證明書
 - 二 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ總額及償還ヲ了ヘサル金額ノ登記抄本
- 第四條 軌道財團ニ關スル公告ノ申請書、抵當權ノ登録ニ關スル申請書及軌道財團目錄ニ關スル書類ハ内閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ
- 第五條 馬匹及電氣供給ノ爲要スルモノノ財團目錄ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第六條 馬匹、保線其ノ他ノ修繕ニ要スル材料ノ變更又ハ消滅ノ届出ハ決算期ニ於テ之ヲ爲スヘシ
- 第七條 執行力アル正本付與ノ申請書ハ内閣總理大臣宛トシ之ヲ差出スヘシ
- 第八條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ヨリ差出ス特許及許可ノ申請書ハ内閣總理大臣及内務大臣宛トシ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

○閣令第七號

鐵道院職員服制別表備考第一號及第四號ニ依ル地方左ノ通指定ス

明治四十二年十二月二十九日

内閣總理大臣 侯爵桂太郎

一 韓國

法令全書

省令

○内務省令第一號

明治三十三年^四内務省令第十七號有害性著色料取締規則中左ノ通改正ス

明治四十二年一月十六日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

第四條中第二號ノ次ニ左ノ二號ヲ加ヘ第二項ヲ追加ス

三 乾燥油又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタル酸化鉛(鉛丹ヲ含ム)又ハ格羅羅酸鉛(硫酸鉛ト併用セルモノヲ含ム)但シ剝離シ易キモノハ此ノ限ニ在ラス

四 水ニ不溶性ノ亞鉛化合物ニシテ護膜質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタルモノ
酸化亞鉛又ハ硫化亞鉛ハ護膜質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布スル場合ノ外販賣ノ用ニ供スル護膜製玩弄品ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス

○内務省令第二號

樺太ニ於テ鐵業ヲ許可スヘキ區域ハ當分ノ内樺太ノ全部ヨリ左ノ場所ヲ除キタル地域トス

明治四十二年一月二十日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

一 「ウリウ」川及「トロンボ」川流域以南能登呂半島一圓

二 「トマリ」川流域一圓

三 東六分水嶺ヲ界トシ北バ「トマリ」川流域ヨリ南オテ「コロ」川流域ニ至ル間一圓

四 第一支流落合基點ヨリ上流内淵川流域一圓

五 第一支流落合基點ヨリ上流「ブスタキ」川流域一圓

六 「ユストル」川流域一圓

七 「ナヤシ」川口ト「セルトナイ」川口トヲ連結シタル直線ヨリ東方一千間ノ間一圓
八 「ナヨロ」川以北國境ニ至ル間ノ幹線道路ト其ノ西方分水嶺トノ間一圓

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年内務省令第十一號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔参照〕

明治四十年四月内務省令第十一號ハ本號ト同伴ナリ

○文部省令第一號

明治三十二年文部省令第二十號實業教育費國庫補助法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年一月十三日

文部大臣 小松原英太郎

第二條第一項中但書ヲ削除シ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

收支豫算ノ減額又ハ補助ノ増額ヲ受ケタル場合ノ追加豫算ヲ議決シタルトキハ其ノ都度文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テ豫算ノ追加又ハ更正ヲ議決シタルトキハ決算報告ノ際共ニ報告スヘシ

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

文部省令第二十號實業教育費國庫補助法施行規則(明治三十二年三月三十日)抄録

第二條第一項

補助ヲ受クル學校ノ收支豫算ハ每會計年度前ニ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但年度内ニ追加豫算ヲ議決シタルトキハ其都度文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○文部省令第二號

明治三十六年文部省令第十三號公立私立專門學校規程中左ノ通改正ス

明治四十二年一月十九日

文部大臣 小松原英太郎

第七條第一項第二號ヲ左ノ通改ム

帝國大學分科大學(元東京大學各部)元札幌農學校ヲ含ム)卒業生又ハ東京高等商業學校(元高等商業學校ヲ含ム)卒業生ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者

〔参照〕

文部省令第十三號公立私立專門學校規程(明治三十六年三月三十一日)抄録

第七條第一項

專門學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ如シ

二 帝國大學分科大學卒業生又ハ官立學校ノ卒業生ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者

○内務省令第三號

明治四十一年内務省令第十號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年二月一日

内務大臣 法學博士男露平田東助

〔參照〕

明治四十一年七月内務省令第十號ハ治安警察法ニ依リ武器其他ノ物件携帯禁止地域ナリ

○内務省令第四號

樺太廳立小學校教員退隱料及遺族扶助料取扱規程左ノ通之ヲ定ム

明治四十二年二月十五日

内務大臣 法學博士男露平田東助

第一條 樺太廳立小學校教員退隱料、退職給與金、扶助料及ヒ扶助金ノ取扱ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則第一條乃至第十五條、内閣恩給局長管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程第十二條、第十八條乃至第二十一條及官吏恩給法施行規則第九條ノ規程ニ依ル

第二條 樺太廳立小學校教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律ニ依リ退隱料、退職給與金、扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ樺太廳長官ニ請求スヘシ

第三條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則中府縣知事ニ屬スル事項ハ樺太廳長官之ヲ行フ

第四條 内閣恩給局長管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程中内閣恩給局長ニ屬スル事項ハ樺太廳長官内閣恩給局ニ屬スル事項ハ樺太廳之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○內務省令第五號

明治四十一年法律第三十五號ニ依リ退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者犯罪若ハ就職ノ場合ニ於ケル通知方左ノ通之ヲ定ム

明治四十二年二月十五日

大藏大臣 侯爵桂 太郎
內務大臣 法學博士男爵平田東助
司法大臣 子爵岡部長職

第一條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第二條 退隱料ヲ受クル者公務ニ就キタルトキハ其ノ所屬主長ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ爾後其ノ給料額ニ異動アルトキ及解職シタルトキ亦同シ

前項ノ通知書ニハ退隱料ノ支給ヲ受ケタル地方廳名 證書番號 給料額及其ノ支給ヲ始ムル日 給料額ニ異動アルトキハ支給ヲ増減スヘキ始日又解職ノトキハ支給ヲ終リタル日ヲ付記スヘシ

第三條 大藏省ニ於テ前二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ樺太廳及支給廳ニ通知スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○內務省令第六號

明治三十六年內務省令第九號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年二月十七日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

〔參照〕

明治三十六年九月內務省令第九號ハ治安警察法ニ依リ武器其他ノ物件携帯禁止ノ件ナリ

○大藏省令第一號

明治三十八年二月大藏省令第七號中左ノ通改正ス

明治四十二年二月十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第二條中「代用價格ヲ定メ別記書式ノ納付書ヲ作り」ヲ「證券又ハ利札」ニ改ム

第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

國債證券及利札ノ代用價格ハ其ノ證券及利札ニ依リ仕拂ヲ受クルコトヲ得ヘキ金額ニ依ル

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

國債證券及利札ノ代用價格カ其ノ納付スヘキ租稅其ノ他ノ歳入ノ金額ヲ超過スルモノハ之ヲ代

用ニ供スルコトヲ得ス

第五條第一項中(記載事項及書式ハ納付書ニ準ス)ヲ削ル

第七條但書削除

第八條第一項中「代用」ヲ「特別」ノ規定ニ依リ代用納付シタルニ改ム

第十條 削除

書式 削除

〔參照〕

大藏省令第七號(明治三十八年二月十八日)抄録

第二條 前條若ハ他ノ特別ノ規定ニ依リ代用納付ヲ許サレタル證券ヲ以テ租稅其ノ他ノ歳入金ヲ納付セントスル者ハ國債證券及利札ニ在リテハ其ノ代用價格ヲ定メ別記書式ノ納付書ヲ作り其ノ他ノ證券ニ在リテハ證券ノ種類番號金額仕拂期日及仕拂場所ヲ記載シタル納付書ニ依リテ作り其ノ證券ト共ニ之ヲ納稅告知書若ハ納入告知書ニ添ヘ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第三條第一項

國債證券及利札ノ代用價格ハ左ニ掲ケル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

一 元金償還期分ノ利札ハ其ノ償還期マテノ月割利子金額
二 所得税法ノ規定ニ依リ利子ノ所得税ヲ徴收スヘキ利札ハ其ノ額面金額(前項ニ依リ算出スルモノ)中相當所得税額ヲ控除シタル金額

三 前各款ノ外ハ其ノ額面金額

第五條第一項

收入官吏又ハ市町村ニ於テ代用證券ノ納付ヲ受ケタルトキハ毎月之ヲ取極メ納付仕書(前項及後項ニ依リ拂込書ヲ添ヘテ翌日マテニ金庫ニ拂込ムヘシ)此場合ニ於テハ現金出納簿ニ其ノ受拂額ヲ登記スルモノトス

第七條

代用證券ノ押印アル國債證券及利札ニ對スル元利金ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ金庫ヨリ請求アリタル場合ニ限リ仕拂ヲ爲スモノトス但シ金庫收入官吏又ハ市町村ニ於テ還付済ノ證明ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八條第一項

代用證券ノ仕拂ヲ拒絕セラレタル場合ニ於テハ金庫ハ其ノ證券ヲ直ニ收入官吏市町村又ハ納人ニ還付スヘシ

第十條

代用國債證券及利札ノ還付ヲ受ケタル納人ハ其ノ事由ヲ具シテ還付済ノ證明ヲ請求スルコトヲ得但シ還付ヲ受ケタル日ヨリ一箇年ヲ經過シタル後ハ此ノ限ニ在ラス

金庫、收入官吏又ハ市町村ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケ正當ノ事由アルモノト認メタルトキハ其ノ證券及利札ノ名稱、額面種類、枚數、記號番號及還付済年月日ヲ記載シタル證明書ヲ作り之ヲ交付スヘシ但シ納付書ニ記載シタル證券及利札ノ全部ヲ還付シタルトキハ該納付書ノ餘白ニ還付済年月日ヲ記載シテ之ヲ證明書ニ代フルコトヲ得

○大藏省令第二號

明治四十年 大藏省令第三十七號中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年二月二十七日

大藏大臣 侯爵桂太郎

專賣局製造所分工場、藏置所名稱位置中專賣局關原製造所ノ欄新發田分工場、專賣局金澤製造所ノ欄富山分工場、專賣局松山製造所ノ欄高松分工場及專賣局鹿兒島製造所ノ欄川内分工場ノ項ヲ削リ專賣局大阪製造所ノ欄「姫路分工場」トアルヲ「長崎藏置所」ニ改ム
トアルヲ「長崎藏置所」ニ改ム

○陸軍省令第一號

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表中左ノ通改正ス

明治四十二年二月八日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

東京憲兵第二分隊分遣所「澁谷村」ヲ「澁谷町」ニ、高田憲兵隊本部位置「新潟縣中頸城郡高城村舊城内」ヲ「新潟縣中頸城郡高田町」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○文部省令第三號

明治三十年文部省令第二十二號女子高等師範學校生徒募集規則中左ノ通改正ス

明治四十二年二月三日

文部大臣 小松原英太郎

第一條ニ左ノ二項ヲ加フ

女子高等師範學校長ハ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定シタルモノノ外

薦舉ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得

第一項ニ掲ケタル師範學校及高等女學校ノ生徒ニシテ當該學校長ニ於テ本條ノ募集ニ依リ入學スヘキ者ノ入學期以前ニ卒業スヘシト認メタル者ハ當該學校ノ卒業生ニ準スルコトヲ得

〔參照〕

文部省令第二十二號女子高等師範學校生徒募集規則(明治三十年十月十二日)抄録

第一條 女子高等師範學校本科生徒及官費專修生ハ師範學校女子部、修業年限四箇年ノ高等女學校卒業生及之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ女子高等師範學校長其ノ中ヨリ試験ノ上選拔スルモノトス但本科生ハ年齢十七年以上二十二年未滿ニシテ夫ヲ有セサル者ニ限ル

○文部省令第四號

明治四十一年文部省令第三十二號教員檢定ニ關スル規程第六條第二號ニ依ル認定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十二年二月九日

文部大臣 小松原英太郎

- 第一條 教員檢定ニ關スル規程第六條第二號ニ依リ文部大臣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ學校設立者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若ハ其ノ認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 一 名稱
- 二 位置
- 三 學則
- 四 學校長教員ノ氏名出身別分擔學科
- 五 生徒定員、現在生徒學年及學級別員數
- 六 卒業生ノ員數(學年度別)及卒業後ノ情況
- 七 校地、校舍ノ圖面
- 八 經費及維持ノ方法
- 九 學校財產ノ總額
- 十 教科書、教授用具、器械及標本目錄
- 第二條 前條ノ申請ニ基キ文部大臣ニ於テ認定ヲ爲スヘキ學校ハ設立後十箇年ヲ經過シ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左ノ各號ニ該當スルモノニ限ル
- 一 入學資格ハ修業年限二箇年ノ高等小學校卒業者(舊小學校令ノ規定ニ依リタル者ハ修業年限四箇年トス)若ハ之ト同等

以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘキコト

- 二 修業年限ハ三箇年以上タルヘキコト但シ裁縫科並手藝科ニ在リテハ二箇年以上トス
- 第三條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第一條第一號乃至第三號、第七號及第八號ノ事項ニ變更アリタルトキハ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條第一號第二號ノ要件ニ該當セサル生徒ヲ入學セシムルトキハ其ノ生徒ニ特別ノ名稱ヲ附シ且其ノ學籍簿ヲ別冊トナスヘシ但シ認定ノ效力ハ本文ノ生徒ニ及ハス
- 第五條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ認定ノ效力ヲ受クル生徒ヲ卒業セシメタルトキハ直ニ其ノ族籍氏名及生年月ヲ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第六條 認定ヲ受ケタル學校ニシテ此ノ規則ニ違背シ又ハ其ノ成績不良ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ認定ヲ取消スコトアルヘシ
- 第七條 此ノ規則ニ依リ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ提出スヘシ

○文部省令第五號

明治三十六年文部省令第二十七號大阪高等工業學校規程中左ノ通改正ス

明治四十二年二月九日

文部大臣 小松原英太郎

第一條第二項中各學科ノ數學欄ノ前ニ左ノ一欄ヲ加フ

倫	理	隔週	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----

備考中左ノ一項ヲ加フ
各學科ニ於ケル倫理ノ教授時數ハ實修製圖及分析ノ教授時數中ヨリ分割配當ス

○文部省令第六號

明治四十年文部省令第十二號師範學校規程中左ノ通改正ス

明治四十二年二月十八日

文部大臣 小松原英太郎

- 第五十四條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ子ニシテ第四十八條ノ資格ヲ具ヘ入學セムトスルトキハ學校長ハ他ノ志願者ニ先チテ之ヲ許可スルコトヲ得但シ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第五條第三號又ハ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第七條第二號ニ該當スル者ノ子又ハ法定ノ推定家督相續人ニ非サル養子ハ此ノ限ニアラス
- 一 二十箇年以上市町村立小學校又ハ府縣立師範學校訓導ノ職ニ在リタル者ニシテ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者
- 二 市町村立小學校教員又ハ府縣立師範學校訓導ノ職ニ在リタル者ニシテ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第三條又ハ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第四條ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者
- 三 十五箇年以上市町村立小學校又ハ府縣立師範學校訓導ノ職ニ在ル者
- 第五十九條ノ二 地方長官ハ第五十四條ノ二ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ子ニシテ入學セル者ニ對シテハ之ニ支給スヘキ學資ノ額ヲ増加シ又ハ他ノ生徒ニ先チテ公費生トナスコトヲ得
- 第五十四條ノ二但書ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

○逕信省令第一號

明治四十年九逕信省令第四十三號外國郵便爲替規則第五條第一號中左ノ通改正シ本令公布ノ日ヨリ施行ス

明治四十二年二月二日

逕信大臣 男爵後藤新平

亞然の音共和國外諸國ニ振宛ツルモノノ項中「エリトレア」伊太利殖民地」ヲ「ベナディル」及「エリトレア」伊太利殖民地」ニ改ム

○逕信省令第二號

明治四十年九逕信省令第四十三號外國郵便爲替規則中左ノ通改正シ本令公布ノ日ヨリ施行ス

明治四十二年二月二日

逕信大臣 男爵後藤新平

- 第十五條第二項中「グレンエーダ」及「ヲ削ル」
- 第十九條第一項中「英國」ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
- 英國トノ條約ニ依ル爲替ノ差出人ハ郵便又ハ電信ニ依ル名宛人又ハ差出人ノ居所氏名ノ變更ヲ請求スルコトヲ得
- 同條第二項中「前項」ヲ「前二項」ニ改メ第三項中「第一項」ノ下ニ「及第二項」ヲ加フ

〔參照〕

- 逕信省令第四十三號外國郵便爲替規則(明治四十年九月二十一日抄録)
- 第十五條第二項
- 英國トノ條約ニ依ル爲替ニシテ「グレンエーダ」及「墨西哥合衆國」ニ宛ツルモノニ付テハ拂渡通知書ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第十九條第一項
- 米國、加那太、英國又ハ香港トノ條約ニ依ル爲替ノ差出人ハ郵便ニ依ル名宛人又ハ差出人ノ居所氏名ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

○逕信省令第三號

明治四十年九逕信省令第四十三號外國郵便爲替規則第七條ヲ左ノ通改正シ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年二月四日

逕信大臣 男爵後藤新平

第七條 外國郵便爲替金ハ外國貨幣換算割合ニ依リテ換算シ帝國通貨ヲ以テ其ノ受拂ヲ爲ス
前項ノ換算割合ハ之ヲ告示ス

(參照)

逓信省令第四十三號外國郵便爲替規則(明治四十年九月二十一日)抄録

第七條 外國郵便爲替金ハ每週一回告示スル外國貨幣換算割合ニ依リテ換算シ帝國通貨ヲ以テ其ノ受拂ヲ爲ス

○逓信省令第四號

郵便電信電話ニ關スル滯納料金徵收規則左ノ通相定ム

明治四十二年二月四日

逓信大臣 男爵後藤新平

郵便電信電話ニ關スル滯納料金徵收規則

第一條 郵便法第二十七條及電信法第二十一條ニ依ル郵便、電信及電話ニ關スル滯納料金ノ徵收ニ關シテハ本規則ニ定ムルモノノ外國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 滯納料金納付ノ督促ヲ爲サルトキハ通信官署ハ別記様式ノ督促狀ヲ發スヘシ

第三條 滯納者前條ノ督促ヲ受ケタルトキハ滯納料金ハ法令ノ定ムル區分ニ從ヒ通貨又ハ郵便切手ヲ以テ、督促手数料ハ通貨ヲ以テ指定ノ通信官署ニ納付スヘシ

郵便切手ヲ以テ滯納料金ヲ納付スル場合ニ於テハ之ニ相當スル郵便切手ヲ督促狀ノ裏面ニ貼付

シ指定ノ通信官署ニ差出スヘシ

第四條 滯納者ノ財産差押ヲ命シタル吏員ニハ左ノ證券ヲ交付ス

第一號

郵便電信電話
料金滯納者
財産差押證券

通信官
署
印

裏
「何郵便(又ハ「電信」「電話」)局
官 氏 名

寸法 縦三十三分
横二十四分

附則
 本規則ハ明治四十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十三年九月九日遞信省令第六十七號滯納料金徵收規程ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 (別記)

督 促 狀

第「何」號	「何」府縣「何」都市「何」町村大字「何」何「番地」 「何」某
一金「何程」 但「何々」(滯納料金ノ種別等ヲ記載ス)	滯納料金
一金拾錢	督促手数料
右「何」月「何」日限り「何」郵便(又ハ)電信「電話」局ニ納付スヘシ若シ其ノ期限ヲ過キ完納セザルトキハ直ニ財産差押ノ處分ヲ爲スヘシ 明治「何」年「何」月「何」日	「何」郵便(又ハ)電信「電話」局長 官氏 名 印

○宮内省令第一號

明治四十年宮内省令第二號華族懲戒委員互選規程中勅裁ヲ經テ左ノ通改正ス

明治四十二年三月十六日

宮内大臣 伯爵田中光顯

第二條 委員ノ數ハ公侯爵各二人伯爵三人子男爵各四人トス

附則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

宮内省令第二號華族懲戒委員互選規程(明治四十年五月八日抄録)
第二條 委員ノ數ハ爵毎ニ二人トス

○外務省令第一號

在外帝國領事官管轄區域左ノ通定ム

明治四十二年三月六日

外務大臣 伯爵小村壽太郎

露領亞細亞滿洲斯德駐在帝國領事官管轄區域

露領沿海州中「ニコラエウスク」駐在帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル地方
黑龍州「ヤクウトスク」州及「トランスバイカル」州

露領亞細亞「ニコラエウスク」駐在帝國領事官管轄區域

露領沿海州中「ウドスキ」郡、「オホトスキ」郡、「ギシギンスキ」郡、「ベトロパウロフスキ」郡、
「アナドイルスキ」郡及「カマンドルスキ」郡

露領薩哈連島

清國安東駐在帝國領事官管轄區域

奉天省中鳳凰廳、興京廳、莊河廳、安東縣、寬甸縣、通化縣、懷仁縣、輯安縣及臨江縣

清國遼陽駐在帝國領事官管轄區域

奉天省中遼陽州及遼中縣

清國奉天駐在帝國領事官管轄區域

奉天省中安東、牛莊、長春、鐵嶺及遼陽駐在各帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル地方

清國鐵嶺駐在帝國領事官管轄區域

奉天省中海龍府、鐵嶺縣、開原縣、遼源州、昌圖府中奉化縣及康平縣

清國牛莊駐在帝國領事官管轄區域

奉天省中營口廳、錦州廳、蓋平縣、海城縣及復州

清國長春駐在帝國領事官管轄區域

吉林省中長春府、農安縣、伊通州

奉天省中洮南府及昌圖府中ノ懷德縣

清國吉林駐在帝國領事官管轄區域

吉林省中哈爾濱及長春駐在各帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル地方

清國齊々哈爾駐在帝國領事官管轄區域

黑龍江省中哈爾濱駐在帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル地方

內蒙古中天津駐在帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル地方及外蒙古

清國哈爾濱駐在帝國領事官管轄區域

吉林省中新城府、依蘭府(湯源縣、大通縣及臨江州ヲ含ム)、密山府、五常廳、雙城廳、綏芬廳、賓州廳、榆樹縣及長壽縣

黑龍江省中嫩江ト陶兒河ノ會合點ヨリ拜泉縣ヲ經テ黑龍江トブレイヤ河ノ會合點ニ到ル線以

東ノ地方

清國天津駐在帝國領事官管轄區域

直隸省、山西省及察哈爾都統管轄ニ屬スル內蒙古一帯ノ地方

清國芝罘駐在帝國領事官管轄區域

山東省

清國上海駐在帝國領事官管轄區域

江蘇省中松江府、太倉州及通州

浙江省中寧波府、臺州府、溫州府及處州府

清國南京駐在帝國領事官管轄區域

江蘇省中鎮江府、淮安府、徐州府、江甯府、揚州府及海州

安徽省

清國蘇州駐在帝國領事官管轄區域

江蘇省中蘇州府及常州府

清國杭州駐在帝國領事官管轄區域

浙江省中杭州府、嘉興府、湖州府、金華府、衢州府、嚴州府及紹興府

清國漢口駐在帝國領事官管轄區域

湖北省中漢陽府、武昌府、德安府及黃州府

江西省中袁州府ヲ除キタル地方

河南省

陝西省

甘肅省

新疆省

清國長沙駐在帝國領事官管轄區域

湖南省

江西省中袁州府

清國沙市駐在帝國領事官管轄區域
湖北省中荊州府、荊門府、襄陽府、安陸府、施南府、宜昌府及鄖陽府
清國重慶駐在帝國領事官管轄區域

四川省

貴州省

雲南省

西藏

清國福州駐在帝國領事官管轄區域

福建省中福州府、延平府、建寧府、邵武府及福寧府

清國廈門駐在帝國領事官管轄區域

福建省中興化府、泉州府、永春府、漳州府及龍巖州

清國汕頭駐在帝國領事官管轄區域

廣東省中潮州府、嘉應州及惠州府

福建省中汀州府

清國廣東駐在帝國領事官管轄區域

廣東省中汕頭駐在帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル地方

廣西省

海南島

英領香港駐在帝國領事官管轄區域

香港政廳管轄地方

澳門政廳管轄地方

獨領「マリアナス」群島中「マニラ」駐在帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル地方、「カロリナス」群島「マニラ」群島、「パララウ」群島

米領比律賓群島「マニラ」駐在帝國領事官管轄區域

米領比律賓群島

「マリアナス」群島中米領「グアム」島

英領海峽殖民地新嘉坡駐在帝國領事官管轄區域

英領海峽殖民地及「マレー」聯邦

蘭領瓜哇島「バタビヤ」駐在帝國領事官管轄區域

蘭領東印度

「ホルネオ」島中英領北「ホルネオ」並英國保護領「サラワック」及「ブルネー」

英領「ラプアン」島

「チモア」島中葡領「チモア」

暹羅國盤谷駐在帝國領事官管轄區域

暹羅國

英領印度「カルカッタ」駐在帝國領事官管轄區域

「バーマ」州、東「ベンゴール」及「アッサム」州、「ベンゴール」州、合併州、「パンジャブ」州、西北境州、「カシム」

「ミル」、「ネパール」及「アンダマン」島

英領印度孟買駐在帝國領事官管轄區域

「バルチスタン」、「ラヂニプタナ」、「中央印度」、「中央州」、「ハイデラバット」州、孟買省、「マドラス」省、「マイソール」州、「パロダ」州及錫蘭島

深洲「シドニー」駐在帝國領事官管轄區域

深洲英領「ニウギニー」、「ニウジーランド」、「フィジー」島及「ポリネシヤ」部群島

米領布哇群島「ホノルル」駐在帝國領事官管轄區域

亞米利加合衆國「セントルイス」駐在帝國領事官管轄區域

亞米利加合衆國「シアトル」駐在帝國領事官管轄區域

「ワシントン」及「モンタナ」各州
「アイダホ」州中「クートネー」、「ボンナー」、「ラタア」、「シヨシヨーン」、「ネズベルス」、「アイダホ」、「レムハ
イ」、「ポアース」及「カスター」各郡
「アラスカ」テリトリー

亞米利加合衆國「ポートランド」駐在帝國領事官管轄區域

「ワレゴン」及「ワイヨミン」各州
「アイダホ」州中「シアトル」駐在帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル地方

亞米利加合衆國紐育駐在帝國領事官管轄區域

「メイン」、「ニウハンプシヤ」、「ヴァーモント」、「マサチューセツ」、「ロード、アイランド」、「コネチカット」、「ニ
ウヨーク」、「ニウジアーセエー」、「ペンシルヴェニア」、「デラウエアー」、「メリーランド」、「ヴァージニア」、「ウ
エスト、ヴァージニア」、「ノース、カロライナ」、「サウス、カロライナ」、「ジョージア」及「フロリダ」各州並「デ
イストリクト、オブ、コロムビア」及「ポルト、リコ」島

亞米利加合衆國「シカゴ」駐在帝國領事官管轄區域

「インディアナ」、「イリノイス」、「ミシガン」、「ウイスコンシン」、「ミネソタ」、「アイラワ」、「ミソリー」、「ケン
タッキー」、「リース、ダコタ」、「サウス、ダコタ」、「ネブラスカ」、「カンサス」、「オハイオ」、「デネシー」、「アラ
バマ」、「ミシシッピ」、「アルカンサス」、「ルイジアナ」、「テキサス」及「オクラホマ」各州

英領加奈陀「オッターワ」駐在帝國領事官管轄區域

英領加奈陀中「プリティシユ、コロムビア」、「アルバータ」、「サスカチエリン」及「マニトバ」各州並「ユワ
コン、テリトリー」ヲ除キタル其他ノ各州及各テリトリー

英領加奈陀中「プリティシユ、コロムビア」、「アルバータ」、「サスカチエリン」及「マニトバ」各州並「ユワ
コン、テリトリー」

伯刺西爾國「リオ、デ、ジャネーロ」駐在帝國領事官管轄區域

大貌列顛國倫敦駐在帝國領事官管轄區域

佛蘭西國里昂駐在帝國領事官管轄區域

白耳義國「アンツェルス」駐在帝國領事官管轄區域

露西亞國莫斯科駐在帝國領事官管轄區域

歐羅巴露西亞並露領亞細亞中浦潮斯德及「ニコラエウスク」駐在各帝國領事官ノ管轄ニ屬セサル
地方

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十三年十二月外務省令第五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十三年十月七日 外務省令第五號ハ本號ト同伴ナリ

○内務省令第七號

北海道二級町村制施行地ヲ左ノ通指定シ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス但シ數村合併ノ分ハ現在ノ村名ヲ大字トシテ之ヲ存ス

明治四十二年三月十七日

村名	所屬	區	城
南尻別村	磯谷郡	南尻別村	
黑松内村	磯谷郡	黑松内村	
島野村	岩内郡	野束村	數島内村
泊村	古宇郡	泊村	孟村
			興志内村
小澤村	岩内郡	小澤村	茅沼村
音江村	空知郡	音江村	
浦白村	樺戸郡	浦白村	
幌向村	空知郡	幌向村	
上名寄村	上川郡	上名寄村	
多寄村	上川郡	多寄村	
神樂村	上川郡	神樂村	
神居村	上川郡	神居村	
初山別村	苫前郡	初山別村	
枝幸村	枝幸郡	枝幸村	
宗谷村	宗谷郡	宗谷村	
野付牛村	常呂郡	野付牛村	
紋別村	紋別郡	紋別村	
釧内村	釧内郡	釧内村	
門別村	沙流郡	門別村	
初山別村		初山別村	
枝幸村		枝幸村	
禮文村		禮文村	
宗谷村		宗谷村	
野付牛村		野付牛村	
紋別村		紋別村	
泊内村		泊内村	
生田常村		生田常村	
藻鑑村		藻鑑村	
中下方村		中下方村	
遠佛村		遠佛村	
農家村		農家村	
捫別村		捫別村	
春立村		春立村	
佐妻村		佐妻村	
音江村		音江村	
門別村		門別村	
富仁家村		富仁家村	
賢取村		賢取村	
頌別村		頌別村	
歌登村		歌登村	
泊内村		泊内村	
嶺拂村		嶺拂村	
上下方村		上下方村	
碓別村		碓別村	
碧葉村		碧葉村	
婦登村		婦登村	
遠別村		遠別村	
佐瑠太村		佐瑠太村	
平賀村		平賀村	
波蕨村		波蕨村	
厚別村		厚別村	
菜實村		菜實村	

○内務省令第八號

明治四十一年法律第三號ハ沖繩縣ニ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月二十五日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省令第九號

沖繩縣區制第百三十四條、沖繩縣及島嶼町村制第九十八條ニ依ル區町村吏員ノ服務紀律左ノ通定ス

明治四十二年三月三十日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

○内務省令第十號

沖繩縣區制第百三十四條沖繩縣及島嶼町村制第九十八條ニ依ル區町村吏員ノ賠償責任及身元保證ニ關スル件左ノ通定ス

明治四十二年三月三十日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

第一條 區町村吏員其ノ職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲區町村ニ對シテ賠償スヘキコトアルトキハ區吏員ニ在テハ縣知事ニ於テ内務大臣、町村吏員ニ在テハ島司郡長ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ得テ之ヲ決定シ期限ヲ定メテ其ノ賠償ヲ命スヘシ

第二條 縣知事及島司郡長ニ於テ賠償ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ假ニ財産ヲ差押フルコトヲ得

第三條 賠償金ノ徵收ニ關シテハ沖繩縣區制第百七條第四項第五項沖繩縣及島嶼町村制第七十三條第二項第三項ノ例ニ依ル

第四條 區町村收入役其ノ他出納ヲ掌ル吏員ニ對シ身元保證ヲ徵スルノ必要アリト認ムルトキハ

區ニ於テハ區條例町村ニ於テハ町村規則ヲ以テ其ノ種類程度其ノ他身元保證ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

○大藏省令第三號

明治三十九年一月大藏省告示第七號第一項但書ニ依リ消印ヲ押捺シタル公債證書及國庫債券ノ所有者ハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ同年九月大藏省令第三十八號ノ規定ヲ準用ス

明治四十二年三月四日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省令第四號

關稅法施行規則第七十七條ニ依リ稅關所屬ノ土地建物ノ使用料左ノ通定ム

明治四十二年三月十二日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第一條 上屋又ハ上屋以外ノ稅關所屬土地ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ納ムヘシ

一 重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルヘキ貨物

五百斤迄毎ニ一日金一錢乃至二錢

二 前號以外ノ貨物

十立方尺迄毎ニ一日金一錢乃至二錢

三 土地ヲ專用スルトキハ一坪迄毎ニ一箇月金五十錢以上二圓以下トス但シ十五日迄ハ半箇月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一箇月分ヲ徵收ス

前項使用料ノ徵收上便宜ト認ムルトキハ第一號ノ貨物ヲ第二號ノ定率ニ第二號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ依ラシムルコトヲ得

第一號及第二號ノ貨物ニ付テハ貨物ヲ上屋又ハ上屋以外ノ土地ニ搬入ノ日及上屋又ハ上屋以外ノ土地ヨリ搬出ノ日ハ使用料ヲ徵收スヘキ日數ニ算入セス

第二條 輸出スヘキ貨物、關稅定率法第七條第一號及第二號ノ物品並ニ旅客ノ攜帶セル旅具ハ使用料ヲ徵收セス

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年大藏省令第三十七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十三年十一月二日 大藏省令第三十七號ハ本號ト同伴ナリ

○大藏省令第五號

關稅法施行規則第五十條ニ依リ收容貨物ノ敷料左ノ通定ム

明治四十二年三月十二日

大藏大臣 侯爵桂太郎

關稅法第四十六條ニ依リ收容スル貨物ノ敷料左ノ如シ

一 重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルヘキ貨物

五百斤迄毎ニ一日金三錢

二 前號以外ノ貨物

十立方尺迄毎ニ一日金三錢

前項使用料ノ徵收上便宜ト認ムルトキハ第一號ノ貨物ヲ第二號ノ定率ニ第二號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ依ラシムルコトヲ得

收容ノ初日ハ敷料ヲ徵收シ解除ノ日ハ徵收セス

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年大藏省令第四十七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現存スル收容貨物ニ付テハ舊敷料定率表ニ依ル

〔參照〕

明治三十七年十一月八日 大藏省令第四十七號ハ本號ト同伴ナリ

○大藏省令第六號

稅關假置場法施行規則第九條ニ依リ稅關假置場使用料及手数料左ノ通定ム

明治四十二年三月十二日

大藏大臣 侯爵桂太郎

- 第一條 稅關假置場ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ納ムヘシ
- 一 重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルヘキ貨物
五十斤迄毎ニ一箇月金一錢乃至三錢
 - 二 前號以外ノ貨物
一立方尺迄毎ニ一箇月金一錢乃至三錢
 - 三 建物ヲ專用スルトキ
一坪迄毎ニ一箇月金五十錢乃至三圓
- 前項使用料ノ徵收上便宜ト認ムルトキハ第一號ノ貨物ヲ第二號ノ定率ニ第二號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ依ラシムルコトヲ得
- 第二條 一箇月未滿ノ使用料ハ十五日迄ハ半箇月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一箇月分ヲ徵收ス
- 第三條 稅關假置場ノ臨時開扉ヲ申請スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 日出ヨリ日没迄 一時間迄毎ニ金壹圓
- 日没ヨリ日出迄 同 金壹圓五拾錢
- 第四條 第一條第一號及第二號ノ使用料ハ貨物移出ノトキ之ヲ納メ同條第三號ノ使用料ハ一箇月毎ニ之ヲ前納スヘシ

第五條 稅關假置場法施行規則第四條ニ依リ貨物藏置期間ノ延長ヲ申請スル者ハ一件毎ニ手数料金五十錢ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年大藏省令第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現存スル貨物ニ付テハ舊使用料ノ率ニ依ル

〔參照〕

明治三十三年四月九日 大藏省令第十五號ハ本號ト同伴ナリ

○大藏省令第七號

保稅倉庫法ニ依リ官設保稅倉庫ニ藏置スル貨物ノ庫敷料左ノ通定ム

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年大藏省告示第三十九號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現存スル貨物ニ付テハ舊定率表ニ依ル

明治四十二年三月十二日

大藏大臣 侯爵桂太郎

官設保稅倉庫敷料定率表

番號	品名	一箇月庫敷料	七果實及菓子(砂糖糖蜜)	同	同	同	同
一	米及粉	每百斤	〇二五	同	同	同	〇二〇
二	小麦	同	〇三〇	同	同	同	〇一五
三	大豆	同	〇二〇	同	同	同	〇一〇
四	胡麻子	同	〇三〇	同	同	同	〇一〇
五	棉子	同	〇二五	同	同	同	〇一五
六	其ノ他ノ穀物及種子	同	〇二〇	同	同	同	〇一〇
七	果實及菓子(砂糖糖蜜)	每立方尺	〇二〇	同	同	同	〇一〇
八	茶及咖啡	同	〇一五	同	同	同	〇一〇
九	香料	同	〇一〇	同	同	同	〇一〇
一〇	穀粉及澱粉類	每百斤	〇二五	同	同	同	〇一五
一一	小麦粉	同	〇二〇	同	同	同	〇一〇
一二	其ノ他	同	〇一五	同	同	同	〇一〇
一三	コンデンスドミルク	每立方尺	〇二〇	同	同	同	〇一〇

一三	バター	同	〇三〇	三三	牛革及水牛革	同	二八〇
一四	人造バター	同	〇二〇	一一	羊革	同	三〇〇
一五	チーズ	同	〇二〇	一二	ローラーレザー	同	一四五
一六	其ノ他ノ飲食物	同	〇二〇	一三	獸骨	同	〇五〇
一七	砂糖	同	〇五〇	一四	獸角	同	〇六〇
一八	糖類	同	〇三〇	一五	第六類 化學藥材、 製藥材、 調劑藥	同	〇五五
一九	菓子	同	〇二〇	一六	ホウワ	同	〇三〇
二〇	シヤム、フルートセ リー類	同	〇二〇	一七	甘草	同	一八〇
二一	砂糖類、糖木又ハ 蜂蜜ヲ以テ貯藏シタ ル蔬菜及果實	同	〇二〇	一八	亞拉馬亞護膜	同	〇三〇
二二	葡萄酒(箱入ノモノ)	同	〇二〇	一九	阿膠	同	〇六五
二三	同(樽入ノモノ)	同	〇三〇	二〇	重炭酸曹達	同	〇二〇
二四	シヤンパン	同	〇三〇	二一	明礬	同	〇六〇
二五	ブランデー(箱入 ノモノ)	同	〇三〇	二二	佩里設林	同	〇四〇
二六	同(樽入ノモノ)	同	〇二五	二三	アニリンソルト	同	〇二五
二七	ウ非スキー(箱入ノ モノ)	同	〇六〇	二四	其ノ他ノ藥材、化學 藥製藥及調劑藥	同	〇三〇
二八	同(樽入ノモノ)	同	〇二〇	二五	第七類 油、脂 及蠟	同	〇三〇
二九	其ノ他ノ酒類(箱入 ノモノ)	同	〇六五	二六	亞麻子油	同	〇七五
三〇	同(樽入ノモノ)	同	〇二〇	二七	蓖麻子油	同	〇四五
三一	毛皮	同	〇三〇	二八	阿列布油(箱入ノモ ノ)	同	〇三〇
三二	獸皮	同	〇二五	二九	同(樽入ノモノ)	同	〇四〇
三三	獸皮	同	〇一五	三〇	同(樽入ノモノ)	同	〇三五

五二	ステアリン	同	〇二〇	七四	其ノ他ノ絲織、絹織 及同材料	同	〇三五
五三	蠟燭	同	〇二〇	七五	金巾類	同	〇四〇
五四	其ノ他ノ油、脂及蠟	同	〇二〇	七六	綿襪子、綿イタリ ア シネ及更紗	同	〇三〇
五五	藍(箱入ノモノ)	同	〇七五	七七	綿フランネル	同	〇二五
五六	同(樽入ノモノ)	同	〇七〇	七八	傘用綿布	同	〇五〇
五七	ログウッド 越後斯	同	〇三〇	七九	羅紗及セルデス	同	〇四〇
五八	アニリン染料	同	〇三〇	八〇	モスリン	同	〇八〇
五九	アリザリン染料(箱 入ノモノ)	同	〇六五	八一	イタリアンクロ ー	同	〇四〇
六〇	同(樽入ノモノ)	同	〇五五	八二	フランネル	同	〇四五
六一	郡青	同	〇二五	八三	手巾	同	〇五〇
六二	朱	同	〇七五	八四	ブランケット	同	〇三〇
六三	ベイント	同	〇三〇	八五	其ノ他ノ布帛及布帛 製品	同	〇六〇
六四	ヴァニシエ(箱入ノモ ノ)	同	〇三〇	八六	肌衣	同	〇四〇
六五	同(樽入ノモノ)	同	〇四〇	八七	手袋	同	〇五五
六六	鉛筆	同	〇三〇	八八	袴釣	同	〇二五
六七	墨汁(箱入ノモノ)	同	〇四〇	八九	帽子	同	〇二五
六八	同(樽入ノモノ)	同	〇三〇	九〇	印刷料紙	同	〇二〇
六九	船底塗料	同	〇三〇	九一	筆記用紙	同	〇二〇
七〇	其ノ他ノ染料、顔料 及塗料	同	〇四〇	九二	フアンシーペーパー	同	〇二〇
七一	第九類 繩索及 繩索及 同材料	同	〇三五	九三	圖畫用紙	同	〇二〇
七二	綿織絲及綿織絲	同	〇三〇				
七三	亞麻織絲及亞麻織絲	同	〇四〇				
七四	毛絲	同	〇三〇				

專賣局出張所工場試驗場名稱位置

名	稱	位	置
專賣局	伏見工場 津田沼試驗場 秦野試驗場 竹原試驗場 鹿兒島試驗場	京都府紀伊郡深草村 千葉縣千葉郡津田沼町 神奈川縣中郡秦野町 廣島縣賀茂郡竹原町 鹿兒島縣給良郡帖佐村	

專賣支局出張所名稱位置

專賣支局名	名	稱	位	置
水戸	一宮出張所 行徳出張所 野田出張所 岩井出張所 境井出張所 吉井出張所 飯野出張所 横濱出張所	千葉縣長生郡一宮町 千葉縣東葛飾郡行徳町 千葉縣東葛飾郡野田町 茨城縣猿島郡岩井町 茨城縣猿島郡境町 群馬縣多野郡吉井町 山梨縣中巨摩郡飯野村 神奈川縣横濱市		
東京	石塚出張所 大宮出張所 大塚出張所 大田出張所 馬頭出張所 烏山出張所 喜連川出張所	茨城縣那珂郡石塚村 茨城縣那珂郡大宮町 茨城縣久慈郡大塚町 茨城縣久慈郡大田町 茨城縣多賀郡馬頭町 福島縣石城郡平町 栃木縣芳賀郡真岡町 栃木縣宇都宮市		
茂木	喜連川出張所 烏山出張所 馬頭出張所 大田出張所 黒磯出張所	栃木縣鹽谷郡喜連川町 栃木縣那須郡烏山町 栃木縣那須郡馬頭町 栃木縣那須郡大田町 栃木縣那須郡東那須野村		
三春	郡山出張所 小野出張所 若松出張所 東根出張所 土崎出張所	福島縣安積郡郡山町 福島縣田村郡小野町 福島縣若松市 山形縣北村山郡東根町 秋田縣南秋田郡土崎港町		
仙臺	中波出張所 波出出張所 氣仙沼出張所 千代田出張所 大宮出張所 盛岡出張所 宮古出張所 青森出張所	福島縣相馬郡中村町 宮城縣牡鹿郡波出町 宮城縣本吉郡氣仙沼町 宮城縣東磐井郡千代田町 宮城縣仙臺郡盛岡町 宮城縣下閉伊郡宮古町 青森縣青森市		
函館	小樽出張所 小樽出張所	北海道小樽區		
小出	新潟出張所 新潟出張所 新潟出張所 新潟出張所 新潟出張所	新潟縣新潟市 新潟縣三島郡彌原村 新潟縣佐渡郡津町 新潟縣中頸城郡直江津町 長野縣松本市		
秦野	富士出張所	静岡縣富士郡大宮町		

茂木	三春	仙臺	函館	小出	秦野
喜連川出張所 烏山出張所 馬頭出張所 大田出張所 黒磯出張所	郡山出張所 小野出張所 若松出張所 東根出張所 土崎出張所	中波出張所 波出出張所 氣仙沼出張所 千代田出張所 大宮出張所 盛岡出張所 宮古出張所 青森出張所	小樽出張所 小樽出張所	新潟出張所 新潟出張所 新潟出張所 新潟出張所 新潟出張所	富士出張所
栃木縣鹽谷郡喜連川町 栃木縣那須郡烏山町 栃木縣那須郡馬頭町 栃木縣那須郡大田町 栃木縣那須郡東那須野村	福島縣安積郡郡山町 福島縣田村郡小野町 福島縣若松市 山形縣北村山郡東根町 秋田縣南秋田郡土崎港町	福島縣相馬郡中村町 宮城縣牡鹿郡波出町 宮城縣本吉郡氣仙沼町 宮城縣東磐井郡千代田町 宮城縣仙臺郡盛岡町 宮城縣下閉伊郡宮古町 青森縣青森市	北海道小樽區	新潟縣新潟市 新潟縣三島郡彌原村 新潟縣佐渡郡津町 新潟縣中頸城郡直江津町 長野縣松本市	静岡縣富士郡大宮町

名古屋	金澤	神戶	赤穂	味野
靜岡縣藤原郡川崎町 靜岡縣磐田郡見付町 靜岡縣濱名郡濱松町 愛知縣幡豆郡吉田村 愛知縣知多郡半田町 三重縣多氣郡東黒部村 三重縣度會郡神村	宮山縣射水郡伏木町 石川縣珠洲郡飯田町 石川縣珠洲郡西海村 石川縣鳳至郡津島町 石川縣石川郡鶴來町 福井縣大野郡勝山町 福井縣敦賀郡敦賀町	滋賀縣神崎郡八口市町 大阪府大府市 和歌山縣西牟婁郡田邊町 和歌山縣海草郡紀三井寺村	兵庫縣印南郡大鹽村 兵庫縣揖保郡網干町 岡山縣邑久郡牛窓町 岡山縣兒島郡山田村 岡山縣兒島郡日比町 岡山縣淺口郡寄島町	寄島出張所 日比出張所 山田出張所 牛窓出張所 網干出張所 大鹽出張所 紀三井寺出張所

高梁	尾道	三田尻	阪出	見能林出張所
久世出張所 米子出張所 府中出張所 松永出張所 瀬戸出張所 竹原出張所 廿日市出張所 伯方出張所	小松志佐出張所 新港出張所 平生出張所 下松出張所 福川出張所 秋總出張所 長府出張所 菱海出張所	引田出張所 土庄出張所 高松出張所 宇多津出張所 詫間出張所 多喜濱出張所 波止濱出張所 三津濱出張所 宇和島出張所	德島縣德島市 德島縣那賀郡見能林村	岡山縣真庭郡久世町 鳥取縣西伯郡米子町 廣島縣瀨田郡府中町 廣島縣沼隈郡松永町 廣島縣豐田郡瀬戸町 廣島縣賀茂郡竹原町 廣島縣佐伯郡廿日市町 愛媛縣越智郡東伯方村

撫養	安藝出張所	高知縣高知市	高知縣高知市	高知縣幡多郡中村町	德島縣美馬郡真光町
池田	真光出張所	熊本縣八代郡文政村	熊本縣天草郡本渡町	熊本縣天草郡中村	熊本縣阿蘇郡高森町
熊本	山口出張所	熊本縣天草郡高森町	熊本縣玉名郡腹赤村	長崎縣長崎市	長崎縣東彼杵郡早岐村
	文政出張所	長崎縣北松浦郡佐佐村	佐賀縣西松浦郡伊萬里町	福岡縣福岡市	福岡縣宗像郡津屋崎町
	柳出張所	福岡縣宗像郡津屋崎町	福岡縣京郡小波瀬村	福岡縣朝倉郡志波村	福岡縣門司市
	高森出張所	福岡縣門司市	大分縣西國東郡高田町	大分縣東國東郡姬島村	大分縣速見郡杵築町
	早岐出張所	大分縣東國東郡姬島村	大分縣北海部郡白杵町	大分縣南海部郡佐伯町	大分縣直入郡豐岡村
	長崎出張所	大分縣南海部郡佐伯町	宮崎縣西臼杵郡高千穂村	宮崎縣東臼杵郡細島町	宮崎縣兒湯郡下穂北村
	熊本出張所	宮崎縣東臼杵郡細島町	宮崎縣兒湯郡下穂北村		

鹿兒島	宮崎縣宮崎郡宮崎町
鹿兒島	宮崎縣南郡那珂郡福島村
鹿兒島	鹿兒島縣肝屬郡垂水村
鹿兒島	鹿兒島縣始良郡國分村
鹿兒島	鹿兒島縣揖宿郡指宿村
鹿兒島	鹿兒島縣川邊郡加世田村
鹿兒島	鹿兒島縣日置郡西市來村
鹿兒島	鹿兒島縣薩摩郡東水引村
鹿兒島	鹿兒島縣出水郡上出水村
鹿兒島	鹿兒島縣鹿毛郡北種子村
鹿兒島	鹿兒島縣大島郡金久村
鹿兒島	沖繩縣那覇區

專賣局製造所支所名稱位置

專賣局製造所名	名稱	位置
東京第一	橫濱支所	神奈川縣橫濱市
東京第三	飯野支所	山梨縣中巨摩郡飯野村
高崎	松本支所	長野縣松本市
水戸	太田支所	茨城縣久慈郡太田町
	湊支所	茨城縣那珂郡湊町
宇都宮	烏山支所	栃木縣那須郡烏山町
	馬頭支所	栃木縣那須郡馬頭町
	大田原支所	栃木縣那須郡大田原町
郡山	須賀川支所	福島縣岩手郡須賀川町
	若松支所	福島縣若松市

仙	山	關	見	名	金	彦	大	岡
蠶	形	原	付	古	澤	根	阪	山
一關支所	米澤支所	秋田支所	新瀉支所	豐橋支所	勝山支所	八日市支所	高田支所	久世支所
巖手縣西磐井郡一關町	山形縣米澤市	山形縣北村山郡東根町	新瀉縣新瀉市	靜岡縣濱名郡濱松町	石川縣石川郡鶴來町	滋賀縣神崎郡八日市町	奈良縣葛城郡高田町	岡山縣真庭郡久世町
巖手縣盛岡支所	山形縣米澤市	秋田縣秋田市	新瀉縣長岡市	愛知縣豐橋市	富山縣上野郡高梁町	兵庫縣神戶郡西宮市	和歌山縣和歌山市	岡山縣上房郡高梁町
巖手縣盛岡支所	山形縣米澤市	秋田縣秋田市	新瀉縣長岡市	愛知縣豐橋市	富山縣上野郡高梁町	兵庫縣神戶郡西宮市	和歌山縣和歌山市	岡山縣上房郡高梁町
巖手縣盛岡支所	山形縣米澤市	秋田縣秋田市	新瀉縣長岡市	愛知縣豐橋市	富山縣上野郡高梁町	兵庫縣神戶郡西宮市	和歌山縣和歌山市	岡山縣上房郡高梁町
巖手縣盛岡支所	山形縣米澤市	秋田縣秋田市	新瀉縣長岡市	愛知縣豐橋市	富山縣上野郡高梁町	兵庫縣神戶郡西宮市	和歌山縣和歌山市	岡山縣上房郡高梁町
巖手縣盛岡支所	山形縣米澤市	秋田縣秋田市	新瀉縣長岡市	愛知縣豐橋市	富山縣上野郡高梁町	兵庫縣神戶郡西宮市	和歌山縣和歌山市	岡山縣上房郡高梁町

府	池	松	福	熊	鹿	專賣官吏派出所名稱位置(一)
中	田	山	岡	木	兒	
廣島支所	井川支所	三島支所	門司支所	島原支所	宮崎支所	專賣支局名
廣島縣廣島市	德島縣美馬郡真光町	愛媛縣宇摩郡三島町	福岡縣久留米市	長崎縣南高來郡島原町	宮崎縣宮崎郡大淀村	名
德島縣三好郡辻町	德島縣德島市	愛媛縣越智郡日吉村	福岡縣朝倉郡志波村	長崎縣北高來郡白杵町	鹿兒島縣始其郡國分村	稱
德島縣三好郡辻町	德島縣德島市	愛媛縣越智郡日吉村	福岡縣朝倉郡志波村	長崎縣北高來郡白杵町	鹿兒島縣始其郡國分村	位
德島縣三好郡辻町	德島縣德島市	愛媛縣越智郡日吉村	福岡縣朝倉郡志波村	長崎縣北高來郡白杵町	鹿兒島縣始其郡國分村	置
德島縣三好郡辻町	德島縣德島市	愛媛縣越智郡日吉村	福岡縣朝倉郡志波村	長崎縣北高來郡白杵町	鹿兒島縣始其郡國分村	
德島縣三好郡辻町	德島縣德島市	愛媛縣越智郡日吉村	福岡縣朝倉郡志波村	長崎縣北高來郡白杵町	鹿兒島縣始其郡國分村	
德島縣三好郡辻町	德島縣德島市	愛媛縣越智郡日吉村	福岡縣朝倉郡志波村	長崎縣北高來郡白杵町	鹿兒島縣始其郡國分村	

三 田 尻	高 梁	味 野	赤 穂	金 澤	名 古 屋	仙 臺	三 春
豐西上專賣官吏派出所 所	境專賣官吏派出所	西浦專賣官吏派出所 柳井專賣官吏派出所 水揚專賣官吏派出所 青江專賣官吏派出所 長濱專賣官吏派出所 小野田專賣官吏派出所	玉島專賣官吏派出所 福山專賣官吏派出所	白濱專賣官吏派出所 新濱專賣官吏派出所	大聖寺專賣官吏派出所 羽咋專賣官吏派出所 三方專賣官吏派出所	三戸專賣官吏派出所 田原專賣官吏派出所	石川專賣官吏派出所 坂下專賣官吏派出所 豐成專賣官吏派出所 米澤專賣官吏派出所 鶴岡專賣官吏派出所 増田專賣官吏派出所
山口縣下關市	鳥取縣西伯郡境町	山口縣佐波郡西浦村 山口縣玖珂郡柳井町 山口縣熊毛郡會根村 山口縣吉敷郡秋穂村 山口縣吉敷郡秋穂二島村 山口縣厚狹郡須惠村	岡山縣淺口郡玉島町 廣島縣深安郡三吉村	兵庫縣赤穂郡新濱村 兵庫縣飾磨郡白濱村	石川縣江沼郡大聖寺町 石川縣羽咋郡羽咋町 福井縣三方郡八村	青森縣三戸郡三戸町 愛知縣渥美郡田原町	福島縣石川郡石川町 福島縣河沼郡坂下町 福島縣南會津郡橋原村 山形縣米澤市 山形縣西田川郡鶴岡町 秋田縣平鹿郡増田町

鹿 見 島	熊 本	播 磨	阪 出
水俣專賣官吏派出所 所 名護專賣官吏派出所	細田專賣官吏派出所 小根占專賣官吏派出所 加治木專賣官吏派出所 東園分專賣官吏派出所 喜入專賣官吏派出所 東南方專賣官吏派出所 阿久根專賣官吏派出所	不知火專賣官吏派出所 喜津專賣官吏派出所 唐津專賣官吏派出所 今宿專賣官吏派出所 前原專賣官吏派出所 會根專賣官吏派出所 和田專賣官吏派出所 高家專賣官吏派出所 國東專賣官吏派出所	牟禮專賣官吏派出所 湯元專賣官吏派出所 林田專賣官吏派出所 琴平專賣官吏派出所 關戸專賣官吏派出所 三里專賣官吏派出所
鹿兒島縣北郡水俣村 鹿兒島縣出水郡阿久根村 鹿兒島縣南郡名護村	宮崎縣南郡那珂郡細田村 鹿兒島縣肝屬郡小根占村 鹿兒島縣始良郡加治木村 鹿兒島縣始良郡東園分村 鹿兒島縣掛箱郡喜入村 鹿兒島縣川邊郡東南方村 鹿兒島縣出水郡阿久根村	熊本縣宇土郡不知火村 長崎縣西彼杵郡喜津津村 佐賀縣東松浦郡唐津町 福岡縣糸島郡今宿村 福岡縣糸島郡前原町 福岡縣金敏郡會根村 大分縣下毛郡和田村 大分縣宇佐郡高家村 大分縣東國東郡國東町	香川縣木田郡牟禮村 香川縣木田郡湯元村 香川縣綾歌郡林田村 香川縣仲多度郡榎井村 德島縣板野郡關戸村 高知縣長岡郡三里村

宮古專賣官吏派出所
八重山專賣官吏派出所
沖繩縣宮古郡砂川村
沖繩縣八重山郡大波村

專賣官吏派出所名稱位置(二)

製造所名	名稱	位置
金澤	福井專賣官吏派出所	福井縣福井市

〔参照〕

明治四十年九月二十七日大藏省令第三十七號ハ專賣局收納所管轄區域及專賣局專賣局收納所專賣局製造所專賣局販賣所ノ出張所ノ工場藏置所試驗場名稱位置同四十一年四月十一日同第十一號ハ專賣官吏派出所名稱位置ナリ

○大藏省令第十二號
明治四十年九月九日大藏省令第二十八號中「專賣局收納所」ヲ「專賣支局」ニ改メ「專賣局販賣所」ヲ削除ス
附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月二十三日

〔参照〕

大藏省令第三十八號(明治四十年九月二十七日)

專賣局專賣局收納所專賣局製造所專賣局販賣所ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス
○大藏省令第十三號

明治三十四年大藏省令第六號中名古屋本金庫ノ次ヘ金澤本金庫ヲ加フ
明治四十二年三月二十五日

大藏大臣 侯爵桂太郎

〔参照〕

明治三十四年五月大藏省令第六號ハ各地金庫ニテ保管スル有價證券保管轉換ノ件ナリ

○大藏省令第十四號

明治三十八年二月大藏省令第四號煙草販賣規則中左ノ通改正シ本年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年三月二十六日

大藏大臣 侯爵桂太郎

本規則中「專賣局販賣所」專賣局製造所專賣局製造所藏置所專賣局製造所分工場又ハ專賣局販賣所藏置所「專賣局販賣所」專賣局販賣所藏置所專賣局製造所專賣局製造所藏置所又ハ專賣局製造所分工場「專賣局製造所」專賣局製造所藏置所、專賣局製造所分工場若クハ專賣局販賣所、專賣局販賣所藏置所」ヲ「煙草販賣官署」ニ改ム
第二十五條別表ヲ左ノ通改ム

煙草販賣官署	區	城
專賣局東京第一製造所	東京府(南多摩郡町田村、千葉縣、埼玉縣、茨城縣、山梨縣)	東京府(南多摩郡町田村、千葉縣、埼玉縣、茨城縣、山梨縣)
專賣局東京第一製造所支所	東京府(南多摩郡町田村、千葉縣、埼玉縣、茨城縣、山梨縣)	東京府(南多摩郡町田村、千葉縣、埼玉縣、茨城縣、山梨縣)
專賣局東京第三製造所	山梨縣	山梨縣
專賣局高崎製造所	群馬縣(群馬縣、埼玉縣)	群馬縣(群馬縣、埼玉縣)
專賣局高崎製造所支所	群馬縣(群馬縣、埼玉縣)	群馬縣(群馬縣、埼玉縣)
專賣局水戸製造所	茨城縣(水戸市、東茨城郡、西茨城郡、南茨城郡、北茨城郡)	茨城縣(水戸市、東茨城郡、西茨城郡、南茨城郡、北茨城郡)
專賣局水戸製造所支所	茨城縣(水戸市、東茨城郡、西茨城郡、南茨城郡、北茨城郡)	茨城縣(水戸市、東茨城郡、西茨城郡、南茨城郡、北茨城郡)

專賣局備本製造所	大分縣(津久井郡津久井町、中津郡津久井町、津久井郡津久井町、津久井郡津久井町)	愛媛縣(東宇和郡西宇和町、北宇和郡西宇和町)
專賣局熊本製造所	大分縣(大野郡)	
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(鹿兒島市、川内市、南大分郡、宮崎縣(北郷郡、南郷郡))	
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(東郷郡、中郷郡、西郷郡、南郷郡)	
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(鹿兒島市、川内市、南大分郡、宮崎縣(北郷郡、南郷郡))	
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(鹿兒島市、川内市、南大分郡、宮崎縣(北郷郡、南郷郡))	
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(鹿兒島市、川内市、南大分郡、宮崎縣(北郷郡、南郷郡))	
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(鹿兒島市、川内市、南大分郡、宮崎縣(北郷郡、南郷郡))	
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(鹿兒島市、川内市、南大分郡、宮崎縣(北郷郡、南郷郡))	
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(鹿兒島市、川内市、南大分郡、宮崎縣(北郷郡、南郷郡))	

○大藏省令第十五號
國債規則中左ノ通改正ス

明治四十二年三月二十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第四十一條 前條ノ規定ハ登錄國債ニ關スル質權ノ登錄ヲ變更シ又ハ抹消スル場合ニ之ヲ準用ス
 第四十一條ノ二 法令ノ規定ニ依リ登錄國債ヲ以テ質權ニ非サル擔保ノ目的ト爲シ之カ登錄ヲ請求セントスル者ハ其ノ法令ノ條項ノ擔保權者ノ住所氏名及第四十條第一項各號ニ準シタル事項ヲ記載シ且署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ
 第四十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十一條ノ三 前條ノ規定ハ質權ニ非サル擔保登錄ノ變更又ハ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ變更若ハ抹消ノ事由ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出シ又ハ當事者雙方カ其ノ請求書ニ連署捺印ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條及第八十條第一項第五號中質權ノ下ニ何レモ「其ノ他ノ擔保」ヲ加フ
 附則
 本令ハ明治四十二年四月十一日ヨリ施行ス

〔參照〕

大藏省令第二十三號國債規則(明治三十九年五月二十九日)抄錄
 第四十一條 前條ノ規定ハ登錄國債ニ關スル質權ノ移轉ニ因リ登錄ヲ變更シ及質權ノ消滅ニ因リ登錄ヲ抹消スル場合ニ之ヲ準用ス
 第四十二條 取扱店ニ於テ甲種國債登錄簿ニ新規變更、移記及質權ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ國債ノ種別、登錄金額、記號番號、記名及登錄濟年月日其ノ他ノ要件ヲ記載シタル登錄濟證書ヲ請求者ニ交付ス乙種國債登錄簿ニ質權ニ關スル登錄ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八十條第一項
 左ノ各號ノ請求ヲ爲ス者ハ下ニ掲クル割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ
 五 國債ノ新規登錄、登錄變更及質權ニ關スル登錄
 〔甲種國債登錄簿一件毎ニ金五錢
 乙種國債登錄簿記名證券一枚毎ニ金五錢〕

○大藏省令第十六號
 帝國鐵道會計規則ニ據リ同會計ニ要スル諸書類帳簿等ノ樣式左ノ通相定ム
 明治四十二年三月三十一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

- 一 歳入歳出豫定計算書 明治二十三年大藏省令第九號中第一號書式ニ準據
- 一 貸借對照表 別表第一號書式ニ據ル
- 一 損益計算表 別表第二號書式ニ據ル

- 一 資本價額増減表
 - 一 固定財産價額増減表
 - 一 仕拂豫算計算書
 - 一 歳入徴收官徴收報告書
 - 一 鐵道院總裁徴收總報告書
 - 一 金庫出納役仕拂請求書受領濟額報告書
 - 一 繰越計算書
 - 一 主計簿
 - 一 日記簿
 - 一 原簿
 - 一 補助簿
 - 一 歳入徴收官徴收簿
 - 一 金庫出納役支出簿
 - 一 金庫出納役仕拂元受高差引簿
 - 一 現金出納簿
 - 一 領收證書
- 別表第三號書式ニ據ル
 - 別表第四號書式ニ據ル
 - 明治二十三年大藏省令第九號中第四號書式ニ據ル
 - 同 第五號書式ニ據ル
 - 明治二十六年大藏省令第三十二號中第五號書式ニ據ル
 - 別表第五號書式ニ據ル
 - 明治二十六年大藏省令第三十二號中第八號書式ニ據ル
 - 歳入歳出ノ部ハ明治二十三年大藏省令第九號中第十一號書式甲乙ニ據ル
 - 仕拂元受ノ部ハ別表第六號書式ニ據ル
 - 別表第七號書式ニ據ル
 - 別表第八號書式ニ據ル
 - 別表第九號書式ニ據ル
 - 明治二十三年大藏省令第九號中第十五號書式ニ據ル
 - 同 第十六號書式ニ據ル
 - 別表第十號書式ニ據ル
 - 明治二十三年大藏省令第九號中第十九號書式ニ據ル
 - 同 第二十號書式ニ據ル

- 一 現金拂込書
- 一 仕拂請求書
- 一 現金前渡仕拂請求書
- 一 集合仕拂請求書

附則

本令ハ明治四十二年度會計ヨリ之ヲ適用ス

(別表)

〔第一號書式〕

(内及印章ハ朱)

借	現	收	固	時	工	合
種	入	定	場	場	場	
目	未	財	物	物	物	
金	濟	産	品	品	品	
方	〇	〇	〇	〇	〇	〇
額	〇	〇	〇	〇	〇	〇
貸	特	公	借	借	借	合
種	有	入	入	入	入	
目	資	資	資	資	資	
金	本	本	本	本	本	
方	〇	〇	〇	〇	〇	〇
額	〇	〇	〇	〇	〇	〇

〔第二號書式〕

某年度 帝國鐵道損益計算表

損	種	目	金額
鐵道	損	差引	金額
積立金	勘定	繰入	
資本勘定	繰入		
計			
利	種	目	金額
鐵道	利	種	金額
計			

〔第三號書式〕

某年度 帝國鐵道資本價額増減表

種	目	年度首價額	増	減	年度末價額	増減事由
特種	資本					
借入	資本					
公債	資本					
借入	資本					
鐵道會社	ヨリ					
借入	資本					
計						

〔第四號書式〕

某年度 帝國鐵道固定財産價額増減表

種	目	年度首價額	増	減	年度末價額	増減事由
固定	財産					
計						

第五號書式甲 受領濟額報告書

受領濟額		仕協豫算		備考
累計	合計	原	額	
原	額	原	額	
0	0	0	0	
0	0	0	0	

〔備考〕
 第一 帝國鐵道會計規則第十九條ニ據リ調製スヘキ仕協請求書受領濟額報告書ハ此書式甲乙ニ據ル
 第二 本書ハ其年度完結マテ通シテ調製スルモノトス
 第三 用紙ハ厚質縹沙引美濃紙若クハ之ニ類似ノ料紙ヲ以テ左側ニ曲尺一寸餘ノ緩代ヲ設ケ調製スルモノトス

明治四十二年三月省令 大藏省第十六號

鐵道歲出
領濟額報告書 第五號書式乙

請求書受領濟額				殘		備		考	
前月迄累計		合計							
圓	錢	圓	錢	圓	錢				
						「更正拂何々」			「0,000」
0		0				「定額戻入」			「0,000」
0		0				何々			
0		0		0		何々			
0		0		0					
宛 名 宛 名									

六三

明治四十二年三月省令 大藏省第十六號

某年度帝國鐵道資本勘定(帝國鐵道
明治何年何月分 (帝國鐵道積立金勘定)歲出仕拂請求書

款	項	仕 拂 繰 算 額			仕 拂 請 求 額				
		本月分		前月迄累計	本月分		前月迄		
		圓	錢	圓	圓	錢	圓		
何	何	0		0		0		0	
	合計	0		0		0		0	
		書面之證明		= 付 證 明 有 之 度 候 也		= 治 何 年 何 月 何 日 何 金 庫 宛		= 治 何 年 何 月 何 日 何 官 氏 名 宛	
		證明之書面		= 明 治 何 年 何 月 何 日 何 仕 拂 命 令 官 官 氏 名 宛		= 候 也 何 年 何 月 何 日 何 納 役 行 總 裁 氏 名 宛			

六二

年月日		摘要	仕拂元受高		支出済額		残	
何	何	何年何月中	圓	銭厘	圓	銭厘	圓	銭厘
		資本持越高	0					
		歳入ヨリ組換	0					
		仕拂請求書受領済額			0			
		出納官吏へ交付額			0			
		翌年度へ繰越			0			
		出納官吏ヨリ戻入額	0					
		鐵道益金繰入ノ爲拂出			0		0	

備考
第一
帝國鐵道會計規則第三十二條ノ仕拂元受
主計簿ハ此書式ニ據ル
第二
本簿ハ金庫出納後ノ仕拂請求書受領済額
報告書ニ依リ登記ス

摘要	仕拂元受高						仕拂	
	本月分		前月迄累計		合計		本月分	
	圓	銭厘	圓	銭厘	圓	銭厘	圓	銭厘
資本持越高	0		0		0			
歳入ヨリ組換	0		0		0			
仕拂請求書受領済額							0	
出納官吏へ交付額							0	
翌年度へ繰越							0	
出納官吏ヨリ戻入額	0		0		0			
鐵道益金繰入ノ爲拂出							0	
合計	0		0		0		0	

書面之通ニ付證明有之候也
明治何年何月何日
何金庫印
仕拂命令官官氏名
證明ス
明治何年何月何日
仕拂命令官官氏
書面之通ニ候也
明治何年何月何日
金庫出納役
日本銀行總裁氏

2. 明治何年何月何日

原簿 丁數	摘要	借		貸	
		圓	分	圓	分
	前 高 締 束	0		0	
1.	出 納 官 吏	0			
	鐵道資金收入			0	
	鐵道用品及工作收入			0	
	鐵道作業收入			0	
	歲入歲出外勘定			0	
	收 入 高				
	用品工作受拂過不足	0			
	收 入 未 濟			0	
	用品受拂代收濟=付決算				
	鐵道建設及改良費	0			
	鐵道用品及工作費	0			
	鐵道作業費	0			
	金 庫			0	
	繰替拂=對シ仕拂請求發付				
	金 庫	0			
	鐵道建設及改良費繰替拂			0	
	鐵道用品及工作費繰替拂			0	
	鐵道作業費繰替拂			0	
	同上仕拂請求發付以テ鐵道資金收入、鐵道用品及工作收入及鐵道作業收入繰替拂込				
	金 庫	0			
	出 納 官 吏			0	
	現款=テ款入金拂込(又、入金戻入)	0		0	

「第七號書式」

某 年 度

帝 國 鐵 道

日 記 簿

何 廳

「備考」

「帝國鐵道會計規則第三十三條ノ日記簿ハ此書式ニ據ル」

4. 明治何年何月何日					
原簿 丁數	摘要	借		貸	
		圓	角	圓	角
	鐵道作業收入	0			
	損益			0	
	本年度收入濟額轉記	0			
	損益			0	
	鐵道作業費			0	
	本年度支出濟額轉記	0			
	損益			0	
	金庫			0	
	本年度鐵道益金繰入ノ爲拂出	0			
	金庫			0	
1.	積立金			0	
	鐵道資金收入			0	
1.	本年度鐵道益金繰入	0			
	鐵道資金收入			0	
	特有資本			0	
	借入金			0	
	公債其他差増			0	
	本年度收入計公債、借入金、既老益金繰入及増収入 費品			0	
	公債其他差増	0			
	特有資本			0	
	同上差増金資本へ編入			0	
	追次合計	0		0	

1. 明治何年何月何日					
原簿 丁數	摘要	借		貸	
		圓	角	圓	角
	金庫	0			
1.	鐵道資金收入			0	
	收入高更			0	
	出納官吏	0			
	金庫			0	
	金庫ヨリ資金受入			0	
	貯藏物品	0			
	支出未済			0	
	用品購入代			0	
	鐵道建設及改良費繰替拂	0			
	鐵道用品及工作費繰替拂	0			
	鐵道作業費繰替拂	0			
	出納官吏			0	
	線替拂高			0	
	支出未済			0	
	用品工作受拂過不足			0	
	用品購入代價仕拂済ニ付決算			0	
	收入未済	0			
	貯藏物品			0	
	用品工作受拂過不足			0	
	用品賣拂代			0	
	追次合計	0		0	

明治何年何月何日					5.				
原簿 丁數	摘 要	借			貸				
		圓	錢	厘	圓	錢	厘		
	前 棄 繰 高	0			0				
	公債其他差損	0							
	借入資本				0				
	公債其他差損								
	特有資本	0							
	公債其他差損				0				
	同上差損金資本ヨリ控除								
	固定財産	0							
	鐵道建設及改良費				0				
	本年度支出濟額轉記								
	鐵道用品及工作收入	0							
	用品工作受拂過不足				0				
	本年度收入濟額轉記								
	用品工作受拂過不足	0							
	鐵道用品及工作費				0				
	本年度支出濟額轉記								
	用品工作受拂過不足	0							
	特有資本				0				
	本年度用品及工作受拂過不足資本へ因入								
	固定財産	0							
	特有資本				0				
	取崩勘定=於テ補充ニ事ノ為支出シタル金額								
		0			0				

明治何年何月何日					3.				
原簿 丁數	摘 要	借			貸				
		圓	錢	厘	圓	錢	厘		
	工場勘定	0							
	用品工作受拂過不足				0				
	<small>工作費及工場員給給及諸給仕拂高</small>								
	工場勘定	0							
	貯藏物品				0				
	工場へ物品引渡								
	貯藏物品	0							
	工場勘定				0				
	工場ヨリ新製品受入								
	收入米濟	0							
	工場勘定				0				
	用品工作受拂過不足				0				
	修繕品落成引渡								
	特有資本	0							
	固定財産				0				
	譲渡(又ハ減失)=付價格扣除								
	用品工作受拂過不足	0							
	貯藏物品				0				
	<small>取崩勘定=付(又ハ不用=貯シタル=付)價格扣除</small>								
		0			0				

年月日		摘要	日記 丁數	借		貸		借或貸	殘	
				圓	錢	圓	錢		圓	錢
何	何	金庫	1.			0				
	何	出納官吏	2.			0		貸	0	
何	何	金庫	4.			0			0	
	何	特有資本外二件	5.	0					0	

「第八號書式」

某 年 度
 帝 國 鐵 道
 原 簿

「備考」
 「帝國鐵道會計規則第三十三條ノ原簿ハ此書式ニ據ル」

何 應

「第九號書式」

某 年 度
 帝 國 鐵 道

補 助 簿

何 廳

「備考」
 「第一」帝國鐵道會計規則第三十三條ノ補助簿ハ此書式ニ據ル
 「第二」本簿ハ原簿科目毎ニ必要ナル細科目ニ區分口座ヲ設ケ出納ヲ登記スルモノトス
 「第三」細科目ノ區分ハ鐵道院ノ定ムル所ニ據ル

何々(原簿科目)		何々(細科目)							
年月日	摘要	証憑番號	借		貸		借或貸	残	
			圓	分	圓	分		圓	分
何何	何々何々		0			0	借	0	

明治四十二年三月三十一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

- 帝國鐵道會計所屬出納官吏雜部保管金取扱手續
- 第一條 帝國鐵道會計所屬出納官吏雜部保管金ノ取扱手續ハ本手續ニ定ムルモノ、外一般出納官吏ノ雜部保管金ニ關スル規程ニ依ル
- 第二條 帝國鐵道會計所屬出納官吏ハ其ノ雜部保管金ヲ取扱フ金庫ノ所在地外ニ在ル帝國鐵道會計所屬出納官吏又ハ債主ニ送金ヲ要スルトキ當該金庫ニ對シ雜部保管金ノ送金ヲ請求スルコトヲ得
- 前項ノ送金ニシテ至急ヲ要スル場合ニ限リ電信送金ヲ請求スルコトヲ得
- 第三條 帝國鐵道會計所屬出納官吏ハ前條ノ請求ヲ爲サントスルトキ第一號書式ノ雜部送金請求書ヲ當該金庫ニ送付シ第二號書式ノ雜部保管金仕拂通知書ヲ出納官吏又ハ債主ニ送付スヘシ
- 前條第二項ニ依ル場合ハ雜部保管金仕拂通知書ニ替ヘ電信ヲ以テ出納官吏又ハ債主ニ仕拂ノ通知ヲ爲スヘシ
- 第四條 帝國鐵道會計所屬出納官吏ハ第三號書式ノ整理簿ヲ設ケ送金ノ請求ヲ爲シタルトキ其ノ金額ヲ送金請求額ノ欄ニ登記シ置キ當該金庫ヨリ出納官吏又ハ債主ノ領收證ノ送付ヲ受ケタルトキ其ノ金額ヲ仕拂濟額ノ欄ニ登記シテ決算シ領收證ノ集計額ニ對シ雜部保管金引出切符ヲ發行スヘシ
- 前項ノ雜部保管金引出切符ハ表面餘白ニ「送金」ノ押印ヲ爲スヘシ
- 第五條 帝國鐵道會計所屬出納官吏ノ交替若ハ死等ノ場合ニ前條ノ決算未濟額アルトキハ其ノ未濟額ハ繼承セル後任出納官吏ノ出納整理ニ屬スルモノトス
- 第六條 雜部保管金仕拂通知書ノ盜難又ハ亡失ノ場合ノ手續ハ仕拂命令等盜難又ハ亡失ニ關スル規程ニ依ル
- 附則
- 第七條 明治四十年三月大藏省令第九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第一號書式

用紙寸法 縱曲尺四寸五分 橫同

輪廓寸法 縱三寸二分 橫四寸二分

雜 部 送 金 請 求 書

第 號

金 何 圓 何 拾 何 錢 也

本行ノ金額 住所 氏名へ(電信)送金ヲ要ス

某 出納官吏 官 氏 名 印

明治 年 月 日

委 託 金 庫 宛

備考

出納官吏(送金ノ場合ハ在勤廳及官氏名ヲ記載スルモノトス
番號ハ雜部保管金仕拂通知書ト同一番號ヲ記載スヘシ
住所ハ道府縣郡市町村字番地等詳細ヲ記スヘシ
本封ハ左方ニ曲尺八分ノ綴代ヲ設クヘシ

第二號書式

用紙寸法 縱曲尺五寸二分 横同六寸三分

輪廓寸法 縱四寸四分 横五寸四分

雜部保管金仕拂通知書

第	號	取 扱 處 名
---	---	---------

何 之 誰 殿

金 何 圓 何 拾 何 錢 也

本行ノ金額ハ雜部保管金ヲ取扱フ金庫ヨリ送金可致候也

出納官吏官氏名印

明治 年 月 日

雜部保管金ヲ取扱フ 金庫名

圓	
0	

領 收 證

前記ノ金額領收候也

明治何年何月何日

收入 印紙 印

住 所

受 取 人

何

之 誰 印

注意 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

第二號書式裏面

注意事項

- 一 受取人金庫ヨリ送金ヲ受ケタルトキハ直チニ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ署名捺印シテ現金領收ノ證トシテ送金ヲ取扱ヒタル金庫ニ送付スヘシ
- 一 印章ハ請求書ニ押捺シタルモノト同一ノモノニ限ル
- 一 受領金額五圓以上ノモノハ參對收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但營業ニ關セサルモノハ此限ニアラス

第三號書式

雜部保管金送金整理簿

何 應

年月日	摘要	送金請求額		仕拂濟額		仕拂未済額	
		債主氏名	金額	債主氏名	金額	金額	金額
何々何	何々何領收書第 號	何某	0	何某	0	0	0
何々何		何某	0				

〔参照〕
 明治四十年三月二日 大藏省令第九號ハ帝國鐵道官署現金出納官吏ノ雜部保管金ニ關スル取扱手續ナリ

○大藏省令第十八號

臺灣總督府稅關ニ於テ關稅法施行規則ニ依リ納付セシムヘキ左ノ手数料ニ關シテハ明治三十四年臺灣總督府令第四十號ヲ準用ス

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月三十一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

- 一 稅關及稅關支署輸入貨物ニ關スル臨時開應特許手数料
- 二 稅關及稅關支署輸入貨物積卸、引取及發送特許手数料
- 三 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於ケル輸入貨物檢査特許手数料
- 四 輸入貨物ニ關スル證明手数料
- 五 輸入貨物ニ關スル計表手数料

○陸軍省令第二號

明治四十年、四十一年韓國暴徒鎮壓事件ニ從事シタル功勞者ニ賜與セラルヘキ一時賜金交付手續左ノ通定ス

明治四十二年二月六日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

- 第一條 明治四十年、四十一年韓國暴徒鎮壓事件ニ從事シタル陸軍軍人軍屬及雇員傭人等ニシテ賜金ヲ受クヘキ者辭令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ賜金請求書附錄第一ニ金額、原所屬部隊、現住所、官氏名其ノ他所要ノ事項ヲ記入シ捺印ノ上陸軍各部隊及諸官廳ニ在ル者ハ所屬長其ノ他ノ者ニ在リテハ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ辭令書ヲ提供シ正當受給者タル證明ヲ受ケ本人若ハ代理人ヨリ直ニ陸軍會計監督部ニ差出スヘシ
- 第二條 陸軍會計監督部前條ノ賜金請求書ヲ受ケタルトキハ正當受給者タルコトヲ審査シ原簿ニ

對照ノ上金額氏名表ヲ調製シ現金又ハ公債證書ヲ以テ直ニ賜金交付ノ手續ヲ爲スヘシ
 第三條 受給者公債證書ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ受領證書 附錄 第二ヲ直ニ陸軍會計監督部ニ提出シ現金ハ指定金庫ニ於テ受領スヘシ
 第四條 賜金受給者發令後死歿シ若ハ受領ノ資格ヲ失ヒタルトキハ正當繼承者若ハ財産管理人ニ於テ其ノ事實ヲ證明シ賜金受領ノ手續ヲ爲スヘシ
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 附錄第一

本請求書ハ陸軍會計監督部ニ提出スヘシ	
賜金請求書	
賜金額	
原所屬部隊	
現住所	
右請求候也	
明治年月日	
前書之通辭令書ニ對照シ正當受給者ニ相違ナキコトヲ證明ス	
明治年月日	

一 本請求書用紙ハ各人一枚ヲ限リ辭令書ト共ニ配付スルモノナルヲ以テ紛失其ノ他ノ事由ニ依リ再交付ヲ要スルトキハ所屬部隊官廳ノ長若ハ市區町村長ノ證明ヲ受ケ陸軍會計監督部ニ請求スヘシ
 二 請求者ハ賜金受領ノ所屬部隊及現住所ヲ記入シ年月日ノ下ニ官氏名ヲ記入調印シ各部隊長及諸官廳ニ在ル所屬長其ノ他ノ者ニ在リテハ現居住地ノ市區町村長ノ證明ヲ受ケ本人若ハ代理人ヨリ直ニ陸軍會計監督部ニ差出スヘシ
 三 原所屬部隊ノ欄ニハ明治四十一年十月迄日ノ所屬部隊(韓國ヨリ歸國シタル者ニシテ渡韓セサル部隊ニ屬シ又ハ解散セラレタル者ハ在韓中ニ於ケル最後ノ所屬部隊ヲ記入スヘシ)
 四 現住所ノ欄ニハ現役者及諸官廳ニ在ル者ニ在リテハ現所屬部隊又ハ官廳其ノ他ノ者ニ在リテハ現居住地ノ市區町村長ノ證明ヲ受ケ其ノ旨ヲ陸軍會計監督部ニ提出スヘシ
 五 請求書提出後賜金受領前ニ於テ所屬長若ハ現居住地ノ市區町村長ノ證明ヲ受ケ其ノ旨ヲ陸軍會計監督部ニ提出スヘシ
 六 代理人ニテ賜金ノ受領ヲ爲ス場合ニハ受給者ノ委任狀ヲ添付提出スヘシ
 七 賜金受給者辭令書ノ日附以後ニ於テ死歿シ又ハ受領ノ資格ヲ失ヒタルトキハ民法ノ規定ニ依リ正當ノ繼承者ヨリ請求スヘシ此ノ場合ニ在リテハ本書ニ戸籍簿本ヲ添付スヘシ
 八 賜金ニ關スル願問合等ノ場合ニ在リテハ總テ原所屬部隊名及韓國暴徒鎮壓事件ニ關スル行實ト記入スヘシ
 賜金内譯 公債證書記號番號ハ賜金取扱總ニ於テ記入スルモノトス

種別	記號	番號	數量	公債證書換算額
五百圓券	號	番	枚	
百圓券	號	番	枚	
五十圓券	號	番	枚	
現金				
公債額面ニ對スル一月分月割利子				

附錄第二

注意
 本公債ノ外端金ハ仕補命令通知書ヲ以テ交付ス
 本賜金受領者ハ明治四十一年十月廿日ノ所屬部隊及現住所部隊名
 官氏名ヲ記入シ、並ニ請求書ニ用ヒタル印ヲ捺捺スヘシ
 本受領證書ハ公債證書ト對照ノ上公債送達者ニ渡スヘシ
 賜金受領前ニ於テ紛失其ノ他ノ事由ニ依リ改印シタル場合ニ在リテ
 ハ改印證明書ヲ添附スヘシ

金領氏名表 受領證書

一 特別帝國政府五分利公債證書額面
 此指定價格換算金

(但額面百圓ニ對シ九十五圓ノ割)

内 譯

五百圓券號	番	枚	明治四十二年
百圓券號	番	枚	六月渡以降利
五十圓券號	番	枚	札附屬

但シ明治四十年、四十一年韓國暴徒鐵壓事件ノ功勞ニ依リ一時賜金 圓ノ内
 右正ニ受領候也

原所屬部隊
 現住所

明治年月日

○陸軍省令第三號

明治四十一年陸軍省令第十九號ハ之ヲ廢止ス但シ同令ニ依リ在營期間ヲ延期セラレ韓國ニ在ル者
 ハ内地歸著後除隊ノ日ヲ以テ其ノ延期ヲ解ク

本令ハ明治四十二年三月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月十日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

〔參照〕

明治四十一年二月 陸軍省令第十九號ハ歩兵第十三聯隊外六聯隊ニ屬スル明治三十九年徵集現役歩兵、同番護手在營
 期間延期ノ件ナリ

○陸軍省令第四號

陸軍召募規則中左ノ通改正ス

明治四十二年三月二十七日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第五十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

生徒ノ納ムヘキ金額左ノ如シ

半特待生

毎月納金四圓

自費生

毎月納金八圓

第五十二條 前條ノ納金ハ之ヲ實費ト看做シ追徴又ハ還付セス但シ在學中退校又ハ死亡ノ場合ニ
 在リテハ其ノ退校又ハ死亡ノ月以後ニ係ル既納金額ヲ拂戻スモノトス

第五十三條中「初度被服料及ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ」

前項ノ納金ハ幼年學校ニ於テ歲入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

附 則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

陸軍省令第三十四號陸軍召募規則(明治三十二年十一月十五日)抄錄
 第五十一條 生徒ノ納ムヘキ金額ハ左ノ如シ

半特待生 初年度納金十五圓
 自費生 初年度納金四圓
 特待生及半特待生中自己ノ便宜ヲ以テ退校ヲ願出ツル者アルトキハ其ノ事情ヲ酌量シ自費生ノ納金額ニ準シ在學中ノ費用ヲ納メシムルコトアルヘシ
 初年度納金七圓
 初年度納金三十五圓

第五十二條 前條ノ納金ハ實費ヲ精算シ不足スルトキハ之ヲ追納セシメ殘餘ハ之ヲ還付ス
 第五十三條 初年度納金及入校當月ノ納金ハ入校ノ前月二十八日迄ニ爾後毎月ノ納金ハ其ノ前月二十八日迄ニ身元保證人ヨリ當該學校ニ納付スヘシ但便宜ニ依リ若干月分ヲ前納スルコトヲ得

○陸軍省令第五號

陸軍一年志願兵條例施行細則中左ノ通改正ス

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一條 一年志願兵ハ年額百八圓ニ在リテハ百二十九圓ヲ入營スル月ノ前月十五日迄ニ所屬隊ニ納ムヘシ

前項ノ納金ハ當該部隊ニ於テ歲入納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 前條第一項ノ納金ハ服役ニ關スル費用ノ實費ト看做シ追徵若ハ還付セス但シ入營前死亡シ又ハ認定證書ヲ返還セシメタルトキハ納金ノ全額 服役中陸軍一年志願兵條例第二十一條ニ依リ通常ノ現役勤務ニ服スルトキハ其ノ當月ヨリ官給期間ニ係ル既納金額月割計算法ニ除隊若ハ死亡シタルトキハ其ノ當月以後ニ係ル既納金額ヲ本人又ハ遺族ニ拂戻スモノトス

第三條 陸軍一年志願兵條例第二十六條ニ依リ勤務演習ニ召集スル場合ニハ前二條ヲ準用ス但シ其ノ納ムヘキ金額ハ月割計算法ニ依リ二月分トス

第八條 志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者及徵兵検査ニ依ラス身體検査ヲ受クヘキ者ハ検査期日前検査地ニ到著シ書面ヲ以テ其ノ止宿所ヲ検査地所管師團司令部ニ届出ヘシ但シ検査地ニ現住ノ者ト雖本文ニ準シ届出ヘシ

第九條 第一項ニ但シ其ノ年徵兵検査ニ於テ甲種又ハ乙種ニ合格シタル者ニ在リテハ其ノ結果ニ從ヒ別ニ身體検査ヲ行ハサルモノトス」ヲ加ヘ、第二項中「身體検査ノ際軍醫」ヲ「學術試験ノ際試験委員」ニ改メ、左ノ一項ヲ加フ

聯隊區司令官ハ徵兵検査ニ於テ甲種又ハ乙種ニ合格シタル志願者ノ壯丁名簿寫ヲ師團長ニ差出シ他ノ師管ニ於テ學術試験ヲ受クヘキ者ニ在リテハ尙其ノ結果ヲ速ニ當該受驗地所管ノ師團長ニ通知スヘシ

第十條 中「其ノ」ノ下ニ「身體検査期日ハ九月四日」ヲ加フ

第十三條 中「成蹟ハ」ノ下ニ「學術受驗者ニ在リテハ之ニ寫眞紙ヲ添ヘ」ヲ加フ

第十五條 及第十八條 中「體格検査表」ノ下ニ「又ハ壯丁名簿寫」ヲ加フ

第十七條 第四號 中「要塞砲兵」ヲ「重砲兵」ニ改ム

第二十一條 第二項 中「與書」ヲ削ル

第二十四條 中「二十歲以上」ノ者ニ在リテハ「ヲ削ル

第二十七條 但書ヲ削ル

第二十九條 中「東京、京都、大阪」ノ三市ヲ「東京市、京都市、大阪市、名古屋市」ニ改ム

附則第五項 中「第九條」ノ下ニ「第一項」ヲ加ヘ、臺灣守備混成旅團長」ヲ「臺灣守備隊司令官」ニ改メ、其ノ被服ハ從前ノ規定ニ依リ、ヲ削リ、其ノ他ノ書類」ノ下ニ「及壯丁名簿寫」ヲ加ヘ、送付シ、」ノ下ニ「第

八條ノ屆書ハ其ノ地ノ守備隊司令部ニ差出シ、」ヲ加フ

附錄第一樣式中「臺灣守備混成旅團」ヲ「臺灣守備隊」ニ改ム

附錄第七樣式中「野戰」ヲ「野山砲」要塞」ヲ「重砲」ニ改メ、工兵ノ區畫ニ「電信隊」ノ一欄ヲ加フ

附錄第八樣式ヲ別紙ノ如ク改ム

附錄第九樣式中「野戰」ヲ「野山砲」要塞」ヲ「重砲」臺灣守備混成旅團」ヲ「臺灣守備隊」ニ改メ、工兵ノ區

盡ニ電信隊ノ一欄ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際服役中ニ在ル一年志願兵ノ服役ニ關スル費用ハ第一條第一項ノ金額ニ付本令施行以後ニ係ル分ヲ月割計算法ニ依リ明治四十二年四月三十日迄ニ所屬隊ニ納ムヘシ

第八様式

明治何年一年志願兵人員表

某師團司令部

種別	配當人員		配當後入營前ニ於ケル減員	入隊者	所定ノ期日ニ後入隊者	計
	本籍者	他籍者				
步兵						
騎兵						
砲兵						
野山砲						
重砲						
工兵隊						
鐵道隊						
電信隊						
計						
死						
計						
本籍者						
他籍者						
計						
本年						
同計						

備考	輜重兵	主計生	軍醫生	藥劑生	獸醫生	計
一 前年ニ於テ翌年同ト爲リ居リシ人員ハ相當區畫ニ朱書ヲ以テ別記スヘシ						
二 學術受驗者ハ「學」ノ符號ヲ附シテ表中ニ別記スヘシ第九様式亦同シ						
三 正當ノ事由ナク入隊セザル者又ハ入隊スルモ正當ノ事由ナク入隊ノ期ニ後レタル者アルトキハ本人ノ本籍師管ヲ備考ニ記スヘシ						
四 近衛師團ノ人員表中本籍者ノ區畫ニハ第一師管在籍者ヲ記シ他師管者ノ區畫ニハ第一師管以外ノ在籍者ヲ記スヘシ第九様式亦同シ						
五 臺灣守備隊ノ人員表ニハ本籍者ト他師管者ノ區別ヲ要セス						

〔參照〕

陸軍省令第十三號陸軍一年志願兵條例施行細則(明治三十七年三月二十九日)抄錄

- 第一條 一年志願兵ノ被服ハ左ノ區別ニ依リ取扱フヘシ
 - 一 第一種帽前立第二種帽緘衣袴略衣袴夏衣袴日履外套脚絆軍隊手膝ハ新品ヲ給シ其ノ代價ヲ納付セシム
 - 二 背囊被服手入具飯盒水筒履具ハ貯藏品ヲ貸與シ其ノ補修費ヲ納付セシム
 - 三 第一號ノ品種ハ新品ヲ支給スルノ外必要ニ應ジ貯藏品ヲ貸與シ其ノ補修費ヲ納付セシム
 - 四 前各號ノ外下士卒給與品ニ限リ必要ニ應ジ其ノ代價ヲ徴シ特ニ支給スルコトヲ得
- 第二條 糧食及馬糞ハ行軍又ハ演習中ト雖官給スルコトナシ
- 第三條 一年志願兵ハ左ノ金額ヲ入營スル月ノ前月十五日迄ニ所屬隊ニ納付スヘシ但シ第三號ハ騎兵科ノ者ニ限ル
 - 一 被服費、強藥費、兵器修理費 金四十五圓
 - 二 糧食費 金六十圓

三 馬糧費、鞍蹄費、別毛費、馬糞費

金百五十六圓

第八條 師團長ハ身體検査ノ時日ヲ定メ地方長官ニ通知シ地方長官ハ志願者ヲ検査場ニ出頭セシムヘシ
第九條 師團長ハ軍醫ヲシテ志願者ノ身體検査ヲ行ハシメ尙身體検査合格者中學術試験ヲ要スル者ハ部下ノ將校同相當官ニ試験委員ヲ命ジ其ノ試験ヲ行ハシム
學術試験ヲ受ケヘキ者ハ新ニ單身脱帽ニテ撮影シタル寫眞紙片ノ裏面ニ族籍氏名ヲ自書シ身體検査ノ際軍醫ニ差出スヘシ

第十條 一年志願兵出頭者ノ検査場ハ師團司令部所在ノ衛戍地トシ其ノ學術試験期日ハ九月五日トス
第十一條 師團長ハ検査ヲ終リタルトキ八月十日迄ニ合格人員表ヲ調製シ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ他ノ師管在籍者ノ成績ハ同日迄ニ受檢者本籍所在師管ノ師團長ニモ通知スヘシ

第十二條 他ノ師管ニ於テ服役スヘキ者ノ認定證書ハ本籍所在師管ノ師團長之ヲ付與シ其ノ人名書ニ體格検査表、願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ速ニ當該師團長ニ送付スヘシ
第十三條 一年志願兵各師管、各軍隊ニ配賦スルニハ左ノ各號ヲ參酌スルモノトス但シ主計生タラムコトヲ希望スル者ハ師團司令部所在地ノ步兵隊ニ配賦スルモノトス

第十四條 特別ノ技術ヲ修メ者ハ其ノ實験ヲ有スル者ハ其ノ技術ヲ必要トスル部隊ニ配賦スルコト例ヘハ鐵道隊工兵隊等ニハ成ルヘク土木電氣、機械、冶金採礦、物理ニ關スル技能アル者要緊砲兵隊ニハ成ルヘク電氣、機械ニ關スル技能アル者ヲ配賦スル等

第十五條 師團長ハ其ノ師管内ノ軍隊ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ其ノ體格検査表、願書其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ入營前聯隊長ニ下付スヘシ但シ近衛師團ニ於テ服役スヘキ者ニ關スル書類ハ第一師團長ヨリ近衛師團長ニ送付シ同師團長ニ於テ下付ノ手續ヲ爲スモノトス

第十六條 條例第十三條ニ依リ入營ノ延期ヲ願出テムトスルトキハ願書ニ證據書類ヲ添ヘ本籍地市町村長、島司、郡長、聯隊區司令官ヲ經テ服役スヘキ軍隊所管ノ師團長ニ差出スヘシ
第十七條 市町村長ハ前項ノ願書ニ典書證明ヲ爲スヘキモノトス

第十八條 聯隊長ハ一年志願兵中所定ノ期日ニ入營セサル者アルトキハ之ヲ師團長ニ報告シ二十歳以上ノ者ニ在リテハ尙本籍地ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
第十九條 一年志願兵認定證書ヲ有スル者入營シタルトキ又ハ翌年同ト爲リタルトキハ十四日以内ニ本籍地ノ市町村長ニ届出ヲヘシ但シ十一月三十日迄ニ滿二十歳ニ達セサル者ハ之ヲ要セス

第二十條 本則中聯隊長トアルハ獨立隊ニ在リテハ該隊長、聯隊區司令官トアルハ警備隊區ニ在リテハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官、島司又ハ郡長トアルハ北海道ニ在リテハ支隊長又ハ區長、沖繩縣ノ區ニ在リテハ區長、島司又ハ郡長ヲ置

カサル島嶼ニ在リテハ島司又ハ郡長ニ準スヘキ者、市長トアルハ東京、京都、大阪ノ三市ニ在リテハ區長、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ町村長ニ準スヘキ者ニ該當ス

附則第五項 條例附則ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニ關シテハ第五條第九條第十條第十一條第十二條第十八條乃至第二十條第二十二條第二十四條及第二十五條中師團長トアルハ臺灣守備混成旅團長ニ該當シ、其ノ被服ハ從前ノ規定ニ依リ、第四條ノ願書其ノ他ノ書類ハ本籍所在師管ノ師團長ヨリ臺灣守備混成旅團長ニ送付シ、検査ハ臺灣守備混成旅團長適宜當該司令部所在地ニ召集シテ之ヲ行ヒ、認定證書ハ検査終了後臺灣守備混成旅團長ニ於テ適宜之ヲ付與シ、第二十一條ノ書類ハ直接臺灣守備混成旅團長ニ差出スモノトス

○陸軍省令第六號 徵兵検査規則左ノ通改正ス

明治四十二年三月三十一日 陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一條 徵兵並徵兵令第十二條及第十三條ニ依ル志願兵ノ身體検査ハ本規則ニ依リ施行スルモノトス

第二條 前項ノ検査ニハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

- 一 惡性腫瘍
- 二 骨軟化、佝僂病
- 三 象皮腫、癩
- 四 動脈瘤
- 五 癩癩
- 六 白癩
- 七 癲狂
- 八 盲

- 九 耳殼若ハ鼻ノ全缺スル者
 - 十 聾
 - 十一 啞
 - 十二 唇、齒牙、口内ノ疾病ニシテ官能ニ大ナル妨アル者
 - 十三 食道狹窄
 - 十四 脊梁、骨盤ノ畸形ニシテ運動ニ大ナル妨アル者
 - 十五 歇兒尼亞
 - 十六 關節畸形
 - 十七 習癖脫臼
 - 十八 支肢ノ短縮、彎曲
 - 十九 指節ノ強剛ニシテ把握ニ大ナル妨アル者
 - 二十 拇指若ハ示指若ハ二指以上ヲ失シタル者
 - 二十一 翻足
 - 二十二 第一趾ヲ失シタル者若ハ三趾以上ヲ失シタル者
- 前項ノ疾病畸形中輕症ニシテ服役シ得ヘキ者ハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ト雖服役シ得ヘカラサル者ハ不合格トス
- 第三條 體格ノ等位ヲ區別スルコト左ノ如シ
- 一 甲種 身長五尺以上ニシテ身體強健ナル者
 - 二 乙種 身長五尺以上ニシテ身體甲種ニ亞ク者其ノ體格比較的良好ナル者ヲ第一乙種トシ之ニ亞ク者ヲ第二乙種トス
 - 三 丙種 身長五尺以上ニシテ身體乙種ニ亞ク者及身長五尺未滿四尺八寸以上ニシテ丁種戊種

- ニ當ラサル者
 - 四 丁種 第二條ニ當ル者及身長四尺八寸ニ滿タサル者
 - 五 戊種 徵兵令第二十條第一項第二項ニ當ル者
- 第四條 徵兵ハ前條ノ甲種、乙種及丙種ヲ合格トシ其ノ甲種及乙種ハ現役ニ徵スヘキ者丙種ハ國民兵役ニ入ルヘキ者トシ丁種ヲ不合格、戊種ヲ徵集延期トス
- 徵兵令第十二條及第十三條ノ志願兵ハ前條ノ甲種及乙種ヲ合格トシ丙種丁種及戊種ヲ不合格トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍志願兵身體檢査規則ハ之ヲ廢止ス

○陸軍省令第七號

陸軍士官候補生諸生徒其他陸軍志願者身體檢査規則左ノ通定ム

明治四十二年三月三十一日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

陸軍士官候補生諸生徒其他陸軍志願者身體檢査規則

第一條 士官候補生、陸軍中央幼年學校生徒、陸軍地方幼年學校生徒、主計候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、衛生部及獸醫部依託學生、同依託生徒及砲兵工長候補者、陸軍戶山學校軍樂生徒志願者ノ身體檢査ハ本規則ニ依リ施行ス

陸軍監獄看守其ノ他陸軍ニ從事スルコトヲ志願スル者ノ身體檢査ニハ本規則ヲ準用ス

前二項ノ身體檢査ニハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 志願者身長ノ定限ハ五尺以上トス但シ別ニ定ムル所アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 志願者ノ體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

明治四十二年三月 省令 陸軍省第七號

九七

- 一 甲種 身體強健ナル者
 - 二 乙種 身體甲種ニ亞ク者
 - 三 丙種 前二號ニ當ラサル者及身長定限ニ達セサル者
- 第四條 前條ノ甲種乙種ヲ合格トシ丙種ヲ不合格トス
- 第五條 丙種ト爲スヘキ者概ネ左ノ如シ

- 一 全身發育不全ナル者
- 二 精神機能ニ妨アル者及諸種ノ神経系病ニシテ急治スヘカラサル者
- 三 諸種ノ内臟疾患ニシテ急治スヘカラサル者
- 四 視力ニ障碍アル者色盲ヲ有スル者但シ主計候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、衛生部及獸醫部依託學生、同依託生徒志願者ハ近視ニ限り其ノ度ヲ斟酌シテ特ニ合格ト爲スコトヲ得
- 五 聽器ニ障碍アル者
- 六 咀嚼言語ノ機能ニ妨アル者
- 七 骨、軟部ノ疾患ニシテ急治スヘカラサル者
- 八 諸種ノ癩痕、畸形、缺損等ニシテ醜形甚シク又ハ運動ニ妨アル者

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第一號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十二年三月十八日

司法大臣 子爵岡部長職

松山地方裁判所ノ部、大洲區裁判所内子出張所ノ管轄欄及、大洲區裁判所山島坂出張所ノ管轄欄ヲ左ノ如ク改ム

内子	伊豫	喜多郡ノ内	御稔村	天神村	五十崎村	五城村	大嶺村
山島坂	伊豫	喜多郡ノ内	村前村	立川村	滿穂村	田所村	柳澤村
		河邊村	宇和川村	大谷村			

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第二號

明治二十六年司法省令第五號監獄醫、教誨師、教師、藥劑師、看守及女監取締ノ定員中左ノ通改正シ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月二十四日 司法大臣 子爵岡部長職

「百九十九人」ヲ「二百二十五人」ニ改ム
「八千三百八十八人」ヲ「八千二百三十八人」ニ改ム

〔參照〕

明治三十六年三月二日司法省令第五號中百九十九人ハ監獄醫、八千三百八十八人ハ看守ノ定員ナリ

○文部省令第七號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程中左ノ通改正ス

明治四十二年三月四日

文部大臣 小松原英太郎

第一條 東京女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科、技藝科トス

文科ノ學科目ハ修身、教育學、國語、漢文、外國語、歷史、地理、習字、音樂、體操トス
 理科ノ學科目ハ修身、教育學、外國語、數學、物理、化學、博物、音樂、體操トス
 技藝科ノ學科目ハ修身、教育學、外國語、物理及化學、家事、裁縫、手藝、圖畫及圖案、音樂、體操トス
 第二條 奈良女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ豫科、本科トシ更ニ本科ヲ分チテ國語、漢文、部、地理、歷史部、數物、化學部、博物家、事部トス
 豫科ノ學科目ハ修身、國語、漢文、外國語、數學、習字、圖畫、音樂、裁縫、體操トス
 本科國語、漢文部ノ學科目ハ修身、教育學、國語、漢文、外國語、歷史、習字、音樂、體操トス
 本科地理、歷史部ノ學科目ハ修身、教育學、地理、歷史、國語及漢文、外國語、法制、經濟、音樂、體操トス
 本科數物、化學部ノ學科目ハ修身、教育學、數學、物理、化學、外國語、手工、音樂、體操トス
 本科博物、家事部ノ學科目ハ修身、教育學、植物、動物、生理及衛生、鑛物及地質、家事、外國語、物理及化學、音樂、體操トス
 前各項ノ外、本科各部ニ圖畫、音樂、裁縫、手藝、體操及國藝ヲ加ヘ生徒ノ所長ニ從ヒ其ノ一科目ヲ選修セシム但シ當分ノ内本文ノ一科目又ハ數科目ヲ缺キ又ハ生徒ノ所長及學業成績ノ情況ニ由リ之ヲ課セサルコトアルヘシ
 第三條 前二條ノ學科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得
 第四條 女子高等師範學校ノ學科ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス
 第四條ノ二 削除
 第五條 東京女子高等師範學校ニ於ケル文科、理科、技藝科ノ修業年限ハ各四箇年トス
 第六條 奈良女子高等師範學校ニ於ケル修業年限ハ豫科四箇月、本科二箇年、八箇月トス
 第十條第一項中「第二條乃至第四條」ヲ「第一條及第二條」ニ改ム

第十二條第一項中「文科、理科又ハ技藝科」ヲ「東京女子高等師範學校文科、理科、技藝科又ハ奈良女子高等師範學校本科各部」ニ改メ第二項中「倫理」ヲ「修身」ニ改ム
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

- 文部省令第二十四號女子高等師範學校規程(明治三十年十月十二日)抄錄
- 第一條 女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科、技藝科トス
- 第二條 文科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、外國語、歷史、地理、習字、音樂、體操トス
- 第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、外國語、數學、物理、化學、博物、音樂、體操トス
- 第四條 技藝科ノ科目ハ倫理、教育學、外國語、物理及化學、家事、裁縫、手藝、圖畫及圖案、音樂、體操トス
- 第四條ノ二 前二條ノ科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得
- 第五條 女子高等師範學校ノ學科ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス
- 第六條 文科、理科、技藝科ノ修業年限ハ各四箇年トス
- 第十條第一項 女子高等師範學校ノ卒業生又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ第二條乃至第四條ニ規定シタル科目中ノ一科目又ハ數科目ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ置ク
- 第十二條第一項及第二項 師範學校女子部又ハ高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ文科、理科又ハ技藝科中ノ一科目若クハ數科目ヲ撰ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得
- 撰科生ハ何等ノ科目ヲ撰フニ拘ラス倫理、教育學ヲ兼修スルコトヲ要ス

○文部省令第八號

明治二十九年文部省令第二號中央氣象臺氣象通報規程ハ明治四十二年三月二十日ヨリ之ヲ廢止ス
 但シ氣象通報依頼者既納ノ手数料ニシテ殘餘ヲ生スル者ニ對シテハ其ノ殘餘手数料ノ盡クルマテ中央氣象臺ニ於テ氣象ノ通報ヲ爲サシム
 明治四十二年三月六日
 文部大臣 小松原英太郎

○文部省令第九號

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條ノ市町村立小學校ノ本科正教員數及市町村立小學校ノ本科正教員ニシテ五年以上同一府縣内ニ勤績スル者ノ數ハ補助金ヲ配賦スヘキ年ノ前年三月末日ニ於ケル現在數ニ依ルモノトス

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月十八日

文部大臣 小松原英太郎

○文部省令第十號

明治三十七年文部省令第十三號東京外國語學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並研究生、選科生及專修科ニ關スル規程中改正スルコト左ノ如シ

明治四十二年三月二十五日

文部大臣 小松原英太郎

第三條ノ學科目及其ノ程度表中「正科語學」ノ右ニ左ノ一欄ヲ加フ

倫理	—	—	—	—	—
計	三〇九	三〇〇	三一	二九	三〇

同表中「計」ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

○逓信省令第五號

明治二十五年九月逓信省令第三十九號火藥類船舶運送及貯藏規程中左ノ通改正ス

明治四十二年三月一日

逓信大臣 男爵後藤新平

第二十三條中「空藥莖」ノ下ニ「雷管、爆管」ノ四字ヲ加フ

〔參照〕

逓信省令第三十九號火藥類船舶運送及貯藏規程(明治三十五年九月三日)抄錄

第二十三條 小銃用安全彈藥筒、雷管若ハ爆管ノミヲ裝着セル銃砲ノ空藥莖、安全導火線、信管、門管及ヒ起爆劑ヲ附セサル莖、色莖(他ノ文部省令ニ依リテ)混藥(同前)ノ文部省令ニ依リテ、第二十八條ノ規定ヲ適用セシム

○逓信省令第六號

明治三十八年五月逓信省令第三十六號郵便貯金規則第四條中第二項及第三項ヲ削除ス

本令ハ來四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月三日

逓信大臣 男爵後藤新平

〔參照〕

逓信省令第三十六號郵便貯金規則(明治三十八年五月十八日)抄錄

第四條第二項及第三項 郵便貯金管理所又ハ同支所ニ於テ預入金ヲ原簿ニ登記シタルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス 貯金預ケ人其ノ預入ヲ爲シタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ前項ノ通知書到達セサルトキ又ハ通知書到達スルモ預入金額預入年月日等ニ相違アルトキハ速ニ其ノ旨ヲ郵便貯金管理所又ハ同支所ニ申告スヘシ

○逓信省令第七號

氣象通知電報規則左ノ通相定ム

明治四十二年三月六日

逓信大臣 男爵後藤新平

氣象通知電報規則

第一條 氣象通知電報トハ公衆ノ請求ニ依リ中央氣象臺及測候所以下單ニ觀ニ於テ公示スル左記各號ノ事項ヲ和文ヲ以テ通知スルモノヲ謂フ但シ第五號ハ測候所其ノ他氣象觀測ヲ爲ス者ノ請求ニ限リ之ヲ取扱フ 一 全國天氣豫報

- 二 全國暴風警報
- 三 地方天氣豫報
- 四 地方暴風警報
- 五 氣象實況報

第二條 氣象通知電報ノ本文記載方ハ符號及譯文ノ二種ニ分ツ但シ前條第五號ハ符號ノミヲ以テ記載ス

第三條 氣象通知電報ノ通知方式並地方天氣豫報及地方暴風警報ヲ公示スル觀測所ノ所管區域ハ中央氣象臺ノ定ムル所ニ據ル

第四條 氣象通知電報ノ料金ハ月額ヲ以テ之ヲ課ス但シ臨時請求ノモノニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 氣象通知電報ノ料金左ノ如シ

種別	符號		譯文	
	一箇月分	一通分	一箇月分	一通分
全國天氣豫報	金三圓七十五錢	金十五錢	金五圓	金二十錢
全國暴風警報	金一圓二十五錢	金十五錢	金一圓六十五錢	金二十錢
地方天氣豫報	金二圓五十錢	金十錢	金三圓二十五錢	金十三錢
地方暴風警報	金一圓	金十錢	金一圓三十錢	金十三錢
氣象實況報	金三十圓	金一圓二十錢		

第六條 氣象通知電報ニハ時間外取扱料ヲ課セス

電報ヲ配達スヘキ電信局所ニ差出スヘシ

一 氣象通知電報ノ種別トキハ其ノ所管觀測所ヲ附記スヘシ

二 本文記載方ノ區別

三 受信人居所氏名

四 受信開始期日

前項ノ請求書ハ受信開始期日ノ十日前迄ニ差出スコトヲ要ス

請求者本文記載方ヲ變更セムトスルトキハ第一項ノ例ニ準シ前日迄ニ其ノ旨ヲ請求スヘシ

第七條 氣象通知電報ノ料金ハ受信人ヨリ之ヲ徴收ス

第八條 氣象通知電報ノ料金ハ毎月分ヲ其ノ月五日迄ニ請求書ヲ差出シタル電信局所ニ納付スヘシ但シ受信開始ノトキハ請求ノ際之ヲ納ムヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ開始期日カ月ノ中途ナルトキハ其ノ月分ハ日割ヲ以テ計算ス

第九條 第六條第三項ニ依ル變更カ月ノ中途ナルトキハ其ノ月分ハ日割ヲ以テ計算シ不足ヲ生スルトキハ請求ノ際之ヲ徴收シ過剩ヲ生スルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス其ノ請求期間ハ變更ノ日ヨリ六十日間トス

第十條 氣象通知電報ノ受信ヲ廢止セムトスルトキハ受信廢止期日ヲ指定シ第六條ノ例ニ準シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第十一條 第六條第二項ノ期間ニ拘ラス氣象通知電報ノ受信ヲ開始又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ旨請求書又ハ届書ニ添記スヘシ但シ電信局所ニ於テ課金局報ノ發送ヲ要スルトキハ其ノ料金ヲ前納スヘシ

第十二條 氣象通知電報ノ受信廢止期日カ月ノ中途ナルトキハ其ノ月分ノ料金ハ日割ヲ以テ計算ス但シ取扱期間カ一箇月ニ滿タサルトキハ其ノ未滿日數ニ對スル分モ之ヲ算入ス第十四條ニ依リ請求カ消滅シタル場合亦同シ

前項ニ依リ既納料金ニ過剩ヲ生スルトキハ納付者ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス其ノ請求期間ハ受信廢止ノ日ヨリ六十日間トス

第十三條 受信人第八條ノ期間内ニ料金ヲ納付セサルトキハ其ノ滞納ノ期間氣象通知電報ノ取扱ヲ停止ス

第十四條 氣象通知電報ノ受信人移轉セムトスルトキハ豫メ第六條ノ電信局所ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

前項ニ依リ移轉先カ市區町村ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ氣象通知電報受信ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス但シ配達局所ニ變更ヲ生セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 臨時ニ氣象通知電報ヲ受信セムトスルトキハ第六條ノ例ニ準シ受信日數ヲ添記シタル請求書ヲ差出シ且電信局所ノ指示スル處ニ依リ其ノ料金ヲ豫納スヘシ豫納料金ハ氣象通知電報ノ著信ニ依リ之ヲ精算ス

第八條乃至第十條第十二條及第十三條ノ規定ハ前項ノ請求ニ之ヲ適用セス

第十六條 本令ニ規定ナキ事項ニ關シテハ内國電報ニ關スル一般ノ規定ニ依ル

第十七條 本令ハ明治四十二年三月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 當分ノ内觀測所ハ其ノ公示事項ニ關スル氣象通知電報ノ料金ヲ受信人ニ代リ該觀測所所在地ノ電信局所ニ郵便局長ノ指定シタル局所ニ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ氣象通知電報ニ關スル請求書又ハ届書ニ其ノ旨ヲ添記シ且該觀測所之ニ連署スヘシ

○遞信省令第八號
明治三十三年九月九日 遞信省令第四十七號略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續第二條

中但書ヲ削除シ明治四十二年第一期分ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

遞信大臣 男爵後藤新平

遞信省令第四十七號略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其ノ納付手續(明治三十三年九月一日)抄録

第一條 略號登記料又ハ配達先登記料ハ登記一箇毎二年額金十二圓トス
局渡料ハ諸票一箇毎二年額金六圓トス
第二條 前條ノ料金ハ年額ヲ二分シ左ニ掲クル二期ノ別ニ從ヒ一期分毎ニ登記又ハ交付ヲ受クル電信局所ニ前納スヘシ但シ一等郵便電信局電信局及在外電信局所ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
第一期 四月一日ヨリ九月三十日マデ
第二期 十月一日ヨリ三月三十一日マデ

○遞信省令第九號

通信官署ノ出納員ハ通信屬、通信手、雇員、郵便電信受取所取扱人及特別郵便集配人ヲ以テ之レニ充ツ
出納員ハ當該局所長ノ指定スル所ニ從ヒ現金ノ出納ヲ爲スヘシ但シ出納官吏ヲ置カサル官署ノ出納員ハ總テノ現金ノ出納ヲ爲スヘシ

明治四十二年三月十五日

遞信大臣 男爵後藤新平

附 則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年五月五號 遞信省令第三十八號出納員現金取扱規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○遞信省令第十號

明治三十三年九月九日 遞信省令第七十五號郵便切手類賣捌規則中左ノ通改正シ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月二十九日

遞信大臣 男爵後藤新平

第十六條第三項中「十五」トアルヲ「十二」改ム
 第四十條 特定セル三等郵便局ハ郵便切手賣捌所ノ許可及廢止ニ關スル事項ヲ除クノ外本規則ニ於テハ總テ二等郵便局ニ準スルモノトス
 在外郵便受取所及郵便切手賣捌所ニ對シテハ本規則中三等郵便局及郵便切手賣捌所ニ關スル規定ヲ準用ス

附錄第二號樣式ヲ左ノ如ク改ム

二尺五寸

郵便切手	賣	捌	所
收入印紙	賣	捌	所

附錄第三號樣式中「四拾五入スヘシ」トアルヲ「切拾」ヘシニ改ム

〔參照〕

逓信省令第七十五號郵便切手類賣捌規則(明治三十三年九月二十九日)抄錄

第十六條第三項

郵便區市内ノ郵便受取所及郵便切手賣下所十五箇所ニ滯タサルモノ並郵便區市外ノ郵便受取所及郵便切手賣下所ハ郵便切手類賣組合ヲ設ケサルモ妨ナシ

第四十條 此ノ規則中郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局及郵便切手賣捌所ニ關スル規定ハ總テ在外郵便受取所及郵便切手賣捌所ニ準用ス

特ニ指定シタル三等郵便局ニハ三等郵便局ニ於ケル郵便切手類ノ交換買戻及買受ニ關スル規定ヲ適用セス

○逓信省令第十一號

明治四十二年三月勅令第四十一號ニ依ル收入印紙賣捌規則左ノ通相定ム

明治四十二年三月二十九日

逓信大臣 男爵後藤新平

收入印紙賣捌規則

第一條 收入印紙ノ賣捌ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

第二條 收入印紙ハ郵便局、郵便切手賣捌所及收入印紙賣捌所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス

第三條 三等郵便局、郵便切手賣捌所及收入印紙賣捌所ニ賣渡ス收入印紙ハ定價ニ對シ左ノ割引ヲ爲スヘシ

- 一 郵便集配事務ヲ取扱フ二等郵便局ニ對シテハ百分ノ四
- 二 郵便集配事務ヲ取扱ハサル二等郵便局、郵便切手賣捌所及收入印紙賣捌所ニ對シテハ百分ノ三

第四條 收入印紙賣捌人ハ左記ニ該當シタル者ニ限り之ヲ許可ス

- 一 陸海軍人其ノ他公務ノ爲ニ受ケタル傷痍又ハ疾病ヲ以テ法律ニ依リ恩給ヲ受クル者
- 二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

第五條 前條ニ依リ收入印紙ノ賣捌ヲ爲サムトスル者ハ一定ノ賣捌所ヲ定メ收入印紙賣捌申請書

第一號ヲ所轄一、二等郵便局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ申請書ニハ第四條ニ定メタル資格ノ證明書ヲ添付スヘシ

第六條 一、二等郵便局ニ於テ前條ノ申請書ヲ受ケ之ヲ許可スルトキハ收入印紙賣捌許可證ヲ交

付スヘシ

第七條 收入印紙賣捌人ハ自費ヲ以テ收入印紙賣捌所標札第二號樣式ヲ調製シ公衆ノ看易キ場所ニ

掲出スヘシ

第八條 收入印紙ノ賣捌ニ關シテハ本規則ニ定ムルモノノ外明治三十三年九逓信省令第七十五號

郵便切手類賣捌規則第三條乃至第八條第十條乃至第十二條第十六條乃至第三十二條第三十五條

及第三十七條乃至第四十條ノ規定ヲ準用ス

附則

第九條 本規則ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年九逓信省令第七十二號郵便局所收入印紙賣捌規則並本規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第十條 郵便切手賣捌人ニシテ本規則施行以前收入印紙賣捌ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ繼續ス
郵便切手類ニ限リ賣捌ノ許可ヲ受ケタル者ハ申請ノ手續ヲ爲サスシテ收入印紙ノ賣捌ヲ爲スヘシ

第一號様式

收入印紙賣捌申請書

本籍
原住所

職業

右ハ現住所又ハ何地ニ於テ收入印紙賣捌致度候間許可相成度別紙證明書相添此段申請候也

年月日

何郵便局宛

第二號様式

二尺五寸

七分五寸
收入印紙賣捌所

氏名
氏名

○逓信省令第十二號

明治三十九年九逓信省令第四十六號中「租借地發權太宛」ヲ削除ス
本令ハ來四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年三月二十九日

逓信大臣 男爵後藤新平

〔參照〕

逓信省令第四十六號(明治三十九年九月一日)

當分ノ内本邦發關東州租借地(以下略)宛、租借地發權太宛若ハ租借地内發權ノ小包郵便物ニ付テハ明治三十三年九逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則第四條ノ規定ヲ適用セス

○逓信省令第十三號

明治三十三年九逓信省令第四十六號電報規則第六十七條及第六十八條中「三里ヲ二里ニ二里ヲ二里ニ金二十五錢」ヲ「金十五錢」ニ改メ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス

明治四十二年三月二十九日

逓信大臣 男爵後藤新平

〔參照〕

逓信省令第四十六號電報規則(明治三十三年九月一日)抄録

第六十七條 別使配達料ハ著信局所ヨリ三里以内ハ金二十錢トシ三里ヲ超ニルトキハ二里以内毎ニ金二十五錢ヲ増ス
島嶼ニ宛テタルモノノ別使配達料ハ里程ニ拘ラス金二十錢トシ其ノ配達費之レニ超過シタルトキハ買費額ニ依ル
第六十八條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ發信ノ際其ノ配達料ノ最少額ヲ納付スヘシ
著信局所ヨリ三里ヲ超ニル場合ニ於テ發信人ハ其ノ里程ヲ豫定シ之ニ對スル配達料ヲ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別使配達符號ノ次ニ其ノ里程ヲ指定スヘシ
前二項ニ依リ納付シタル配達料不足アルトキハ其ノ不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

○逓信省令第十四號

明治四十年^九月逓信省令第四十三號外國郵便爲替規則中左ノ通改正シ本令公布ノ日ヨリ施行ス
明治四十二年三月三十一日
逓信大臣 男爵後藤新平

〔參照〕

逓信省令第四十三號外國郵便爲替規則(明治四十年九月二十一日)抄録
第十五條第一項
羅馬約定ニ依ル媒介爲替ニ付テハ「リベリア」ニ宛ツルモノヲ除クノ外拂渡通知書ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○外務省令第二號

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ帝國領事官カ裁判權ヲ行使スルコトヲ得ル地域ニ於テ
ハ帝國領事官ヨリ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

明治四十二年四月二十八日

外務大臣 伯爵小村壽太郎

○内務省令第十一號

北海道地方費令ニ依ル左ニ掲クル事件ハ主務大臣ノ許可ヲ要セス

明治四十二年四月二十二日

内務大臣 法學博士男爵平田東助
大藏大臣 侯爵桂 太郎

- 一 感化院費國庫下渡金ニ對スル支出金額ノ件
- 二 癩豫防費國庫下渡金ニ對スル支出金額ノ件

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○内務省令第十二號

明治三十八年^六月内務省令第十六號傳染病研究所痘苗血清類賣捌規則中左ノ通改正ス

明治四十二年四月二十四日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

第六條痘苗血清類ノ代價ハ下ニ現金ヲ以テ郵便振替貯金ニ拂込ミ又ハ之ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

内務省令第十六號傳染病研究所痘苗血清類賣捌規則(明治三十八年六月十三日)抄録
第六條 痘苗血清類ノ代價ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ但シ官衙及外國ヨリノ請求ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

○內務省令第十三號

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官沒ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

前項警察署長若ハ警察分署長ノ職務ハ樺太ニ在テハ樺太廳支廳長若ハ支廳出張所長之ヲ行フ

明治四十二年四月二十八日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

○內務省令第十四號

明治四十一年七月內務省令第十二號第二條中賸本ノ下ニ「又ハ抄本」ノ四字ヲ加フ

明治四十二年四月二十八日

內務大臣 法學博士男爵平田東助

〔參照〕

內務省令第十二號(明治四十一年七月二十日)抄録

第二條 神社ニ於テ登記ヲ經タル不動産ノ登記ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ登記簿ノ謄本ヲ添付スヘシ

○大藏省令第十九號

帝國鐵道會計現金受拂規則左ノ通相定ム

明治四十二年四月一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

帝國鐵道會計現金受拂規則

第一條 帝國鐵道會計ニ於ケル各勘定ノ歲入金、歲出金並歲入、歲出外現金及帝國鐵道會計規則第九條ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲ス場合ニ於テハ本規則ニ依ルヘシ

第二條 仕拂命令官出納官吏ヲシテ繰替拂ヲ爲サシメントスルトキハ繰替拂傳票ヲ以テ之ヲ當該出納官吏ニ命スヘシ

仕拂命令官ハ特ニ所管大臣ノ指定シタル他ノ官吏ヲシテ繰替拂傳票ヲ發セシムルコトヲ得

前項ニ依リ他ノ官吏ヲシテ繰替拂傳票ヲ發セシメントスルトキハ仕拂命令官ハ定額豫算ヲ以テ之ヲ當該官吏ニ命スヘシ

第三條 出納官吏毎日現金ノ受拂上殘金ヲ生シタルトキハ分任出納官吏ハ之ヲ所屬主任出納官吏ニ回納シ主任出納官吏ハ之ヲ金庫ニ預託スヘシ

出納員ノ取扱ニ係ル現金ハ毎日之ヲ所屬出納官吏ニ引繼クヘシ

第四條 出納官吏歲出金ノ繰替拂ヲ爲ス場合ニ於テ官吏遺族扶助法納金收入規則ニ依ル國庫納金又ハ明治三十四年勅令第三百三十一號ニ依ル相殺金ノ差引ヲ要スルトキハ同規則又ハ勅令中現金前渡官吏ニ對スル規定ノ手續ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第五條 鐵道院總裁帝國鐵道會計規則第九條ニ依リ出納官吏ニ繰替拂資金ヲ交付セントスルトキハ大藏大臣ヨリ承認ノ通知ヲ受ケタル後第一號様式ノ繰替拂資金交付請求書ヲ調製シ中央金庫所在地ニ在勤スル出納官吏ヲシテ中央金庫ニ送付セシムヘシ

第六條 鐵道院總裁出納官吏ヲシテ其ノ保管スル現金ヲ他ノ出納官吏ニ回送セシメントスルトキハ別ニ定ムル處ノ規定ニ依リ金庫ニ對シ雜部送金ノ請求ヲ爲サシムヘシ

第七條 出納官吏其ノ在勤廳所在地外ノ債主ニ對シ歲出金ノ繰替拂又ハ歲入、歲出外現金ノ拂戻ヲ要スルトキハ別ニ定ムル處ノ規定ニ依リ雜部送金ノ請求ヲ爲スヘシ

第八條 出納官吏ハ毎日各勘定ノ歲入金、歲出金並歲入、歲出外現金及繰替拂資金ノ受拂高ヲ精算シ別ニ定ムル處ノ規定ニ依リ之ヲ鐵道院總裁、部長、局長又ハ所長ニ報告スヘシ

第九條 鐵道院總裁、部長、局長又ハ所長ハ出納官吏ノ取扱ニ係ル帝國鐵道會計ニ於ケル各勘定ノ現金受拂高ヲ毎月取總メ其ノ歲入金ノ受入高ニ對シテハ「拂込額」繰替拂資金ノ現在高ニ對シテハ「戻入額」ヲ定メ、歲出金ノ繰替拂高ニ對シテハ「振替」ノ押印アル仕拂請求書又ハ集合仕拂請求書ヲ發シ主任出納官吏ヲシテ第二號様式ノ歲入金振替拂込書若クハ第三號様式ノ繰替拂資金振替

戻入書ヲ調製シ金庫ニ對シ振替計算ヲ以テ之カ受拂ヲ爲サシムヘシ
 前項ノ場合ニ於テ發スル集合仕拂請求書ニハ當該仕拂命令官ノ仕拂證明書ヲ添附スヘシ但シ各
 債主ノ金額氏名表ハ添附スルヲ要セス
 第十條 鐵道院總裁出納官吏ヲシテ繰替拂資金ノ戻入ヲ爲サシメタルトキハ直ニ之ヲ大藏大臣ニ
 通知スヘシ

第十一條 帝國鐵道會計所屬現金ノ出納ニ關シ本規則ニ規定セサルモノハ總テ一般ノ規定ニ依ル
 附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 帝國鐵道官署現金受拂規則ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

用紙適宜 縦四寸五分ノモノニ枚接續

繰替拂資金交付請求書

第 號	明治何年度帝國鐵道歳出仕拂元受金	大 藏 省 鐵 道 院
一金「何程」	右「何々」出納官吏官氏名「雜部保管金ニ振替相成度候也」	
	明治 年 月 日	鐵道院總裁氏名印
		中央金庫宛



振替濟通知書

第 號	明治何年度帝國鐵道歳出仕拂元受金	大 藏 省 鐵 道 院
一金「何程」	右「何々」出納官吏官氏名「雜部保管金ニ振替濟ニ付通知候也」	
	明治 年 月 日	中央金庫印
		鐵道院總裁氏名宛

第二號樣式

歳入金振替

第 號	明治何年度帝國鐵道歳入大藏省	歳入徴收官「官 氏 名」
一金「何程」	但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替拂込ノ分	取 扱 廳「何 廳」

備考
 中央金庫ヨリ振替濟通知書ヲ發スルハ雜部保管金ニ振替受入ヲナス金庫ノ報告ヲ受
 ケタル後發スルモノトス
 用紙適宜 縦四寸五分ノモノニ三枚接續

書込拂

右拂込候也

明治年月日

「何處」出納官吏

官氏名印

金庫印

第 號	明治「何」年度 帝國鐵道歲出入 拂入金	大藏省	歳入徴收官 「官」氏名
第 號	明治「何」年度 帝國鐵道歳出入 拂入金	大藏省	取扱廳 「何」氏名

一金「何程」
但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替拂込ノ分
右領收候也

明治年月日

「何地」金庫印

金庫印

第 號	明治「何」年度 帝國鐵道歳出入 拂入金	大藏省	歳入徴收官 「官」氏名
第 號	明治「何」年度 帝國鐵道歳出入 拂入金	大藏省	取扱廳 「何」氏名

込通知書

一金「何程」
但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替拂込ノ分
右領收濟ニ付通知候也

明治年月日

「歳入徴收」官氏名宛

「何地」金庫印

第三號様式

用紙適宜 縦三寸三分ノモノ三枚接續

繰替資振替戻入書

第 號	明治「何」年度 帝國鐵道歳出入 拂入金	大藏省	仕拂命令官 「官」氏名
第 號	明治「何」年度 帝國鐵道歳出入 拂入金	大藏省	取扱廳 「何」氏名

一金「何程」

但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替戻入ノ分
右戻入候也

明治年月日

「何處」出納官吏

官氏名印

金庫印

領收證書

第 號	明治「何」年度 帝國鐵道歲出仕 拂元金	大藏省	仕拂命令官 「官」氏名
一金「何程」	但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替戻入ノ分 右領收候也	大藏省	納戻 官入 吏出 「官」氏名
明治 年 月 日			

中央金庫印

入取通知書

第 號	明治「何」年度 帝國鐵道歲出仕 拂元金	大藏省	取 扱 職 員 「官」氏名
一金「何程」	但「雜部保管金」又ハ「何々」ヨリ振替戻入ノ分 右領收濟ニ付通知候也	大藏省	納戻 官入 吏出 「官」氏名
明治 年 月 日			

中央金庫印

鐵道院總裁氏名宛

○大藏省令第二十號
鐵道院出納員現金取扱規則左ノ通相定ム

明治四十二年四月一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

鐵道院出納員現金取扱規則

- 第一條 鐵道院ノ出納員ハ鐵道院書記、雇員、特別鐵道貨物集配人及特別鐵道驛夫ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 出納員ハ左ノ範圍内ニ於テ現金ノ出納ヲ爲スヘシ
- 一 各種ノ歳入金
 - 二 計理部、各管理局、各出張所、各建設事務所、各出納事務所及各管理局出張所ヨリ派出仕拂ヲ要スル繰替拂金
- 第三條 出納員ハ明治二十三年大藏省令第九號第十九號書式ノ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ但シ特種ノ帳簿ヲ以テ現金出納簿ニ代用シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 出納員ハ其ノ領收シタル現金ヲ毎日精算シ遲滞ナク其ノ所屬出納官吏ヘ拂込ミ領收證書ヲ受クヘシ
- 第五條 出納員ハ其ノ所屬出納官吏ヨリ現金ヲ受領シタルトキハ領收證書ヲ發スヘシ
- 第六條 特種ノ帳簿ニ依リ現金ノ受授ヲ證シ得ル場合ハ前二條ノ領收證書ヲ要セス
- 第七條 現金出納ノ取扱ニ關シ本規則ノ外特ニ規定シタルモノハ其ノ規定ニ依ル

附 則

本令ハ明治四十二年度ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第二十一號

沖繩縣罹災救助基金法施行手續ニ關シテハ明治三十二年六月大藏省令第三十二號ヲ準用ス

明治四十二年四月一日

大藏大臣 侯爵桂太郎
內務大臣 法學博士 平田東助

○大藏省令第二十二號

明治三十五年^{五月}大藏省令第十號中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十二年四月一日
大藏大臣 侯爵桂太郎
專賣局收納所長、專賣局販賣所長、專賣局收納所出張所長ヲ削リ 專賣支局長、專賣局試驗場長、專賣局伏見工場長ヲ加フ

〔参照〕

明治三十五年^{五月}大藏省令第十號ハ不動産登記ノ囑託ニ就キ官吏指定ノ件ナリ

○大藏省令第二十三號

帝國鐵道會計規則第二十七條ニ依ル貸借對照並損益計算ノ種目左ノ通相定メ明治四十二年度會計ヨリ之ヲ適用ス

明治四十二年四月六日

大藏大臣 侯爵桂太郎

帝國鐵道會計貸借對照種目

- | | |
|--------|-----------|
| 借方 | 貸方 |
| 一 現金 | 一 特有資本 |
| 二 收入未済 | 二 借入資本 |
| 三 固定財産 | 三 支出未済 |
| 四 貯藏物品 | 四 積立金 |
| 五 工場勘定 | 五 繰入繰出外勘定 |

同損益計算種目

- | | |
|---------|----------|
| 損失ノ部 | 利益ノ部 |
| 一 鐵道作業費 | 一 鐵道作業收入 |

○大藏省令第二十四號

第一條 明治四十二年遞信省令第十五號ニ依リ市ニ於テ郵便振替貯金ニ依リ國稅金ノ受拂ヲ爲サ

ムトスル場合ニ於テハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ所轄稅務監督局長ヲ經テ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 振替貯金ニ依リ國稅金收納ノ爲ニ使用スル納稅告知書ノ見本
 - 二 振替貯金ニ依ル國稅金ノ受拂ニ關シ市ノ發布スヘキ規則
- 第三條 市ニ於テ本令ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル後第二條ノ納稅告知書ノ様式又ハ國稅金受拂ニ關スル規則ヲ變更セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年四月十四日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省令第二十五號

帝國鐵道會計法第二條及第三條ノ公債募集金及借入金ハ帝國鐵道會計ノ歳入トシテ直ニ金庫ニ納入セシムヘシ

明治四十二年四月十六日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省令第二十六號

明治四十年^{三月}勅令第三十七號ニ依リ樺太ニ在勤スル官吏ノ加俸額左ノ通相定ム

明治四十二年四月十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

判任官^{月俸金四十圓以上ノモノ}
其他

本俸十分ノ八
月額金叁拾圓

附則

本令ハ明治四十二年^{三月}勅令第二十三號施行ノ日ニ遡リ之ヲ適用ス

○大藏省令第二十七號
煙草賣捌規則左ノ通相定ム

明治四十二年四月二十一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

煙草賣捌規則

第一條 煙草元賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ專賣局長官ノ指定シタル區域内ノ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス但シ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ノ認許ヲ得テ他ノ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受クルコトヲ得

煙草小賣人ハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス
政府ハ特殊ノ場合ニ於テ製造煙草ヲ特定價格ヲ以テ煙草小賣人又ハ消費者ニ賣渡スコトアルヘシ

第二條 煙草元賣捌人及煙草小賣人ハ必要ニ應シ三年以内ノ期間ヲ以テ專賣局長官之ヲ指定ス

煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人タラムトスル者ハ第一號書式ニ依リ申請スヘシ

煙草賣捌人タル會社其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ專賣局長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 煙草賣捌人死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相續人ハ專賣局長官ニ申告シ殘期間其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ第四條ニ依リ煙草賣捌人ニ指定セララルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 左ニ掲クル者ハ煙草元賣捌人ニ指定セララルコトヲ得ス
一 煙草耕作者之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者

二 專賣局製造所工場外作業擔當人、之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ專賣局製造所工場外作業擔當人ノ同居者但シ本令施行ノ際現ニ煙草賣捌人タル者ヲ除ク

三 煙草專賣法第四十一條乃至第四十六條第四十八條乃至第五十條第五十二條第五十四條乃至第六十條ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者

四 第二十六條第二十七條ニ依リ煙草賣捌人ノ指定ヲ取消サレ二年ヲ經サル者

五 身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者

六 國稅滯納處分又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一年ヲ經サル者
七 懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判ノ確定スルニ至ル迄ノ者

前項第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル者ハ煙草小賣人ニ指定セララルコトヲ得ス
法人ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第五條 營業區域ノ鄰接セル二人以上ノ煙草元賣捌人會社ヲ組織シ其ノ業務ヲ營マムカ爲第二號書式ニ依リ申請シタルトキハ專賣局長官ハ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者會社ヲ設立シ確定定款ヲ添ヘ專賣局長官ニ申告シタルトキハ從前ノ營業區域ニ對シ煙草元賣捌人ニ指定セラル此ノ場合ニ於テハ會社ヲ組織シタル各煙草元賣捌人ノ指定ハ當然消滅ス

第六條 煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ヌ又其ノ營業所ヲ同シクスルコトヲ得ヌ

第七條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼ヌルトキハ其ノ營業所ト他ノ營業所トノ間ニ相當ノ區劃ヲ設クヘシ

第八條 煙草小賣人ノ營業所ハ一人一箇所トス
專賣局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ對シ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可シ又ハ命スルコトアルヘシ

第九條 煙草賣捌人ハ專賣局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 政府ヨリ煙草元賣捌人ニ賣渡ス製造煙草ノ代金ハ其ノ定價ニ對シ一定ノ割引歩合ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 製造煙草ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ其ノ種類、名稱、包裹別、數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ提出スヘシ

第十二條 製造煙草ヲ買受クル者其ノ代金納付ノ擔保トシテ國債證券、地方債證券、若ハ專賣局長官ノ指定シタル株式會社ノ株券又ハ債券ヲ提供シタルトキハ專賣局長官ハ二月以内代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

常時製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ前項ノ擔保物件ヲ豫メ提供シ置クトキハ專賣局長官ハ其ノ價額ニ達スル迄代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

前二項ニ依リ延納ヲ許可スルハ一回ノ買受代金五百圓以上ノ場合ニ限ル

第一項ノ有價證券ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ計算ス

第二項ノ有價證券ノ價格ハ前項ニ準シ毎年四月之ヲ改算ス但シ其ノ價格ニ著シキ變動アリト認メタルトキハ隨時之ヲ改算ス

代金納付ノ擔保トシテ提供スヘキ有價證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十三條 煙草賣渡請求者其ノ賣渡ヲ受ケタルトキハ直ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シ現品ヲ引取ルヘシ若シ五日以内ニ之ヲ引取ラサルトキハ相當保管料ヲ徴ス但シ煙草販賣官署ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 煙草元賣捌人代金納付期日迄ニ製造煙草ノ買受代金ヲ納付セサルトキハ年五分ノ割合

ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

第十五條 政府ヨリ煙草元賣捌人ニ賣渡ス製造煙草ハ煙草販賣官署ニ於テ之ヲ引渡スモノトス

煙草販賣官署ヨリ煙草元賣捌人ノ營業所ニ至ル迄ノ製造煙草運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス但シ煙草元賣捌人ノ營業所カ煙草販賣官署ノ所在地及之ニ準スヘキ地ニ在ルトキハ其ノ運搬費ハ之ヲ支給セズ

專賣支局長、專賣局製造所長ハ必要アリト認メタルトキハ前項ニ依リ運搬費ヲ支給スヘキ場合ニ於テ其ノ製造煙草ノ運送業者ヲ指定スルコトアルヘシ

前三項ノ規定ハ第一條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 煙草元賣捌人ノ煙草小賣人ニ賣渡ス煙草ノ價格ハ第十條ニ依リ政府ヨリ買受ケタル價格ニ定價ノ百分ノ三ヲ加ヘタルモノヲ超ユルコトヲ得ス但シ專賣局長官カ地方ノ狀況ニ依リ已ムヲ得スト認メ承認ヲ與ヘタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 煙草販賣官署長ハ煙草賣捌人ノ店舗ノ設備出賣人ノ數、出賣ノ回數、煙草保存ノ方法、店舖ニ備置クヘキ煙草ノ種類及數量ニ付指示スルコトヲ得

第十八條 煙草賣捌人ハ其ノ出賣人ヲシテ自己ノ出賣人タルコトヲ證スルニ足ル證票ヲ携帶セシムヘシ

前項ノ證票ニハ煙草販賣官署ノ證印ヲ受クヘシ

第十九條 煙草小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ製造煙草ノ定價表及第三號雛形ニ依ル標札ヲ掲クヘシ

第二十條 煙草元賣捌人ハ第四號及第五號書式ノ帳簿ヲ調製シ製造煙草ノ受拂ヲ明確ニスヘシ

第二十一條 煙草小賣人ハ帳簿ヲ調製シ製造煙草ヲ買受ケタルトキハ其ノ買受年月日並其ノ種類、名稱、數量、代金ヲ記載スヘシ

第二十二條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ煙草元賣捌人ハ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ検査證明ヲ受ケ現品ト共ニ其ノ検査證明書ヲ煙草販賣官署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲ニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

前二項ノ規定ハ第一條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ煙草小賣人ハ其ノ買受先ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ検査證明ヲ受ケ現品ト共ニ其ノ検査證明書ヲ買受先ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二十四條 煙草小賣人前條ニ依リ製造煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第三十條ニ依リ製造煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 煙草賣捌人其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ廢止ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草賣捌人其ノ一箇所又ハ數箇所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

前項ノ期間ヲ經過セスシテ其ノ營業又ハ營業所ヲ廢止セムトスルトキハ專賣局長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得

- 一 煙草元賣捌人第四條第一項第一號乃至第三號第五號乃至第七號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ
- 二 煙草元賣捌人政府ヨリノ煙草買受代金一年五千圓未滿ナルトキ
- 三 煙草元賣捌人納付期日ヲ過キ仍製造煙草ノ買受代金ヲ完納セサルトキ
- 四 煙草小賣人第四條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リタルトキ
- 五 煙草小賣人一月以上引續キ其ノ營業ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ賣上代金一年五千圓未滿ナルトキ

法人カ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第一號又ハ第四號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第二十七條 煙草賣捌人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 煙草元賣捌人第一條第一項ニ依ル營業區域以外ノ煙草小賣人ニ製造煙草ヲ販賣シタルトキ
- 二 煙草元賣捌人第一條第一項ニ違反シテ他ノ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ又ハ情ヲ知テ之ヲ賣渡シタルトキ

三 煙草賣捌人第九條ニ違反シタルトキ

四 煙草元賣捌人第十六條ノ制限ヲ超エテ製造煙草ヲ賣渡シタルトキ

五 煙草賣捌人本令ニ違反シ當該官吏ノ注意ヲ受クルモ尙之ニ從ハサルトキ

前項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰金ニ處セス直ニ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二十八條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草元賣捌人ノ營業區域ヲ縮少スルコトヲ得

- 一 專賣局長官ノ命シタル地ニ營業所ヲ設置セサルトキ

二 出賣人ノ數又ハ出賣ノ回數其ノ他製造煙草ノ供給方ニ付煙草販賣官署長ノ指示ニ從ハサルトキ

第二十九條 煙草元賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルモノナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實ノ發生後三十日以内ニ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買戻價格ハ現行定價ヨリ煙草元賣捌人ノ現行割引歩合ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ製造煙草ノ品質惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲ニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十條 煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ又ハ其ノ指定ヲ取消サレタルトキハ現存スル製造煙草ハ事實ノ發生後三十日以内ニ其ノ買受先ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ第一條第三項ニ依リ政府ヨリ直接ニ賣渡シタル製造煙草ノ買戻價格ハ煙草小賣人ノ現行賣渡價格ヲ以テス

前項ノ場合ニ於テ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十一條 本令中專賣局長官ニ提出スヘキ書類ハ別表ノ區域ニ依リ關係ノ煙草販賣官署ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年二月 大藏省令第四號煙草賣捌規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十二年七月一日以降煙草元賣捌人タラムトスル者ハ第一號書式ニ依リ明治四十二年五月二十日迄ニ申請スヘシ

現ニ煙草小賣人タル者ニシテ明治四十二年七月一日以降引續キ煙草小賣人タラシムヘキ者ハ其ノ申請ヲ俟タス明治四十二年六月二十日迄ニ專賣局長官之ヲ指定ス

(第一號書式)

煙草元賣捌人(煙草小賣人)指定申請書

一 現在營業ノ種類

何々業

一 煙草賣捌營業所指定位置

府縣 郡市 町村 字 番地

前記營業所ニ於テ煙草元賣捌人(煙草小賣人)ニ指定相成度申請候也

年 月 日

住 所

氏 名

生 年 月 日

專賣局長官宛

備 考

- 一 會社ノ指定申請ニ付テハ氏名ノ箇所ニ會社名ヲ記載シ代表者之ニ署名捺印シ且定款ヲ添付スヘシ
- 二 無能力者ノ指定申請ニ付テハ法定代理人之ニ連署捺印スヘシ

(第二號書式)

會社組織許可申請書

- 一 會社豫定ノ定款
- 一 會社ヲ組織セムトスル各煙草元賣捌人ノ指定ヲ受ケタル年月日及其ノ營業期間
- 私共煙草元賣捌營業ヲ目的トスル會社ヲ組織致度候ニ付許可相成度申請候也

備考
一 現ニ煙草元賣捌人タル者ハ住所ノ箇所ニ現在ノ營業所位置ヲ及氏名ノ上ニ煙草元賣捌人ト記載スヘシ
(第三號雜形)

專賣局長官宛

專賣局指定第 號
煙草小賣所
煙草小賣人 何 某

備考
本標札ハ木地ノ儘トシ文字ハ墨書スヘシ

年 月 日
住 所
氏 名
生 年 月 日

(第四號書式)

煙草買受帳

年 月 日	箱 數	代 金	摘 要
月 月 月 月 月 月	日 日 日 日 日 日	一 〇 〇 〇 八 五 〇 〇 四 三 〇 〇	何製造所ヨリ買受 煙草元賣捌人何某ヨリ買受 何支店ヨリ買受 (本店ヨリ買受)

(第五號書式)

煙草賣渡帳

年 月 日	包 裏 數	代 金	摘 要
月 月 月 月 月 月	日 日 日 日 日 日	一 〇 五 六 〇 四 三 〇 〇 四 〇 〇 〇	何部 何村、煙草小賣人何某へ賣渡 煙草元賣捌人何某へ賣渡 何支店へ拂出 (本店へ拂出)

備考
一 本帳ハ口付紙卷煙草、兩切紙卷煙草、刻煙草、内國製葉卷及輸入煙草ノ四册トシ名稱、包裏別ニ口座ヲ設クヘシ
二 本帳ハ例示ノ通毎月月計二月目ヨリ累計ヲ付シ尙煙草賣渡帳ノ月計ヲ箱數ニ換算記入シ翌月へノ越高ヲ調査記載スヘシ
但シ一木箱未滿ノ端數ハ包裏數ヲ以テ箱數ノ左傍ニ附記スヘシ
三 本帳ハ營業所一箇所毎ニ調製整理スヘシ
四 本帳ハ便宜横式ト爲ヌヲ妨ケス

專賣局山形製造所	山形縣(山形市、南村山郡、東村山郡、西村山郡)
專賣局山形製造所	山形縣(北村山郡、最上郡、東田川郡、西田川郡、飽海郡)
專賣局山形製造所	山形縣(米澤市、西置賜郡、東置賜郡、南置賜郡)
專賣局山形製造所	秋田縣(鹿角郡、北秋田郡ヲ除ク)
專賣局關原製造所	新潟縣(三島郡、刈羽郡、石地町、高濱町、刈羽村、二田村、内郷村)
專賣局關原製造所	新潟縣(長岡市、南蒲原郡、古志郡、北魚沼郡、中魚沼郡、南魚沼郡、刈羽郡、石地町、高濱町、刈羽村、二田村、内郷村ヲ除ク)
專賣局關原製造所	新潟縣(東頸城郡、中頸城郡、西頸城郡) 長野縣(長野市、上高井郡、下高井郡、上水内郡、下水内郡)
專賣局關原製造所	新潟縣(新潟市、東蒲原郡、西蒲原郡、中蒲原郡、佐渡郡、北蒲原郡、岩船郡)
專賣局泰野製造所	東京府(南多摩郡(町田村、南村、忠生村、堺村)、神奈川縣(高座郡、中郡、足柄上郡、足柄下郡、津久井郡、愛甲郡)、靜岡縣(駿東郡、富士郡、田方郡、熱海町、多賀村、網代村、伊東村、宇佐美村、小室村、對島村ヲ除ク)
專賣局見付製造所	靜岡縣(靜岡市、安倍郡、志太郡、榛原郡、小笠郡、周智郡、磐田郡、庵原郡)
專賣局見付製造所	靜岡縣(濱名郡、引佐郡)
專賣局見付製造所	愛知縣(豐橋市、北設樂郡、南設樂郡、寶飯郡、渥美郡、八名郡)
專賣局見付製造所	愛知縣(豐橋市、北設樂郡、南設樂郡、寶飯郡、渥美郡、八名郡ヲ除ク) 岐阜縣(加茂郡、可兒郡、土岐郡、惠那郡) 長野縣(下伊那郡)
專賣局名古屋製造所	岐阜縣(加茂郡、可兒郡、土岐郡、惠那郡、大野郡、吉城郡ヲ除ク)
專賣局名古屋製造所	岐阜縣(四日市市、津市、桑名郡、員辨郡、三重郡、鈴鹿郡、河養郡、阿山郡、名賀郡、安濃郡) 志保郡
專賣局名古屋製造所	三重縣(宇治山田市、飯南郡、多氣郡、度會郡、志摩郡、南牟婁郡、北牟婁郡) 奈良縣(吉野郡、上北山村、下北山村)
專賣局金澤製造所	石川縣(石川郡、能美郡、鳥越村、山上村、川北村、尾口村、白糸村)
專賣局金澤製造所	富山縣(高岡市、西礪波郡、東礪波郡、射水郡、永見郡ヲ除ク) 岐阜縣(大野郡、吉城郡)
專賣局金澤製造所	滋賀縣(阪田郡、犬上郡、東淺井郡、伊香郡、高島郡) 福井縣(敦賀郡、三方郡、速岐郡、大飯郡)
專賣局彦根製造所	滋賀縣(神崎郡、甲賀郡、愛知郡、蒲生郡)
專賣局彦根製造所	滋賀縣(神崎郡、甲賀郡、愛知郡、蒲生郡)
專賣局京都製造所	京都府(天田郡、何鹿郡、加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡ヲ除ク) 滋賀縣(大津市、滋賀郡、栗太郡、野洲郡)
專賣局大阪製造所	和歌山縣(西牟婁郡、東牟婁郡ヲ除ク) 奈良縣(吉野郡(野道川村))
專賣局大阪製造所	奈良縣(吉野郡、十津川村、野道川村、下北山村、上北山村ヲ除ク)
專賣局大阪製造所	高知縣
專賣局大阪製造所	兵庫縣(神戸市、武庫郡、川邊郡、有馬郡、多紀郡、水上郡、津名郡、三原郡ヲ除ク) 京都府(熊野郡)
專賣局岡山製造所	岡山縣(岡山市、久米郡(佐真山村、福岡村、久米村ヲ除ク)、御津郡、赤松郡、和氣郡、邑久郡、上道郡、兒島郡、都窪郡、淺口郡、後月郡、小田郡、吉備郡、下倉村、水内村、日美村、富山村、大和村ヲ除ク) 川上郡(高山村) 廣島縣(深安郡(山野村))
專賣局岡山製造所	岡山縣(川上郡(高山村ヲ除ク)、上房郡、吉備郡(下倉村、水内村、日美村、富山村、大和村) 阿智郡)
專賣局岡山製造所	岡山縣(真庭郡、苫田郡、勝田郡、英田郡、久米郡(佐真山村、福岡村、久米村))
專賣局岡山製造所	鳥取縣(島根縣(那賀郡、美濃郡、鹿足郡、邑智郡(祖式村ヲ除ク)、飯石郡、赤名村、來島村、志太村、領原村)ヲ除ク)
專賣局岡山製造所	廣島縣(深安郡(山野村ヲ除ク)、高島郡、神石郡、甲奴郡、雙三郡、比婆郡、世羅郡、沼隈郡(山手村、草戸村、田尻村、水香村、津ノ郷村、柳町、細分村、佐渡村、神島村))
專賣局府中製造所	

專賣局金澤製造所	福井縣(敦賀郡、三方郡、速岐郡、大飯郡ヲ除ク)
專賣局金澤製造所	石川縣(石川郡、能美郡、鳥越村、山上村、川北村、尾口村、白糸村)
專賣局金澤製造所	富山縣(高岡市、西礪波郡、東礪波郡、射水郡、永見郡ヲ除ク) 岐阜縣(大野郡、吉城郡)
專賣局金澤製造所	滋賀縣(阪田郡、犬上郡、東淺井郡、伊香郡、高島郡) 福井縣(敦賀郡、三方郡、速岐郡、大飯郡)
專賣局彦根製造所	滋賀縣(神崎郡、甲賀郡、愛知郡、蒲生郡)
專賣局彦根製造所	滋賀縣(神崎郡、甲賀郡、愛知郡、蒲生郡)
專賣局京都製造所	京都府(天田郡、何鹿郡、加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡ヲ除ク) 滋賀縣(大津市、滋賀郡、栗太郡、野洲郡)
專賣局大阪製造所	和歌山縣(西牟婁郡、東牟婁郡ヲ除ク) 奈良縣(吉野郡(野道川村))
專賣局大阪製造所	奈良縣(吉野郡、十津川村、野道川村、下北山村、上北山村ヲ除ク)
專賣局大阪製造所	高知縣
專賣局大阪製造所	兵庫縣(神戸市、武庫郡、川邊郡、有馬郡、多紀郡、水上郡、津名郡、三原郡ヲ除ク) 京都府(熊野郡)
專賣局岡山製造所	岡山縣(岡山市、久米郡(佐真山村、福岡村、久米村ヲ除ク)、御津郡、赤松郡、和氣郡、邑久郡、上道郡、兒島郡、都窪郡、淺口郡、後月郡、小田郡、吉備郡、下倉村、水内村、日美村、富山村、大和村ヲ除ク) 川上郡(高山村) 廣島縣(深安郡(山野村))
專賣局岡山製造所	岡山縣(川上郡(高山村ヲ除ク)、上房郡、吉備郡(下倉村、水内村、日美村、富山村、大和村) 阿智郡)
專賣局岡山製造所	岡山縣(真庭郡、苫田郡、勝田郡、英田郡、久米郡(佐真山村、福岡村、久米村))
專賣局岡山製造所	鳥取縣(島根縣(那賀郡、美濃郡、鹿足郡、邑智郡(祖式村ヲ除ク)、飯石郡、赤名村、來島村、志太村、領原村)ヲ除ク)
專賣局岡山製造所	廣島縣(深安郡(山野村ヲ除ク)、高島郡、神石郡、甲奴郡、雙三郡、比婆郡、世羅郡、沼隈郡(山手村、草戸村、田尻村、水香村、津ノ郷村、柳町、細分村、佐渡村、神島村))
專賣局府中製造所	

專賣局府中製造所	廣島縣深安郡、廣島郡、神石郡、甲奴郡、斐三郡、比婆郡、世羅郡、沼隈郡(山手村、草月村、田尻村、水呑村、津、柳村、柳町、柳分村、佐波村、柳島村)ヲ除ク、山口縣玖珂郡、熊毛郡、都濃郡、佐波郡、大島郡)
專賣局池田製造所	德島縣(三好郡)
專賣局池田製造所	德島縣(阿波郡、麻植郡、美馬郡)
專賣局池田製造所	德島縣(徳島市、名東郡、名西郡、勝浦郡、那賀郡、海部郡、板野郡)
專賣局池田製造所	香川縣(三豐郡ヲ除ク)
專賣局松山製造所	愛媛縣(松山市、温泉郡、伊豫郡、上浮穴郡、喜多郡)
專賣局松山製造所	愛媛縣(宇摩郡) 香川縣(三豐郡)
專賣局松山製造所	愛媛縣(新居郡、周桑郡、越智郡)
專賣局福岡製造所	福岡縣(福岡市、粕屋郡、筑紫郡、糸島郡、早良郡、宗像郡、朝倉郡、小石原村、寶珠山、松末村、杷木村、宮野村、福成村、大庭村、久宮宮村、志波村、高木村、朝倉村ヲ除ク) 長崎縣(壱岐郡、上縣郡、下縣郡)
專賣局福岡製造所	山口縣(玖珂郡、熊毛郡、都濃郡、佐波郡、大島郡ヲ除ク) 島根縣(那賀郡、美濃郡、鹿足郡、邑智郡、都賀郡、津和野郡、大田郡、石見郡、赤松郡、來島村、志々村、原原村) 福岡縣(門司市、小倉市、企救郡、田川郡、京野郡、築上郡、遠賀郡、嘉穂郡、鞍手郡) 大分縣(西國東郡、下毛郡、宇佐郡、東國東郡、竹田津村、伊美村、姪島村)
專賣局福岡製造所	福岡縣(久留米市、三井郡、三潁郡、八女郡、山門郡)
專賣局福岡製造所	福岡縣(朝倉郡、小石原村、寶珠山、松末村、杷木村、宮野村、福成村、大庭村、久宮宮村、志波村、高木村、朝倉村、津和野郡) 大分縣(日田郡、玖珂郡)
專賣局福岡製造所	佐賀縣
專賣局熊本製造所	長崎縣(南高來郡、壱岐郡、上縣郡、下縣郡ヲ除ク)
專賣局熊本製造所	熊本縣(藤岡縣(三池郡) 宮崎縣(西臼杵郡) 鹿兒島縣(出水郡、東長島村、西長島村)
專賣局熊本製造所	長崎縣(南高來郡)

專賣局熊本製造所	大分縣(東國東郡、竹田津村、伊美村、姪島村ヲ除ク) 遠見郡、大分郡、北海部郡、南海部郡) 愛媛縣(東宇和郡、西宇和郡、南宇和郡、北宇和郡)
專賣局熊本製造所	大分縣(直入郡、大野郡)
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(始良郡、伊佐郡、揖宿郡、出水郡、東長島村、西長島村ヲ除ク) 宮崎縣(北諸縣郡、南那珂郡)
專賣局鹿兒島製造所	宮崎縣(宮崎郡、東諸縣郡、兒湯郡、東臼杵郡)
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(始良郡、伊佐郡) 宮崎縣(西諸縣郡)
專賣局鹿兒島製造所	鹿兒島縣(揖宿郡)
專賣局鹿兒島製造所	沖繩縣

○大藏省令第二十八號

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官沒ハ、稅務署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

明治四十二年四月二十八日

大藏大臣 侯爵桂太郎

○大藏省令第二十九號

明治三十八年大藏省令第二十八號中左ノ通追加ス

明治四十二年四月二十九日

大藏大臣 侯爵桂太郎

横濱稅務監督局
 横須賀稅務署所轄内
 長野稅務監督局
 松本稅務署所轄内

横須賀市
 松本市

仙臺稅務監督局
 福島稅務署所轄内

福島市

〔參照〕

明治三十八年四月二十八日大藏省令第二十八號ハ特ニ所得調查委員會ヲ置クヘキ市及北海道ノ區指定ナリ

○大藏省令第三十號

明治三十二年大藏省令第十三號中左ノ通改正ス

明治四十二年四月二十九日

一左記稅務署所轄内所得調査委員ノ定數ヲ左ノ如ク改ム

大藏大臣 侯爵桂太郎

大阪稅務監督局	市部	五人	仙臺稅務監督局	市部	三人
奈良稅務署所轄内	市部	五人	福島稅務署所轄内	市部	三人
長崎稅務監督局	市部	五人	金澤稅務監督局	市部	三人
長崎稅務署所轄内	市部	六人	高岡稅務署所轄内	市部	四人
佐世保稅務署所轄内	市部	六人	松江稅務監督局	市部	四人
佐賀稅務署所轄内	市部	五人	大東稅務署所轄内	市部	四人
長野稅務監督局	市部	五人	大森稅務署所轄内	市部	四人
松本稅務署所轄内	市部	五人	熊本稅務監督局	市部	四人
名古屋稅務監督局	市部	五人	久留米稅務署所轄内	市部	四人
名古屋稅務署所轄内	市部	九人	小倉稅務署所轄内	市部	四人
京都稅務監督局	市部	六人	津和野稅務署所轄内	市部	三人
木津稅務署所轄内	市部	六人			
横濱稅務監督局	市部	六人			
横須賀稅務署所轄内	市部	三人			
宇都宮稅務監督局	市部	六人			
栃木稅務署所轄内	市部	六人			
取手稅務署所轄内	市部	四人			
中ノ條稅務署所轄内	市部	四人			
			新田稅務署所轄内	市部	四人
			名古屋稅務監督局	市部	六人
			知立稅務署所轄内	市部	六人
			學母稅務署所轄内	市部	四人
			木本稅務署所轄内	市部	四人
			半田稅務署所轄内	市部	六人
			松江稅務監督局	市部	六人
			津和野稅務署所轄内	市部	三人

一左ノ事項ヲ削除ス

札幌稅務監督局	市部	五人	神戸稅務監督局	市部	六人
函館稅務署	市部	四人	加古川稅務署	市部	六人
小樽稅務署	市部	五人	名古屋稅務監督局	市部	六人
札幌稅務署	市部	五人	桑名稅務署	市部	六人

〔参照〕

明治三十二年四月二日 大藏省令第十三號ハ所得稅法施行規則第五條ノ調査委員定數ナリ

○海軍省令第一號

海軍出身志願者身體檢査格例中左ノ通改正ス

明治四十二年四月二十三日

海軍大臣 男爵齋藤實

- 第二條第一號中「生徒(兵學校生徒機關學校)ヲ」生徒(兵學校生徒機關學校生徒)ニ第十號中及學生ヲ學生及經理學校生徒ニ改ム
- 第四條中「學生」ノ次ニ「經理學校生徒」ヲ加フ
- 第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
- 第五條 造船生徒及造兵生徒ノ身體檢査規格ハ造船學生及造兵學生ニ準ス

〔参照〕

海軍省令第一號海軍出身志願者身體檢査格例(明治三十五年一月十三日)抄録

- 第二條 左ノ各號ニ該當スルモノハ不合格トス
- 一 高等武官各候補生、學生、兵學校生徒、機關學校生徒、造船生徒、兵學校生徒、機關學校生徒、筆記志願ノモノニ在テハ身長五尺、體重十二貫、胸圍二尺五寸三分、胸廓擴張一寸八分、活量二千八百立方仙迷立方、其ノ二達セサルモノ、但シ生徒志願

ノモノニシテ十七歳未満(除以下同シ)ナルトキハ體重十二貫五百目胸圍二尺四寸八分以上ニシテ發育ノ見込アルモノハ合格ト爲スコトアルヘシ

十 視力二十ノ二十ニ達セサルモノ 識色不全、斜視、涙管管塞、眼瞼下垂或ハ翻轉、但シ軍醫官、藥劑官、主計官、造船官、造兵官、少軍醫候補生、少藥劑士候補生、少主計候補生及學生志願ノモノニ在テハ視力五十ノ二十以下、筆記志願ノ者ニ在テハ視力三十ノ二十以下ノ近視ハ合格トナスコトアルヘシ

第四條 高等武官、各候補生、學生、志願ノモノニ在テハ第二條第六號以下ノ諸狀況アルモノ其ノ輕度ノモノハ職務ヲ參酌シテ合格ト爲スコトアルヘシ

○司法省令第三號

明治四十二年同四十二年ニ施行スヘキ判事檢事登用第一回試験及辯護士試験ニ於テハ外國語ノ試験ハ之ヲ行ハス

明治四十二年四月七日

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省令第四號

秋田地方裁判所管内大曲區裁判所ニ同地方裁判所支部ヲ置キ同區裁判所ノ管轄區域内ニ於ケル地方裁判所ノ裁判權ニ屬スル民事第一審ノ事務ヲ取扱ハシム

本令ハ明治四十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年四月十三日

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省令第五號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十二年四月十七日

司法大臣 子爵岡部長職

横濱地方裁判所ノ部横濱區裁判所神奈川出張所ノ管轄欄中「山内町三丁目」ノ次ニ「山内町四丁目」ヲ加ヘ「星野町」ノ次ニ「橋本町一丁目」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第六號

横濱地方裁判所管内横濱區裁判所神奈川出張所管轄武藏國横濱市山内町四丁目及橋本町一丁目ニ屬スル商業登記ノ事務ハ横濱區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年四月十七日

司法大臣 子爵岡部長職

○司法省令第七號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十二年四月二十四日

司法大臣 子爵岡部長職

熊本地方裁判所ノ部八代區裁判所ノ管轄欄中「八千把村」ノ次ニ「郡築村」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○文部省令第十一號

高等學校大學豫科入學者選抜試験規程左ノ通定ム

明治四十二年四月二十一日

文部大臣 小松原英太郎

高等學校大學豫科入學者選抜試験規程

第一條 選抜試験ハ入學志望者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキ之ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數及選抜試験施行ノ期日ハ文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選抜試験ノ學科目ハ中學校ノ學科目(法制經濟及唱歌ヲ除ク)中ニ就キ毎回文部大臣之ヲ告示ス

前項試験ハ中學校卒業ノ程度ニ據ル

第四條 選拔試験ハ高等學校長之ヲ行フ

第五條 選拔試験ヲ受ケントスル者ハ其ノ入學後修業セントスル部類ヲ指定スヘシ
指定スヘキ部類ハ左ノ如シ

- 第一部甲類 英語法科 政治法科 經濟法科
- 第一部乙類 英語文科
- 第一部丙類 獨語法科 獨語文科 佛語法科 佛語文科
- 第一部丁類 佛語法科 佛語文科
- 第二部甲類 工 科
- 第二部乙類 農科 理科 醫科ノ内藥學科
- 第三部 醫 科

入學志望者ハ志望類ニ簡以上(同一部内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望類ノ順位ヲ定ムヘシ

第六條 選拔試験ヲ受ケタル者ハ之ヲ第一部、第二部及第三部ノ三部ニ分チ其ノ試験ノ成績順ニ依リ各高等學校ニ於テ各部募集ノ總員ト同數ノ人員ヲ選出シ其ノ内ニ就キ左ノ方法ニ依リ入學セシムヘシ

- 一 選拔試験成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス
- 二 第一號ノ場合ニ於テ成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル
- 三 第一號第二號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類已ニ滿員トナリ配當スルコトヲ得サル者ニ就キテハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニシテ缺員アルモノニ配當ス
- 四 第三號ノ場合ニ於テ成績相同シキトキハ志望類ノ順位ニ依ル
- 五 第三號ノ場合ニ於テ成績及志望類ノ順序相同シキトキハ抽籤ニ依ル
- 六 前數號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル志望類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス

得サルモノトス

前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲、入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ前項選出人員以外ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填スヘシ

附 則

第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○文部省令第十二號

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年四月二十三日

文部大臣 小松原英太郎

第二十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得

第二十九條第一項中「十二ヲ十八」ニ改ム

第七十九條 削除

第八十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ毎年六月末日マテニ學齡簿ヲ編製スヘシ

第八十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ市町村長ハ學齡簿編製後八月三十一日マテニ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者ヲ遲滯ナク學齡簿ニ記入スヘシ

同條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第二號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ抹消スルト同時ニ學齡簿ノ際本ヲ兒童ノ轉住地ノ市町村長ニ送付スヘシ

第八十五條中「四月」下ニ「又ハ九月」ヲ加フ

第七條中第一項第四號及第五號ヲ左ノ如ク改メ左ノ一項ヲ加フ

四 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

五 公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者

前項第四號及第五號ニ該當スル者ニ對シ小學校本科正教員ノ檢定ヲ行フ場合ハ卒業後二箇年以
上小學校教育ニ從事シタル者又ハ高等女學校ヲ卒業シ修業年限一箇年以上ノ補習科ニ於テ小學
校教員ニ適スル教育ヲ受ケ卒業シタル者ニ限ル

〔參照〕

- 文部省令第十四號小學校令施行規則(明治三十三年八月二十一日)抄録
- 第二十九條第一項
- 小學校ノ學級數ハ十二學級以下トス
- 第七十九條 木章ノ規定ハ補習科ノ設備ニ關シ之ヲ適用セス
- 第八十條 市町村長ハ其ノ市町村內ニ居住シ翌年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ第九號表ノ様式ニ依リ毎
年十二月末日マテニ其ノ學齡簿ヲ編製スヘシ
- 第八十一條第一項及第三項
- 市町村長ハ學齡簿編製後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シ
タル者アルトキハ遲滞ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ
- 市町村長ハ學齡簿ニ登錄ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ就一ニ該當スル者アルトキハ遲滞ナク之ヲ抹消スヘシ
- 第八十五條 就學猶豫ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ一箇年トシ既ニ就學ノ始期ニ達シ
タル兒童ニ在リテハ一箇年以下トス
- 第七條 無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ
- 四 中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シタル者
- 五 高等女學校ヲ卒業シタル者

○文部省令第十三號

東京音樂學校ノ入學資格、修業年限、學科、學科目及其ノ程度、豫科、研究科、選科並聽講科ニ關スル規
程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十二年四月二十九日

文部大臣 小松原英太郎

東京音樂學校規程

- 第一條 東京音樂學校ノ學科ヲ別テ本科及師範科トス
- 第二條 本科ノ修業年限ハ三箇年乃至五箇年トス
- 第三條 本科ハ之ヲ聲樂部及器樂部ニ別ツ其ノ學科目及每週教授時數左ノ如シ

學科	學科 目	聲樂部			器樂部		
		第一 年	第二 年	第三 年	第一 年	第二 年	第三 年
修身	修身	一	一	一	一	一	一
	唱歌	八	八	八	三乃至五	同上	同上
器樂	樂	二	二	二	三	三	三
	音樂通論	一			一		
器樂合奏	和聲論				四	四	四
	樂式初步					二	二
音樂史	音樂史	二	二	二	二	二	二

前項所定ノ學科目中共ノ配當年度内ニ修了セサリシモノニ就キテハ次年以後ニ於テ之ヲ修了セシム

國語及外國語ハ本校所定ノ程度以上ノ學力アリト認メ若ハ修了ノ見込ナシト認メタル生徒ニハ其ノ全部又ハ一部ヲ課セサルコトヲ得

隨意科目トシテ美學、音樂論、教育學及音樂教授法ヲ授クルコトヲ得

第四條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ豫科卒業者若ハ試験ニ依リテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認メタル者ニ限ル

第五條 師範科ヲ別チテ甲種師範科及乙種師範科トス

第六條 師範科ノ修業年限ハ甲種師範科ニ在リテハ二箇年、乙種師範科ニ在リテハ一箇年トス

第七條 師範科ノ學科目及每週教授時數左ノ如シ

學科目	甲種師範科			乙種師範科
	第一年	第二年	第三年	第一年
唱歌	八	八	八	一〇
修身	一	一	一	一

學科目	甲種師範科			乙種師範科
	第一年	第二年	第三年	第一年
「オルガン」又ハ「ピアノ」	三	二	二	三
音樂通論	二	一	二	二
和聲論	二	二	二	二
音樂史	二	二	二	二
教育學	二	二	二	二
音樂教授法	二	二	一	第三學期
國語	三乃至六	同上	同上	同上
英語	三乃至六	同上	同上	同上
體操及遊戲	二	二	二	二
計	三三	三三	二八	二七
練習	若干時	同上	同上	同上

國語及英語ハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選修セシメ他ノ一ハ隨意科目トス

甲種師範科生徒ニハ隨意科目トシテ「ヴァイオリン」、美學及音樂論ヲ授クルコトヲ得

第八條 甲種師範科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢滿十六歳以上ニシテ師範學校、中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シ地方長官ノ薦舉ヲ受ケタル者ニ就キ試験ノ上學校長之ヲ定ム但シ地方長官ノ薦舉ヲ受ケサル者ト雖前記ノ資格ヲ有シ若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ハ試験ノ上之ヲ入學セシムルコトヲ得

乙種師範科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限二箇年以上ノ高等小學校ヲ卒業シ若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ試験ニ合格シタル者トス

第九條 東京音樂學校ニ豫科ヲ置ク

豫科ノ修業年限ハ二箇年トス
豫科ノ學科目及每週教授時數左ノ如シ

學科目	年	
	第一年	第二年
修身	一	一
唱歌	八	八
器樂	三乃至五	同上
音樂通論	一	一
國語	三	三
外國語	三	三
總括	二	二
計	二三	二三
總習	若干時	同上

第十條 豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校又ハ高等女學校ノ第二學年ヲ修了シ若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ試験ニ合格シタル者トス

第十一條 學校長ハ臨時必要ト認メタル場合ニ於テハ前記各學科ノ每週教授時數ヲ増減シ若ハ科外教授ヲ爲スコトヲ得

第十二條 東京音樂學校ニ研究科選科及聽講科ヲ設クルコトヲ得
第十三條 研究科ヲ別チテ聲樂部器樂部及作曲部トス

研究科ノ修業年限ハ作曲部ニアリテハ三箇年以内其ノ他ニアリテハ二箇年以内トス

第十四條 研究科ノ學科目左ノ如シ

(聲樂部) 聲樂「ピアノ」、外國語 英語、獨語、又ハ伊語、内外文學、美學

(器樂部) 器樂、器樂合奏、外國語 英語、獨語、又ハ伊語、美學、音樂論

(作曲部) 音樂理論「ピアノ」又ハ合唱、外國語 英語、獨語、又ハ伊語、内外文學、美學、音樂論

第十五條 研究科ノ各學科目ノ每週教授時數ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ學校長之ヲ定ム

第十六條 研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者ニ限ル

本科卒業者ニアラスシテ試験ニ依リ之ト同等以上ノ資格アリト認メタル者ニハ研究科ニ屬スル學科目ノ學習ヲ許可スルコトヲ得

第十七條 選科ノ修業年限、學科目及每週教授時數ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ學校長之ヲ定ム

選科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學科目ヲ學習スルニ堪フト認メタルモノニ限ル

第十八條 聽講科ニ關スル規程ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ學校長之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農商務省令第一號

中央度量衡器檢定所ノ支所ノ位置ヲ左ノ通相定ム但シ支所ニ於テハ比較検査及試験ニ關スル事務ノ取扱ヲ爲サス

明治四十二年四月一日

中央度量衡器檢定所大阪支所

農商務大臣 男爵大浦兼武
大阪市西區江ノ子島東ノ町

○農商務省令第二號

耕地整理及土地改良獎勵費規則左ノ通定

明治四十二年四月一日

農商務大臣 男爵大浦兼武

耕地整理及土地改良獎勵費規則

第一條 耕地整理及土地改良事業ヲ獎勵スル爲農商務大臣ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ本則ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ左ニ掲クル府縣ノ費用及補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス

- 一 耕地整理及土地改良ノ施行ニ關シ當該年度ニ於テ行フ調査、設計、工事監督等ニ要スル費用
- 二 耕地整理事業中當該年度ニ於テ行フ道路、堤塘、溝渠、橋梁、溜池ノ變更廢置又ハ灌漑排水ニ關スル設備若ハ工事ニ要スル費用ニ對スル補助金

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ前年度三月中ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 前條第一號ノ補助金ニ付テハ調査、設計、工事監督等ノ施行豫定書、設備豫定書及費用豫算書並調査、設計、工事監督等ノ實施ニ關スル規程
- 二 前條第二號ノ補助金ニ付テハ補助金豫算書、其ノ説明書及補助金ノ交付ニ關スル規程

第四條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニシテ前條ノ添附書類ニ記載シタル豫定、豫算又ハ規程ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ費用又ハ補助金ノ額ヲ增加スルトキハ補助金ノ增加交付ヲ申請スルコトヲ得
第五條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣ハ別記第一號乃至第四號様式ニ依リ當該年度ニ於ケル調査、設計、工事監督等ノ成績及補助金交付ノ成績ヲ翌年度五月末日迄ニ費用及補助金ノ決算ヲ同十一月末日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ第八條ノ規定ニ依ル義務ノ存スル場合亦同シ

第六條 調査設計、工事監督等ニ關スル職員ヲ任用シタルトキハ履歷書ヲ添附シ其ノ氏名、職名及俸給額ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ其事項ニ變更アリタルトキ又ハ職員ヲ免シタルトキハ其ノ旨ヲ報告スヘシ

前項ノ規定ハ囑託員ニ之ヲ準用ス

第七條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニ第三條第一號ノ添附書類ニ記載シタル豫定ノ變更ヲ爲スヘキコトヲ命シ之ニ要スル費用ニ對シ補助金ノ增加交付ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニシテ第三條ノ添附書類ニ記載シタル調査、設計、工事監督等ニ關スル施行豫定ノ施行ヲ當該年度内ニ終了シ得サルトキハ年度後ニ於テ之ヲ繼續遂行スルノ義務アルモノトス

府縣ニ於テ補助金豫算書ニ定メタル補助金ノ交付ヲ當該年度内ニ終了セサルトキハ當該年度後ニ於テ行フ第二條第二號ノ費用ニ對シテモ尙之ヲ交付スルノ義務アルモノトス

第九條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受クル府縣ニ對シ調査ヲ命シ若ハ報告ヲ徵シ又ハ實地検査ヲ爲スコトヲ得

第十條 府縣ニ於テ負擔金額ヲ減少シタルトキ第四條若ハ第八條ニ違反シ又ハ第七條ノ命令ニ從ハサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得農商務大臣ニ於テ府縣ノ施行成績不良ナリト認ムルトキ亦同シ

附則

第十一條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十二年度ニ限り第三條中前年度三月中トアルヲ明治四十二年四月中トス

(別記)
第一號様式

明治何年度調査(設計、工事監督等)成績報告

地區名	地區總面積	地區確定面積	施行期間	施行中ニ關スル終了事項	終了日期	記事
何郡何村大字何々			年月日著手 年月日終了			
何郡何村大字何々			年月日著手 年月日終了 了(全事業ノ約六分通終了ノ豫定)			
計						

備考

- 一 此ノ報告ニハ調査ノ終了シタル各地區ニ付地區ノ現況、整理計劃、整理費用及整理ニ因リテ得ヘキ利益ノ概要ヲ記シタル調査及整理計劃略圖ヲ添附スヘシ
- 二 設計、工事監督等ノ成績ハ此ノ様式ニ準シ各別ニ調査スヘシ但シ前號ノ書類ノ添附ヲ要セス
- 三 工事監督成績報告ニアリテハ地區確定面積欄ヲ工事監督終了面積欄トス
- 四 記事欄ニハ設計ノ變更其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第二號様式

明治何年度耕地整理補助金交付成績報告

整理地區名	整理地區總面積	整理費用豫算總額	實際費用	同上下内譯	補助金交付額	記事
何郡何村大字何々				何々何々何々		
何郡何村大字何々						
計						

計						
---	--	--	--	--	--	--

第三號様式

明治何年度調査、設計、工事監督等費用決算報告

費用總額	國庫補助額			豫算			決算			殘額			記事
	額	率	率	額	率	率	額	率	率	額	率	率	
俸給													
旅費													
備品費													
雜給													
雜費													

第四號様式

明治何年度補助金交付額決算報告

補助金交付總額	國庫補助額			豫算			決算			殘額			記事
	額	率	率	額	率	率	額	率	率	額	率	率	
補助金交付總額													

○農商務省令第三號

汽船「トロール」漁業取締規則左ノ通相定ム

明治四十二年四月六日

農商務大臣 男爵大浦兼武

汽船「トロール」漁業取締規則

- 第一條 汽船「トロール」漁業ヲ營ムトスル者ハ一隻毎ニ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ操業區域ヲ記載シ船舶國籍證書寫及船舶検査證書寫ヲ添付スヘシ
- 第三條 農商務大臣第一條ノ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ交付ス
許可證ハ之ヲ船舶内ニ保持スヘシ
許可證ヲ亡失毀損シ又ハ許可證ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其事由ヲ具シ許可證ノ再交付又ハ訂正ノ願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第四條 操業區域ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 水産動植物ノ蕃殖保護及漁業取締ノ爲汽船「トロール」漁業ヲ禁止スヘキ區域ハ農商務大臣之ヲ告示ス
- 第六條 農商務大臣ニ於テ水産動植物ノ蕃殖保護其他公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ニ依ル許可ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ之ヲ取消スコトアルヘシ
許可ヲ受ケタル者ニシテ本則ノ規定又ハ本則ニ基ク處分ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ
- 第七條 第一條ニ依ル許可ヲ受ケタル者ニシテ許可ヲ取消サレ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ業務ヲ廢止シタルトキハ一箇月以内ニ許可證ヲ返納スヘシ
- 第八條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ各事業年度終了ノ日ヨリ一箇月以内ニ事業報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

大臣ニ差出スヘシ

農商務大臣必要アリト認ムルトキハ隨時報告書其他ノ書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 許可ヲ受ケシテ汽船「トロール」漁業ヲ營ミ又ハ禁止區域内若ハ操業區域外ニ於テ汽船「トロール」漁業ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ情狀ニ因リ漁具及漁獲物ヲ沒收ス

第六條ニ依ル許可ノ制限又ハ停止ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ
許可ヲ受ケサル汽船「トロール」漁業又ハ禁止區域内ニ於ケル汽船「トロール」漁業ノ漁獲物ナルコトヲ知テ販賣シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第三條第二項第七條又ハ第八條第一項ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第八條第二項ニ依ル命令ニ從ハサルトキ亦前項ニ同シ

第十一條 農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ住所地所轄地方長官ヲ經由スヘシ

附則

第十二條 本則ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前ヨリ汽船「トロール」漁業ヲ營ム者ハ明治四十二年六月三十日迄本則ノ規定ニ拘ハラズ引續キ之ヲ營ムコトヲ得
前項ノ漁業者カ前項ノ期日迄ニ許可ヲ出願シタルトキハ其許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間亦前項ニ同シ

○農商務省令第四號

桑園増殖獎勵費交付規則左ノ通定ム

明治四十二年四月十三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

桑園増殖獎勵費交付規則

第一條 桑園増殖ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵費ヲ交付ス

第二條 獎勵費ハ左ノ場合ニ於テ府縣ニ之ヲ交付ス

- 一 桑種苗ノ無償配付ヲ爲シ又ハ之ヲ目的トシテ其ノ設備ヲ爲ストキ
- 二 桑園ノ新設、桑樹ノ植替ニ對シ獎勵金ヲ交付スルトキ
- 三 郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ニ對シ前二號ニ掲ケタル事項ノ全部又ハ一部ヲ行フコトヲ條件トシテ補助金ヲ交付スルトキ

農商務大臣必要ト認ムルトキハ桑種苗ノ有償配付若ハ之ヲ目的トスル設備ヲ爲シ又ハ其ノ配付若ハ設備ヲ爲スコトヲ條件トシテ郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ニ補助金ヲ交付スル府縣ニ對シ獎勵費ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條 獎勵費ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ桑園増殖獎勵ニ關スル費用ノ豫算及桑種苗配付又ハ獎勵金若ハ補助金交付並其ノ監督ニ關スル規程ヲ添へ前年度ノ三月末日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二條第一項第三號ノ場合ニ於テハ郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ノ桑園増殖ニ關スル豫算及施行方法書ヲ添附スヘシ

第四條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣前條第一項ノ豫算又ハ規程ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第五條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ五月末日迄ニ別記様式ニ依リ前年度桑園増殖施行ノ成績ヲ八月末日迄ニ第三條第一項ノ費用ノ決算及有償配付ナルトキハ其ノ收入決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ノ桑園増殖ニ關スル經費ノ支出額獎勵費交付ノ指令ヲ受ケタル當時ニ於ケル豫算額ニ違セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル獎勵費ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

附則

第七條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 本則中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ之ヲ北海道地方費ニ準用ス

第九條 明治四十二年度ニ限リ第三條中前年度ノ三月末日トアルヲ明治四十二年四月末日トス

(別記)

様式第一

郡市別	新設段別	植替段別	計	配付種苗ノ數量	獎勵金 交付額
計					

(備考)

- 一 配付種苗ノ數量、獎勵金補助金交付額ハ府縣ヨリ配付シタル數量、交付シタル金額ノミヲ記載スヘシ
- 二 配付種苗ノ數量ハ仕立、買入ヲ區別スヘシ

様式第二

郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ノ別	配付種苗ノ數量	有償ナルトキハ其ノ價額並單價	獎勵金 交付額
計			

(備考)

- 一 此ノ報告ハ本則ニ基キ府縣又ハ上級團體ヨリ補助金交付又ハ種苗配付ヲ受ケタル郡、市町村、農會其ノ

他團體ニ於テ施行シタルモノノミヲ記載スヘキモノトス
 二 配付種苗ノ數並ハ府縣又ハ上級團體ヨリ交付セラレタルモノ及仕立買入等ヲ區別シ獎勵金補助金交付額モ亦府縣又ハ上級團體ヨリ交付セラレタル金額ト團體自ラ支出シタル金額ヲ區別シテ記載スヘシ

○農商務省令第五號

明治四十二年四月勅令第九十四號ニ依ル 度量衡器及計量器比較検査規則左ノ通定ム

明治四十二年四月十三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第一條 農商務大臣ニ度量衡器又ハ計量器ノ比較検査ノ依頼ヲ爲ス者ハ別記様式ノ依頼書ニ現品ヲ添ヘ之ヲ中央度量衡器檢定所ニ差出スヘシ

第二條 明治四十二年勅令第九十四號第一條第一項第六號乃至第九號ニ掲ケタルモノノ比較検査ニ於テ其ノ器差微小ニシテ正確ト認ムルモノニハ證明ヲ附シ其ノ正確ナラサルモノニ付テハ請求ニ依リ成績書ヲ交付ス

第三條 比較検査ノ證明ノ雛形ヲ定ムルコト左ノ如シ



第四條 第二條以外ノモノノ比較検査ヲ終リタルトキハ成績書ヲ依頼者ニ交付ス

第五條 豫メ手数料ノ額ヲ確定シ難キモノニ在リテハ依頼書ニ比較検査ノ結果ニ依リ指定ノ印紙ヲ貼用スヘキ旨ヲ記入スヘシ

前項ノ規定ハ比較検査ノ成績書ノ譯本ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 當該官吏ハ貼用印紙カ手数料金額ニ相當ナルコトヲ確認シタル後書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ用井消印ヲ押捺スヘシ

附則

本令ハ明治四十二年勅令第九十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

比較検査依頼書

收入印紙

貼用シタル收入印紙ノ額

金 何 圓

一品名

何々

何箇(何件)

一比較検査ノ範圍

全長、全量、角度、膨脹率、目盛、何々(明治四十二年勅令第九十四號第一條第一項第一)

一物品ノ用途 何々(度量衡器ニ限リ之ヲ記載スヘシ)

右比較検査及依頼候也

年 月 日

現住所

依頼者 何 某

農商務大臣宛

○農商務省令第六號

明治三十五年農商務省令第七號漁業法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年四月二十三日

農商務大臣 男爵大浦兼武

第六十五條第一項中二十五日トアルヲ三月三十一日トアルヲ百圓ニ改ム

(參照)

農商務省令第七號漁業法施行規則(明治三十五年五月十七日)抄録

第六十五條第一項

第五十一條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○逓信省令第十五號

市公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金特別取扱規則左ノ通定ム

明治四十二年四月五日

逓信大臣 男爵後藤新平

市公金受拂ノ爲ニスル郵便振替貯金特別取扱規則

第一條 市ニ於テ郵便振替貯金ニ依リ各種ノ税金及其ノ他ノ公金ノ受拂ヲ爲サムトスル場合ニ於テ特別ノ取扱ヲ要スルトキハ豫メ逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 市ニ於テ前條ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ加入口座數、口座開設場所及口座ニ表示スヘキ名義等ヲ記載シタル申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ所轄一等郵便局長ヲ經テ逓信大臣ニ差出スヘシ

一 最近一箇年間ニ於ケル公金受拂件數及其ノ金額ノ月別調書

二 振替貯金ニ依リ公金收納ノ爲ニ使用スル納稅告知書、徵稅傳令書及賦課令狀等ノ見本

三 振替貯金ニ依ル公金ノ受拂ニ關シ市ノ發布スヘキ規則

四 各種收納金ニ對スル指定納付期日及其ノ見込件數調書

第三條 前條ノ納稅告知書、徵稅傳令書及賦課令狀等ハ郵便官署ノ取扱上振替貯金拂込書ニ代用シ得ヘキ必要ナル事項ヲ具備スルコトヲ要ス

第四條 振替貯金ニ依リ公金收納ノ爲市ノ發スル納稅告知書、徵稅傳令書及賦課令狀等ニシテ一枚ニ數口ノ金額ヲ併記スルモノニ在リテハ之ニ其ノ合計額ニ掲記スルコトヲ要ス

第五條 公金納付ノ爲振替貯金ノ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ納稅告知書、徵稅傳令書及賦課令狀等ヲ以テ振替貯金拂込書ニ代用ス

前項ニ依ル拂込ハ特ニ指定シタル場合ノ外其ノ公金ノ收納ヲ爲スヘキ市ノ行政區域内ニ在ル郵便局ノ外之ヲ取扱ハス

第六條 振替貯金ニ加入セル者公金納付ノ爲市ノ口座ニ對シ其ノ貯金ノ振替ヲ請求スル場合ニ於

テハ拂出書ニ納稅告知書、徵稅傳令書又ハ賦課令狀等ヲ綴付シ且其ノ枚數ヲ拂出票及拂出通知票ノ金額記載ノ下部ニ附記スヘシ

前項ニ對スル振替ヲ了シタルトキハ其ノ證トシテ當該納稅告知書等ノ内領收證書ノ部ハ相當證印ノ上之ヲ振替請求加入者ニ送付シ其ノ他ハ之ヲ納付ヲ受ケタル加入者ニ送付ス

第七條 公金納付ノ爲本規則ニ依リ取扱ヒタル振替貯金ノ拂込及振替ハ之カ口座登記前ト雖其ノ取消ノ請求ニ應セス

第八條 市ハ其ノ口座ニ屬スル貯金ヲ當該市公金ノ取扱ヲ爲ス銀行ノ日本銀行又ハ同行支店ニ有スル當座勘定口ニ振替ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第九條 市ニ於テ本規則ニ基キ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル後第二條ノ納稅告知書、徵稅傳令書若ハ賦課令狀等ノ様式又ハ受拂ニ關スル規定ヲ變更セムトスルトキハ豫メ逓信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 市公金取扱ノ爲ニスル郵便振替貯金ノ取扱ニ關シ前各條ニ規定シタルモノノ外ハ郵便振替貯金規則ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第十六號

明治四十年九 逓信省令第四十三號外國郵便爲替規則中左ノ通改正シ本令公布ノ日ヨリ施行ス

明治四十二年四月十五日

逓信大臣 男爵後藤新平

第十五條第二項ヲ削ル

〔參照〕

逓信省令第四十三號外國郵便爲替規則(明治四十年九月二十一日)抄錄

第十五條第二項

英國下ノ條約ニ依ル媒介爲替ニシテ墨西哥合衆國ニ宛ツルモノニ付テハ拂渡通知書ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○逓信省令第十七號

明治三十三年^九逓信省令第五十一號官廳用電話電話規程第一條第二號ノ電話ヲ施設スル地方廳カ其ノ電話線ヲ逓信省ニ無償引渡シタル場合ニ於テハ當分ノ内左記各號ヲ適用ス

一 引渡ヲ爲シタル電話線ニ依リ又ハ該電話線ト他ノ電話線トニ依リ連絡スル通話區域ニ於テ其ノ引渡ヲ爲シタル同一地方廳ノ地方費支辨ニ係ル加入者カ相互間ニ加入區域外通話ヲ爲ストキハ電話料ヲ半減シ且同一順位ノ一般通話ニ先チ接続ス但シ通話請求ノ際申出ナキトキハ一般ノ順序ニ依ル

二 引渡ヲ爲シタル電話線ニ直接連絡スル通信官署ニ於テ特設電話ノ加入者カ一名^{無料加入者及}除ニシテ且其ノ引渡ヲ爲シタル地方廳ノ地方費支辨ニ係ル者ナルトキハ交換料及附加交換料ヲ免除ス但シ免除スヘキ事實ノ發生又ハ消滅ノ日カ料金納付各期中途ナルトキハ其ノ期分ハ年額金ノ日割ヲ以テ計算シ若シ免除ノ料金カ既納ニ係ルトキハ請求ニ依リ之ヲ還付ス其ノ請求期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日間トス

本令ハ明治四十二年五月十一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年^九逓信省令第四十一號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年四月二十九日

逓信大臣 男爵後藤新平

〔參照〕

明治四十年^九逓信省令第四十一號ハ逓信省ニ無償引渡ノ府縣電話線ニ依リ通話ヲ爲ス者電話料半減ノ件ナリ

○逓信省令第十八號

電話至急開通規則左ノ通相定ム

明治四十二年四月三十日

逓信大臣 男爵後藤新平

電話至急開通規則

第一條 明治三十九年^六逓信省令第二十五號電話規則ニ依ル單獨加入ノ申込者其ノ加入申込登記ノ順序ニ依ラス至急ニ開通ヲ希望スルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ至急開通ヲ申請スルコトヲ得

第二條 至急開通ノ申請ヲ受付クヘキ郵便局、豫定箇數及其ノ期間ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條 至急開通申請ノ電話ハ之ヲ當該年度ノ工事トシテ一般加入申込ノ電話ニ先チ開通セシム

第四條 至急開通ヲ申請セムトスル者ハ至急開通申請書^{附録式}ヲ當該郵便局ニ差出スヘシ

第五條 至急開通ノ申請ハ受付期間満了ノ後所轄一等郵便局ニ於テ其ノ受理不受理ヲ決定シ之ヲ各申請者ニ通知ス

第六條 申請者前條受理ノ通知ヲ受ケタルトキハ當該郵便局ノ指定シタル期日迄ニ至急開通料ヲ納ムヘシ其ノ金額ハ別ニ之ヲ告示ス

第七條 至急開通ノ申請者前條ノ期日迄ニ至急開通料ヲ納メサルトキハ該申請ハ其ノ效ヲ失フ

第八條 左記各號ノ場合ニ於テハ工事前ノ都合ニ依リ至急開通ヲ繰延フルコトアルヘシ

一 申請者至急開通工事ノ猶豫ヲ請求シタルトキ
二 申請者至急開通工事著手ノ通知ヲ受ケタル後電話機設置場所ノ變更ヲ請求シタルトキ

附則

第九條 本令ハ明治四十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

附録書式

電話至急開通申請書

加入申込年月日
同上登記順番

何年何月何日
何番

同上欄補設置場所

同上名義

何區何町何番地
何 某

右單獨加入申込電話至急開通相成度電話至急開通規則ニ依リ申請候也
明治何年何月何日

何市(郡區)何町(村)何番地

何

某印

何郵便局御中

○宮内省令第二號

帝室林野管理局支廳職制中勅裁ヲ經テ左ノ通改正ス

明治四十二年五月十四日

宮内大臣

伯爵田中光顯

第四條中「帝室林野管理局」ノ下ニ「主事補」ヲ加フ

附 則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

宮内省令第七號帝室林野管理局支廳職制(明治四十年十一月一日)抄錄

第四條 各支廳ニ帝室林野管理局技師及技手ヲ分屬セシム

○宮内省令第三號

判任待遇等外宮内職員職制左ノ通定ム

明治四十二年五月十四日

宮内大臣

伯爵田中光顯

判任待遇等外宮内職員職制

第一條 大臣官房ニ受授員ヲ置ク

受授員ハ二十八人等外トス文書受授ノ雜務ニ從事ス

第二條 式部職樂部ニ樂生ヲ置ク

樂生ハ二十八人等外トス樂事ヲ修習ス

第三條 大膳寮ニ膳手ヲ置ク

膳手ハ專任十五人等外トス膳蓋ノ雜務ニ從事ス

第四條 諸陵寮ニ陵墓守部ヲ置ク

陵墓守部ハ百八十八人判任待遇トス墓陵ノ管守ニ從事ス

第五條 主殿寮ニ仕人ヲ置ク
 仕人ハ百九十五人等外トス宮殿管守ノ雜務ニ從事ス
 主殿寮警察部ニ皇宮警手ヲ置ク
 皇宮警手ハ三百三十八人判任待遇トス皇宮警部ヲ助ク
 第六條 主馬寮ニ蹄鐵工ヲ置ク
 蹄鐵工ハ五人等外トス蹄鐵ノ技術ニ從事ス
 第七條 主獵寮ニ獵場監守及鷹匠ヲ置ク
 獵場監守ハ專任三十五人判任待遇トス獵場ノ管守ニ從事ス
 鷹匠ハ八人判任待遇トス鷹師ヲ助ク
 第八條 陵墓守部獵場監守ノ俸給ハ年俸皇宮警手鷹匠ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル
 陵墓守部 自四十八圓至七十圓
 獵場監守 自二十圓至百八十圓
 皇宮警手 自十二圓至二十圓
 鷹匠 自十圓至三十圓
 第九條 等外職員ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル
 受授員 自十圓至十七圓
 樂生 自五圓至十圓
 膳手 自十圓至十七圓
 仕人 自十圓至十七圓
 蹄鐵工 自十二圓至四十圓
 第十條 初メテ皇宮警手ニ採用スル者ノ俸給ハ十四圓以下トシ受授員膳手及仕人ニ採用スル者ノ

俸給ハ十二圓以下トス
 判任待遇以上ノ官職ニ在ル者又ハ在リタル者ヲ皇宮警手ニ採用スル場合及等外以上ノ官職ニ在
 ル者又ハ在リタル者ヲ受授員膳手若ハ仕人ニ採用スル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ
 前官職ノ俸給額ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十一條 判任待遇及等外ノ職員ハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ増俸スルコトヲ得ス
 第十二條 増俸ハ判任待遇職員ニシテ年俸ヲ賜フ者ニ在リテハ三十六圓以內月俸ヲ賜フ者及等外
 職員ニ在リテハ三圓以內トス
 第十三條 宮内官官等俸給令第六條第十條乃至第十四條第十七條乃至第十九條ノ規定ハ本令ノ職
 員ニ之ヲ準用ス
 附則
 本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十年宮内省令第六號ハ之ヲ廢止ス
 (參照)
 明治四十年十一月 宮内省令第六號ハ准判任待遇等外宮内職員職制ナリ

○外務省令第三號
 明治四十年三月外務省令第一號外國旅券規則中左ノ通改正ス
 明治四十二年五月四日 外務大臣 伯爵小村壽太郎
 第十條中但書ヲ削ル
 第十九條中二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ヲ「百圓以內ノ罰金若ハ科料又ハ三月
 以下ノ懲役若ハ拘留」ニ改メ同條末號ノ規定ヲ左ノ通改ム

一 本令ニ依リ旅券ヲ返納スヘキ場合ニ之ヲ返納セシメテ使用シ又ハ事實ヲ偽リテ旅券紛失ノ旨ヲ届出テタル者

〔參照〕

外務省令第一號外國旅券規則(明治四十年三月十五日)抄錄
第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ旅券ノ下付ヲ受クルコトヲ得ス但シ第二號ニ該當スル者ハ清國又ハ韓國ニ旅行セムトスル場合ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラス
一 豫戒命令中ノ者
一 清國又ハ韓國在留禁止命令中ノ者
第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス
一 第二條第一項各號ノ事項ヲ詐稱シ又ハ第十條各號ノ一ニ該當スル者其ノ事實ヲ申告セス其ノ他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券ノ下付ヲ受ケタル者及之ヲ幫助シタル者
一 他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其ノ他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幫助シタル者
一 本令ニ依リ返納スヘキ旅券ヲ返納セシメテ使用シタル者

○外務省令第四號

明治四十年^六外務省令第三號移民保護法施行細則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月四日

外務大臣 伯爵小村壽太郎

第五十六條中「五圓以上二十五圓以下」ヲ「二十圓以上百圓以下」ニ改ム
第五十七條中「二圓以上十圓以下」ヲ「十圓以上五十圓以下」ニ改ム

〔參照〕

外務省令第三號移民保護法施行細則(明治四十年六月八日)抄錄
第五十六條 第六條第十條第十三條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十八條、第二十一條、第二十二條、第二十四條第一項、第二十五條、第二十七條、第二十九條、第三十條、第三十一條、第四十三條、第四十四條又ハ第五十二條ニ違反シタル者ハ五圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○外務省令第五號

外國在留帝國臣民登錄規則左ノ通定ム

明治四十二年五月七日

外務大臣 伯爵小村壽太郎

外國在留帝國臣民登錄規則

第一條 外國ニ在留スル帝國臣民ハ其在留地到着後七日以内ニ左ノ事項ヲ所轄在外公館ニ届出ツルコトヲ要ス
一 氏名及生年月日
但シ氏名ニ付テハ其ノ讀方ヲ明示スヘシ
二 本籍族稱及職業
三 在留地
但シ本人ニ對スル郵便物ノ配達セラルヘキ宛名ヲ明示スヘシ
四 在留地到着ノ年月日
第二條 本令ノ規定ニ依リ届出テタル事項中ニ異動ヲ生シタルトキハ届出義務者ハ其ノ異動後七日以内ニ之ヲ所轄在外公館ニ届出ツルコトヲ要ス
第三條 本令ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者所轄在外公館ノ管轄區域外ニ轉住シ又ハ歸國スルトキハ其ノ出發前之ヲ該在外公館ニ届出ツルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ滿一年以内ニ再ヒ前在留地ニ歸著スルトキハ先ニ本令ノ規定ニ依リ同地所轄在外公館ニ届出タル事項ニ異動ナキ限リ届出ヲ省略スルコトヲ得但シ其ノ歸著ノ事實ハ七日以内ニ之ヲ該在外公館ニ届出ツルコトヲ要ス

居出人他ノ在外公館ノ管轄内ニ轉住スルトキハ第一條ノ規定ニ依リ該在外公館ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 妻又ハ未成年ノ子ニシテ夫又ハ親ト同居スルトキハ夫又ハ親ヨリ前數條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 在外公館ニ於テ本令規定ノ届出ヲ受理シタルトキハ在留帝國臣民登録簿ニ其届出事項ヲ登録ス在外公館長ハ之ヲ登録スルニ付キ證明ノ爲メ必要ト認ムルトキハ届出人ヲシテ旅券、戸籍謄本又ハ其他ノ文書ヲ提出セシメ且一名又ハ數名ノ證人ヲ立テシムルコトヲ得

在外公館長ハ其ノ適當ト認ムル帝國臣民ノ團體ヲシテ前項ノ證人ヲラシムルコトヲ得

第六條 前條ノ登録ニ付テハ手數料ヲ徴收セス但シ在外公館長ハ本令規定ノ届出期間經過ノ後届出ヲ爲シタル者ニ對シ登録手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第七條 在外公館長ハ本令規定ノ届出ヲ怠リタル者ニ對シ在留證明其他一切ノ證明ヲ拒否スルコトヲ得虚偽ノ届出ヲ爲シタル者及之カ證人タル者ニ對シテ亦同シ

第八條 在外公館長ハ利害關係人ノ申請ニ依リ手數料ヲ徴收シテ在留帝國臣民登録簿ノ謄本ヲ付與スルコトヲ得

第九條 本令ハ條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ノ駐在スル地方ニ適用セ

第十條 本令ニ於テ在外公館ト稱スルハ帝國總領事館又ハ領事館ヲ謂ヒ帝國總領事館又ハ領事館ノ管轄區域ニ屬セサル地方ニ於テハ帝國大使館又ハ公使館ヲ謂フ

附則

第十一條 本令ハ明治四十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前外國ニ在留スル帝國臣民ハ明治四十三年三月三十一日マテニ本令ノ規定ニ準シ届出ヲ爲スコトヲ要ス

○内務省令第十五號

明治四十二年法律第四十一號新聞紙法第十二條第三項ニ依リ管轄地方官廳ニ納ムヘキ保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價證券ノ種類左ノ如シ

明治四十二年五月六日

内務大臣 法學博士男爵平田東助

- | | | | |
|------------|------|-------------|------------|
| 國債證券 | 勸業債券 | 日本興業銀行債券 | 山陽鐵道株式會社株券 |
| 關西鐵道株式會社株券 | | 九州鐵道株式會社株券 | 參宮鐵道株式會社株券 |
| 總武鐵道株式會社株券 | | 北海道鐵道株式會社株券 | 西成鐵道株式會社株券 |
| 阪鶴鐵道株式會社株券 | | 京都鐵道株式會社株券 | 北越鐵道株式會社株券 |
| 房總鐵道株式會社株券 | | 七尾鐵道株式會社株券 | 德島鐵道株式會社株券 |
- 前項各證券ノ價格ハ國債證券ヲ除クノ外各地方ニ於ケル前月中ノ平均市場價格ノ十分ノ八ノ額トス但シ取引所ナキ地方ニ在テハ最近取引所ニ於ケル取引價格ニ依ル

○大藏省令第三十一號

明治四十二年三月三十一號中左ノ通改正ス

明治四十二年五月一日

大藏大臣 侯爵桂太郎

專賣支局管轄區域表中函館專賣支局ノ項北海道ノ下ニ「樺太」ヲ加フ
專賣支局出張所名稱位置中函館ノ欄釧路出張所ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
——樺太出張所——樺太豐原

附則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第三十二號
樺太ニ於ケル煙草小賣人指定方左ノ通相定ム

明治四十二年五月三日

大藏大臣 侯爵桂太郎

明治四十二年五月三日勅令第二百一十一號施行ノ際樺太ニ於テ現ニ煙草ノ小賣ヲ業トスル者ハ煙草專賣法第二十二條ニ依リ政府ノ指定シタル煙草小賣人ト看做ス
前項ノ煙草小賣人ハ明治四十二年八月三十一日迄ニ其ノ營業所、住所及氏名ヲ函館專賣支局樺太出張所ヲ經由シテ專賣局長官ニ申告スヘシ此ノ場合ニ於テハ專賣局長官ハ當該申請人ニ對シ煙草小賣人指定書ヲ交付ス
前項ノ申告ヲ爲ササル者ハ明治四十二年八月三十一日限り廢業シタル者ト看做ス

附則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第三十三號

鐵道院用品供給ノ競争ニ加ハラムトスル者ハ會計規則第六十九條第一項ニ定ムル資格ノ外尙左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治四十二年五月三日

大藏大臣 侯爵桂太郎

- 第一條 個人ニ在リテハ左ノ區別ニ從ヒ直接國稅ノ納稅者タルコトヲ要ス
 - 一 一口ニ付各自見積代金二千圓未満 納稅年額十圓以上
 - 二 一口ニ付各自見積代金五千圓未満 納稅年額二十五圓以上
 - 三 一口ニ付各自見積代金一萬圓未満 納稅年額五十圓以上
 - 四 一口ニ付各自見積代金二萬圓未満 納稅年額百五十圓以上
 - 五 一口ニ付各自見積代金五萬圓未満 納稅年額二百圓以上

六 一口ニ付各自見積代金五萬圓以上 納稅年額二百五十圓以上

第二條

法人ニ在リテハ其種類ニ依リ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

- 一 合名會社及合資會社ニ在リテハ出資額カ各自見積代金ノ二倍以上ナルカ又ハ無限責任社員ノ一人第一條ノ資格ヲ備フルコト
 - 二 株式會社ニ在リテハ株金ノ拂込濟額カ各自見積代金ノ二倍以上ナルコト
 - 三 株式合資會社ニ在リテハ株金ノ拂込濟額ト出資額トノ總額カ各自見積代金ノ二倍以上ナルカ又ハ無限責任社員ノ一人第一條ノ資格ヲ備フルコト
 - 四 民法第三十五條ニ依リ設立シタル社團法人ニ在リテハ其ノ準スヘキ會社ト同一ノ資格ヲ備フルコト
 - 五 外國會社ニ在リテハ規定ノ登記ヲ了シタルモノニシテ前各號ニ掲ケタル會社ト同種ノモノ又ハ最モ是ニ類似セルモノト同一ノ資格ヲ備フルコト
- 第三條 印刷物帳表類供給ノ競争ニ加ハラムトスル者ハ第一條及第二條ニ掲グル資格ノ外左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス
- 一 印刷及製本ノ工場ヲ有シ蒸氣、電氣若ハ瓦斯ニヨル原動機ヲ備ヘ職工三十人以上ヲ使用スルコト但シ工場所有權ノ登記ヲ入札前三箇月以内ニ行ヒタル者ハ入札ノ資格ナキモノトス
- 附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十六年四月遞信省令第十九號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十六年四月遞信省令第十九號ハ鐵道作業局ノ印刷物帳表類供給競争者資格ノ件ナリ

○大藏省令第三十四號

明治三十八年^二大藏省令第四號煙草賣捌規則中左ノ通改正ス
明治四十二年五月七日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第二十五條別表中函館專賣支局小樽出張所ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

函館專賣支局 榊太
小樽出張所 榊太

附則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第三十五號

明治四十二年^四大藏省令第二十七號煙草賣捌規則中左ノ通改正ス
明治四十二年五月十八日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第三十一條別表中函館專賣支局小樽出張所ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

函館專賣支局 榊太
小樽出張所 榊太

附則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第三十六號

明治三十五年^三大藏省令第五號島嶼在勤者月手當給與細則中左ノ通改正ス
明治四十二年五月二十二日

大藏大臣 侯爵桂太郎

第一條中「千島國擇捉島」ヲ削ル

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ
他ニ轉勤又ハ轉任ノトキハ其ノ辭令到達ノ當日迄支給ス

〔參照〕

大藏省令第五號島嶼在勤者月手當給與細則(明治三十五年三月二十七日)抄録
第一條 月手當ハ別表ニ據リ左ノ島嶼ニ在勤スル者ニ之ヲ給ス

○陸軍省令第八號

徵兵事務條例施行細則中左ノ通改正ス
明治四十二年五月六日

陸軍大臣 子爵寺內正毅

第一條第一項ニ左ノ三號ヲ加フ

騎兵第三旅團^{騎兵第八聯ノ兵員} 第二師管第八師管^{第十三師管}

騎兵第四旅團^{騎兵第十九ノ兵員} 第三師管^{第九師管第十五師管}

旅順及鎮海灣重砲兵隊ノ兵員 第四師管^{第五師管}

第一條ノ二中「交互之ニ充テ」ノ下ニ「第二師管第八師管及第十三師管ノ騎兵並」ヲ加フ

第三條第一項中「前年假決ノ人員」ノ下ニ「^{逃亡失踪所在不明ノ爲假決ニ屬スル者ニシ}テ七箇年ヲ過キ尙所在不明ナル者」ヲ加フ

第十一條第一項但書中「騎兵」ノ下ニ「電信隊兵」ヲ加フ

第二十一條中「讀書算術ヲ能クシ且」ヲ削ル

第三十五條 入營兵集合地ハ第七師管以外ヨリ徵集スル第七師團兵ニ在リテハ青森 臺灣澎湖島

第三十六條中「當該隊長」ヲ「當該隊長、鎮守府兵事官」ニ改ム

第三十七條第一項中「附表ニ掲クル諸兵入營ノ期ニ先チ當該師團司令部、臺灣總督府被服本廠同支

廠及鎮守府」ヲ「第二十五條ノ兵員入營ノ期ニ先チ第七師團司令部、臺灣總督府陸軍部、關東都督府陸

軍部、韓國駐荷軍司令部ニ、同條第二項中「臺灣澎湖島」ヲ「臺灣澎湖島、旅順及鎮海灣」ニ改メ、
第三十八條中「各隊長」ヲ「當該隊長、鎮守府兵事官」ニ改メ、

第四十條ニ左ノ一項ヲ加フ

聯隊區司令官又ハ警備隊司令官條例第四十七條ニ依リ兵役ヲ免スル場合ニハ其ノ診斷證書ハ師團軍醫部長ノ審査ヲ經ヘキモノトス

第四十條ノ二 臺灣、澎湖島、旅順及鎮海灣ニ在ル軍隊ニ入營スル兵員ハ集合地ニ於テ身體検査ヲ施行ス

前項身體検査ノ爲集合地所管ノ師團長ハ所管内ノ軍醫一名ヲ臨時集合地ニ差遣スヘシ但シ受領員中ニ軍醫アルトキハ此ノ限ニ在ラス

集合地ニ於テ身體検査ヲ行フ爲必要ノ事項ハ受領員ヲ派遣スル部隊ヨリ之ヲ關係師團長ニ通報スヘシ

第四十條ノ三 現役兵入營ノ際施行スル身體検査及前條集合地ニ於テ施行スル身體検査ニ於テ傷痕若ハ疾病ノ爲二箇月以後ニ非サレハ教育ヲ施スヲ得スト認ムル者アルトキハ當該隊長、被服本廠長、同支廠長若ハ鎮守府兵事官又ハ入營兵受領員之ヲ歸郷セシメ其ノ旨ヲ本籍地所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報スヘシ但シ警備隊兵ニ在リテハ一箇月以後、輜重輸卒ニ在リテハ十日以後ニ非サレハ教育ヲ施スヲ得スト認ムル者ヲ歸郷セシムルモノトス

前項ニ依リ歸郷セシメタル者ハ徵兵令第二十七條ニ該ル者トシテ取扱フヘシ

第四十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ轉籍者二人以上アリテ比例ニ依リ算出シタル番號同一ナルトキハ第二十二條第一號割註

ニ準シ徵集順序ヲ定ムヘシ

第五十條 本籍徵募區以外ノ地ニ於テ身體検査又ハ抽籤ヲ爲シタル者ノ名簿條例第三十一條ノ處分迄ニ到達セサルトキハ其ノ年ニ於ケル検査又ハ抽籤ノ成績ニ依リ翌年假決若ハ終決ノ處分ヲ爲スヘシ但シ丙種、丁種及戊種ノ者ニ在リテハ條例第三十一條ノ處分後到着シタルモノト雖徵兵事務報告書進達前ニ在リテハ其ノ年終決ノ處分ヲ爲スヘキモノトス

第五十四條 現役兵又ハ補充兵ニシテ一年志願兵ニ採用セラレタル者一年志願兵ノ資格ヲ失ヒタルトキハ入營前ト入營後トヲ問ハス現役兵ニ在リテハ直ニ之ヲ徵集シ補充兵ニ在リテハ補充兵役ニ服セシム但シ其ノ現役兵ニシテ條例第四十六條第一項ノ補充期間ニ入營セシメ得サル者ニ在リテハ徵兵令第二十七條該當者ノ例ニ依リ取扱フモノトス

第五十五條 聯隊區司令官、警備隊司令官ハ一年志願兵志願者ノ人名簿ヲ調製シ第五十四條ニ依ル取扱ノ資ニ供スヘシ

第五十七條中「第十二、第十八師團司令部及臺灣總督府」ヲ「第八、第十二、第十五及第十八師團司令部及臺灣總督府陸軍部」ニ、但シ第七師團ヲ「但シ第七師團及臺灣總督府陸軍部」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

關東都督府陸軍部及韓國駐荷軍司令部ハ前項ニ準シ第三十七條第二項ノ入營期日ヲ當該師團司令部ニ通報スヘシ

附表 削除
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス